

Title	KJ法における作法の研究
Author(s)	三村, 修
Citation	
Issue Date	2005-03
Type	Thesis or Dissertation
Text version	author
URL	http://hdl.handle.net/10119/537
Rights	
Description	Supervisor:宮田 一乗, 知識科学研究科, 修士

修 士 論 文

KJ 法における作法の研究

北陸先端科学技術大学院大学
知識科学研究科知識社会システム学専攻

三村 修

2005 年 3 月

Copyright 2005 by Osamu Mimura

目 次

第1章 はじめに	
1-1 研究の背景	1
1-2 研究の目的	2
1-3 研究の方法	3
1-4 関連研究	4
第2章 KJ法とは	
2-1 KJ法の創案者	12
2-2 KJ法創案の背景	12
2-3 KJ法作法	12
第3章 KJ法作法との出会い	
3-1 オリジナルラベル操作	13
3-2 誤ったラベル操作	16
第4章 大量ラベルシミュレーション	
4-1 早稲田KJ研究会	20
4-2 JAISTインターンシップ研修	38
第5章 22枚シミュレーション	
5-1 グループ創造技法体験研修会	51
5-2 再挑戦	56
第6章 ビジュアル	
6-1 ビジュアル条件	65
6-2 ビジュアル&手作業シミュレーション	65
6-3 感想まとめ	66
第7章 リアルタイムシミュレーション	
7-1 リアルタイムシミュレーション	69
7-2 架け橋	72
第8章 ラベル集め傾向可視化	79
第9章 結 論	83
謝辞	90
参考文献	92

目次

図1 KJ 法作法と型の位置	5
図2 四国移動大学キャンパス風景	13
図3 筆者のラベル集め	13
図4 川喜田二郎博士の野外講義風景	14
図5 ラベル集め 黄色同士を近いと感じる	15
図6 入れかえて重ねる	15
図7 黄色を近いと感じる	16
図8 枠外に出す。黄緑を近いと感じる	16
図9 枠外に出す	16
図10 「現場取材の心得」元ラベル	21
図11 「現場取材の心得」図解オリジナルを電子化したもの	22
図12 「現場取材の心得」手作業シミュレーション作業中	22
図13・14 シンボルマークによる空間配置作業	23
図15 図解化ラベル展開	24
図16 図解仕上げ	24
図17 ホワイトボードへの点メモ花火	26
図18 探検ネットおよび多段ピックアップ	27
図19 グループ KJ 法土俵	27
図20 表札作りを点メモ花火で	27
図21 初めての表札づくりに興奮	27
図22 多段ピックアップによる25枚の抽出意見	27
図23 やがて送られてきた反省点メモ花火	28
図24・25・26・27・28・29 「現場取材の心得」図解化	33
図30 手作業 手引書と首っ引きで	38
図31 シンボルマークによる空間配置の説明をする	39
図32 右図解の説明風景	39
図33 シンボルマークによる空間配置	39
図34 島ごとの図解化	39
図35 床に空間配置	39
図36 ユニーク階層図解	40
図37 シンボルマーク図解	43
図38 図解制作中	47

図 39	関係がよく練り上げられた図解	47
図 40	2 サイクルの討論により、得られた意見数は期せずして108枚	48
図 41	立体表現	49
図 42・43・44・45・46	シンボルマーク空間配置	50
図 47	筆者説明風景	52
図 48	「死して何を残すのか」手作業紙教材	54
図 49・50	「死して何を残すのか」作業手順	55
図 51	「死して何を残すのか」図解	56
図 52	図解化に取り組み風景	56
図 53	川喜田二郎博士夫妻と早稲田 KJ 研究会メンバー	58
図 54	マジカルナンバー7を花火図解で試みた作品	59
図 55	統合型花火と KJ 法の比較表	60
図 56	探検型花火実習風景	61
図 57・58・59	表札づくり	62
図 60	空間配置	62
図 61	図解化	62
図 62・63	図解化	63
図 64	「死して何を残すのか」手作業シミュレーション図解	64
第 65	「伝統文化を生かした商品開発」階層図解	66
図 66	「伝統文化を生かした商品開発」手作業シミュレーション	68
第 67	グループ KJ 法の基本的土俵とラベル配り	69
第 68	三村式グループ KJ 法リアルタイム個人作業シミュレーション方式	70
図 69	三村式グループ KJ 法 早稲田 KJ 研究会	70
図 70	グループ KJ 法 + 個人 KJ 法	72
図 71	ラベル集め傾向一覧可視化	79
図 72	シミュレーション活用手順例	83
図 73	シミュレーション活用例略図	84

第 1 章 はじめに

1.1 研究の背景

本研究の対象である KJ 法は、筆者が大学の卒業研究におけるインタビューデータの処理ができず、挫折したときに読んだ『知的生産の技術』[1]で知った。

ばらばらの素材のまとめ方において、異質のデータから発想する方法として、理論と実技を洗練された技法にまで高め体系化したのが川喜田二郎創始の KJ 法であるという紹介に、筆者はこれこそ求めていたものであると直感した。

『発想法』[2]であつかう「発想法」は一般的な発想法ではなく、川喜田自身が考え出した発想法に限られ、位置づけたものであると川喜田は断っている。

Raymond Scup[3]は、川喜田をエスノロジスト(ethnologist)と紹介しているが、地理学から出発し民俗学へ傾斜していった川喜田の関心の中心は、地理学と民族学の接点である民族地理学(ethnogeography)である。

異国の異民族の中で暮らしながらフィールドワークで得た多種多様なデータを、同質の要約ではなく異質の統合で啓発的にまとめることを強く志向した川喜田は、1951年にKJ法の原理を発見した。この原理を一般人が学べる体系にまで仕立てたものが1967年初版の『発想法』である。

『発想法』と同年に出版されたグラウンデッド・セオリー(Glaser, B.G & Strauss, A.L. 1967)[4][5][6][7]も定性的データ処理方法論である。KJ法と比較すると、取材データをベースにしているとはいえ川喜田の目指す異質のデータの統合ではなく、概念カテゴリー化から抜け出ていない。

筆者は、1971年に開催された四国移動大学[8]で初めて KJ 法を体験した。しかし、ほとんど理解できないままに終わった。KJ法は難しいと思った。幸いだったことは、生の取材の醍醐味を味わった1泊2日のフィールドワーク体験であった。この体験がその後の KJ 法研究を続けさせる原動力になっている。

移動大学の生活に慣れたころ、川喜田のテントを覗いた。そこで見た創始者のラベル操作は、教わったものとは違っていた。これが本研究の起点となっている。

多くの研修を受講しつつ、KJ法を学びやすくする方法はないものかと考えるようになった。腕が上がり、教えるようになったが、教えることも難しい。

ここ数年は、縁あって大小取り混ぜて20件近い研修をこなした。企業人と

KJ法をめぐる議論もした。誤ったKJ法ばかりが広がっているということを知った。ラベルを使えばKJ法であるという程度の認識であった。異質の統合に至る作業手続き、すなわち作法がまったく伝わっていないことを確認した。

KJ法を研究方法の柱としている永延[9]は、整い過ぎているくらいの体系が逆にその本質的意味を容易に伝えにくくしているのではないかと指摘している。しかし、その体系に沿わなくてはKJ法としての原理である異質の統合とはなりえない。誤ったKJ法と正則なKJ法は、構造的にも作業工程においても、まったく異なっているからである。

作法がまったく伝わっていないという確認から、KJ法学習におけるつまづきの大部分がここに端を発していると確信し、作法をシンプルで効果的に伝える方法を創案し、研修会で試しながら改良をつづけた。

つまづきの多くを解消できる方法をつくりだすことによって、初心者にとってKJ法が取り組みやすいものとするのと、誤ったKJ法の誤解を速やかに解くことを目指してきた。

1.2 研究の目的

本論文では、以下の4つの試み、1)テキストベースのビジュアル・シミュレーション、2)手作業のテキストベースのシミュレーション、3)グループKJ法作業をリアルタイムになぞる個人作業シミュレーション、および、4)ラベル集めの傾向が一覧できる可視化について提案する。

KJ法学習上のつまづきには、次のようなものがある。

元ラベルの表現(訴え性のある表現)ができない。

ラベル集めに際して、世界内的姿勢がとれない。

ラベル集めのときのラベル操作がわからない。

関係性を欠いた知識教養のために、ラベル間の距離感が掴めない。

表札をつけても、一枚のラベルとして扱うことができない。下位ラベルを覗きながらラベル集めをしてしまう。表札作りの良し悪しと関係。

表札づくりができない。

図解化の手順がわからない。

グループKJ法と個人KJ法との違い(基本的には同じ)が分からない。

同質と異質のデータの違いが分からない。

KJ法は分類や分析であるという通念が邪魔する。

元ラベルとなるデータの取材(希薄な問題意識と関係)ができない。
KJ法図解と、平面空間配置図解との区別がつかない

これらのつまづきの多くを解消できるツールとして、本論文提案の4方法の有効性を研修会で試してきた。

1) テキストベースのビジュアル・シミュレーションは、本を意識した紙ベースの簡易なものにすることを条件に、上記の20枚のラベルをベースに、パワーポイント上に狭義のKJ法1ラウンドをすべて再現した。川喜田から直接学んだ重要な作法も組み入れられている。

本シミュレーションは、手作業シミュレーションと組み合わせて試してみた。

2) 手作業のテキストベースのシミュレーションの試みは、2つに分けられる。

その1つは、73枚の大量の元ラベルの手書き作業によるものである。

大量であることが、ラベル操作を学ぶという当初の目的以外に何らかの効果があるかどうか観察した。

もう1つは、1時間でKJ法作業を体験できることを条件にしたものである。KJ法の階層性を損なうことのないラベル数は、体験上最低限20枚である。少ない枚数は、どこまでどのような効果が上がるか観察した。

3) グループKJ法作業をリアルタイムになぞる個人作業シミュレーションは、初心者の時期に考えた方法である。この方法により、グループ作業における全体感の欠落をなくすことができ、グループKJ法と個人KJ法は別物であるという誤解を解くことができているかどうか、観察した。

4) グループKJ法作業をリアルタイムになぞる個人作業シミュレーションは、グループ作業から個人作業に切り替えが可能である。その結果、同じ条件の下にラベル集めの傾向を把握することが可能になり、傾向の一覧可視化ができるようにした。全体感からくる意味の相対的近さをひとはどのように捉えるのかを研究する知識科学的アプローチとしての有効な方法として寄与できるのではないかと考える。

本論文で提案する4つの試みは、いずれも初の試みとなる。

1.3 研究の方法

本論分で提案する4つの試みは、KJ法研修という実践の中で生まれ育ったものである。

さまざまな工夫の実践は、ある意味では実験と考えられなくはない。しかし、評価実験のように、条件を規定した実験ではなく、参加者との丁々発止のやり取りから、筆者が感じ、考え、考案したものである。したがって、考察も、筆者の体験の部分が極めて大きい。しかし、実践で培った実感というものはそれなりに鋭いものがあり、本研究では、その部分に大きく頼っている。

KJ法研修は、写真と録音で記録してある。

多くの写真の記録、研修時間をほぼ網羅した録音、千数百通を越える電子メールでのやり取り、その時々取材記録をもとに、ターニングポイントとなる研修会を俎上に載せ、参加者とのいかなるやり取りが、いかなるハプニングが、いかなる閃きが、いかなる葛藤や喜びがこれらを生み出したのかを考察する。

ターニングポイントとなった研修会を以下に記す。

「早稲田 KJ 研究会」：2003年4月、5月、6月、7月、10月

「JAIST インターンシップ研修」：2003年8月5日～9日

「グループ創造技法体験研修会」：2004年8月27・28日

「JAIST オープンセミナー：創造的人材を育成するグループ創造技法」：

2004年11月28日

これら意外にも、ヒントとなる研修会はある。それらについては、随時取り上げることとする。

1.4 関連研究

図1は、本研究の位置を示したものである。

筆者が本研究において「作法」とした理由は、「型」は、ときとしてところを伴わないイメージがあるが、KJ法の型は脳のあらゆる部分を効率よく使うように導いている感じがあり、それが茶道の流れるような作法を思いおこさせるからである。

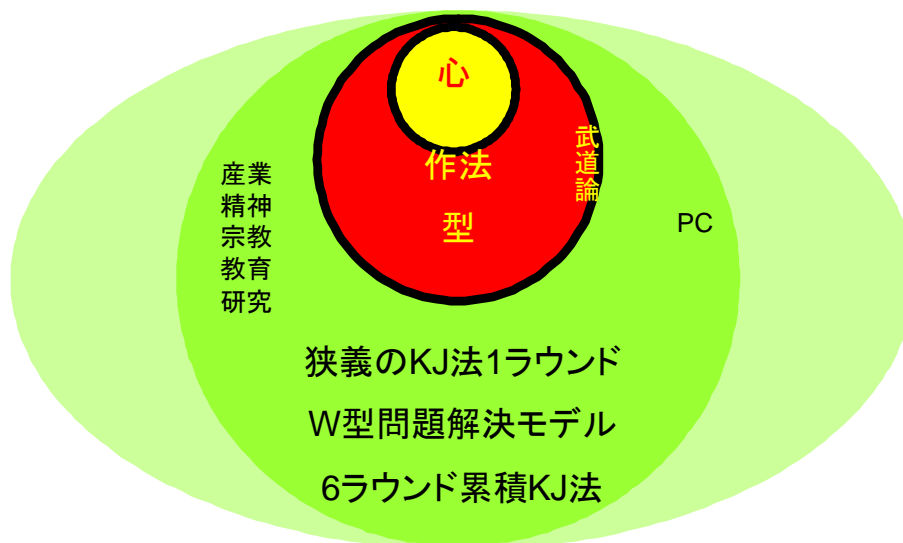


図 1 本研究の位置づけ

KJ 法上達において、KJ 法作業はスポーツ的であるとして、武道における上達法をベースに永延が論じている[10]。

永延は、野外科学的方法(講義の KJ 法)を学ぶ決心をしたとき、思想と技法が切り離せないものであるが、KJ 法はよく体系づけられていて、自然に発想しやすい思考方法や思想となっており、技法そのものを習得することで、発想試行や思想につながると見抜き、技法の技化に専念することにした。

川喜田研究所の研修を受講するだけでなく、南郷継正の武道理論に則って「技を身につける」視点で鍛える手順を構造化した。理由は、KJ 法のような見えにくいソフトな方法を技化する際に見落としがちな意識作業を重要視したからである。

永延は、KJ 法を見えにくいソフトな方法と指摘している。本を読んでも分からないという訴えをよく聞くが、このあたりと関係していると思われる。研修において、筆者は作法の重要性を訴え、作法が導くさまざまな意識の働きをどのように感じたかを記憶しておくように指導している。

永延は、KJ 法は主観的で客観性がないという俗流批判について、竹内均の KJ 法評価「天才の独創プロセスを一般化した発想方法が KJ 法である。」を取り上げている。

天才は、無数の断片(個別)からいきなり独創的な仮説(普遍)を打ち立てる。しかしこれには、天才の驚異的な直感があってはじめて可能である。しかし凡人

でも KJ 法の方法なら独創を生み出せる。断片データから小・中・大グループへとまとまるところ(特殊)からまとめあげていくプロセスが、KJ 法では、明確に方法化されているからである。さらに KJ 法でのラベル集めのキーワード<親近感>と、デカルト「方法序説」やポアンカレ「科学と方法」における<審美的感受性>は、非常によく似た判断だと、竹内氏は、思っている。それは、手持ちの材料を使い切って描かれるイメージであり世界観である。

<中略>

天才的発想プロセスと KJ 法とには、共通性があるという本質的認識が、技の<極意>レベルを憧憬する者にとり深い励みになる。

永延は、KJ 法技法の有用性を喝破している。

永延に限らず、KJ 法の型の重要性を見抜いて、KJ 法を自在に使いこなしている人物も少なからずいる。以下に、その例を記す。

KJ 法を最初期に認め、自社の活動に取り入れたのは、元三菱樹脂(株)技術本部長青木貞巳[11]である。

KJ 法を最初に受け入れたのは産業界であった。『発想法』の出版以前のことである。当時の産業界は、QC サークル活動が主流であった。

青木は、ブレインストーミングの欠点を改善し、対話発想を加えて三菱樹脂式ブレインストーミング(以下 MBS)を創案した。これは KJ 法の死命を制するほどの大きなつまづきの一つである元ラベル表現と関係する。

青木は MBS について、以下のように述べている。

この MBS の方式は、長い間の試行錯誤の結果に生まれたものである。オズボン B S は参加人数 8 名から 12 名が適当であり、MBS は 17 名前後で 1 人当たりのアイデア件数が最大になる。熟練するにつれて、人数は減少してもよいアイデアが出るようになる。3 人でもできる。さらに後述のように一人 MBS という方式もある。また教育講習会では 12 名がよい。

MBS による元ラベルの質のレベルが格段に高いのである。このベースがあったからこそ、紙切れ法という名でまだ研修システムもなかった時代に、川喜田から KJ 法の話を知りただけで数日で懸案事項を紙切れ法で作ることができた。当時はまだ一枚の紙に意見やアイデアを箇条書きにしていたのだが、川喜田の話から、意見やアイデアを単位化することに意味があることを瞬時に覚った。良質の元ラベルと単位化が成功の決定的要因であった。

QC サークル活動に使われる7つの手法は、1)特性要因図、2)パレート図、3)ヒストグラム、4)チェックリスト、5)グラフ、6)管理図、7)散布図をいう。

「QCサークルの推進委員は古参の職長によって構成されている。あるときQCサークル手法のうちで、特性要因が単なる分類であることに不満を感じ、是非KJ法を教えて欲しいとの強い要望があった。〈中略〉そこで当社流のホッチキスとコピーを使用する方法が生まれた。」

順次指導制を徹底し、千人にKJ法を習得させた。講習会に使用するテキストは、KJ法図解で書かれたとある。文献には図解がないが、分かりやすいテキストであったと推測できる。

青木のQC活動活性化成功要因は、高いMBSにより質の高い元ラベルが得られたうえでKJ法と組み合わせたことと、KJ法作法を忠実に実行したことである。

精神医療関係でKJ法を実用化したのは、森田療法にKJ法を応用させた精神科医の丸山晋[12][13]である。

著書『精神保健とKJ法』の第1部心の問題解決で次のように述べている。

ここでは「心の問題解決」としてのKJ法を扱っている。かつて土居健郎先生が著者に「すべてのサイコセラピーは問題解決だ」とおっしゃったことがある。

森田療法家として出発した著者にとっては、最初KJ法の森田への応用が念頭にあった。同時にKJ法独自のサイコセラピーとしての価値を追求したいと思っていた。その両者の目的はほぼ満たされたといつてよい。この部分は本書の一番重要な部分と考えている。

KJ法は、狭義のKJ法1ラウンドとW型問題解決モデル6ラウンド累積KJ法とに分けられる。丸山は、W型問題解決モデルを治療に応用させた。6ラウンドを貫徹した患者は、すべて完治している。

筆者がKJ法の型を作法と呼ぶ理由はここにある。KJ法の型は極めて原始的(川喜田との会話で聞いた)である。複雑な型は、それを覚えるだけで精神疲労を起こす。心を本質に導く型は、極めて単純である。KJ法の型は、心の全身運動を引き起こす。

KJ法を知らない患者にどのようにKJ法を教えるのかを聞いた。簡単な事例を見せて読ませるだけだという。6ラウンド累積KJ法の1ラウンドは問題提起ラウンドである。この初回のときに一緒に作業を進めながら教えていく。

KJ法図解の完成度はどの程度かという質問に、「作業をしている間や、図解を前にすると、患者との対話がスムーズに進むことのほうが重要」と答えた。

図解があると、面と向かい合って対話をする必要がなく、図解が仲立ちとなるので、対話が促進されるということであった。丸山は、対話によって患者が多様な意見を出しやすくしている。

著者は、かつて「森田療法におけるKJ法の活用」と題する論文(17)で、KJ法の効用を10項目にまとめた。

また、他の場所(18)で、KJ法が治療者にとりどのような価値があるかを論じた。その項目をあげると、

- ① 記録が必ずのこる。
- ② 面接を再現しやすい。
- ③ 治療の行程を確認しやすい。
- ④ 次の段取りをくみためやすい。
- ⑤ 余裕をもって面接場面に臨める。
- ⑥ 情緒的な問題を処理しやすい。(転移など)。
- ⑦ 他の人の意見も導入しやすい。
- ⑧ 事実と解釈をはっきりさせやすい。
- ⑨ 緩急、濃淡を考慮しながらやってゆける。
- ⑩ 患者自らが作業をやることにより、ことがはかどる。

丸山が患者をリードしているが、患者もKJ法作法を共通のものとしていることが重要な点である。狭義のKJ法一ラウンドも6ラウンドKJ法も、型と作法が決められている。その流れに共に乗っていくことで完治に至るのである。

「図解は心のCTスキャンである」は、丸山のインタビューで印象的に残っていることばである。

KJ法は仏教の技術科であると喝破したのは桐谷征一[14]である。

宮沢賢治の法華経世界の研究で、文献を獵歩し、1300枚の元ラベルを得た。2cm×6cmのKJ法ラベルがピッタリと入るファイルを使って携帯できるようにし、いつでもどこでもラベル集めができるように工夫した。この工夫が、コンピュータ画面の制約を打ち破った。桐谷は、こんなエピソードの持ち主でもある。

KJ法は仏教の技術化であると喝破した桐谷師は、次のように述べている。

告白するが、私はそれまでどこでだれに学んだよりも、KJ法に出会って始めて、仏教存在の本質にふれ得たような気がする。仏教は、どこまでも「人間」がテーマ

であるが、「己をむなしくして、データそれ自身をして語らしめよ」の KJ 法の精神と実践は、それら「縁起」の科学をささえる原点というべきであろう。

桐谷は、釈迦の悟りを「神」の啓示によるものではなく、人間としての自分自身の智慧によって得たものであることは確かであるという。それは、6ラウンド累積 KJ法のステップと同じステップを辿ったのではないかと推測し(信じ)ている。もしも、もしも釈迦が KJ法の技法を知っていたならば、釈迦のテーマである「人間の苦は、いかに解決したらいいのか」について、脳裏にはありとあらゆるデータが広げられ、禅定が進むにつれてデータの統合化が進み、12束になったときに悟りが開けたのではないかという。

とくに注目すべきは、KJ法では六ラウンド、仏教はこのように四ラウンドに表現するが、両者が問題解決にあたるその基本的な世界観と、実践の手順はまったくオーバーラップして認められる点である。

狭義の KJ法一ラウンドと6ラウンド累積 KJ法の型があるからこそ、そしてこの型が人間の普遍的思考方法を示しているからこそ、このような考えを導き出せるのである。

1300枚の元ラベルを組み立てるには、型に忠実に身をゆだねるしか道はない。

教育に関しては、二人の実践研究が挙げられる。一人は渡辺仁三[15]、もう一人は森森一(もりひろかず)[16]である。

渡辺は、学校教育に最初に KJ法を導入した小学校の教員であった。1968年のことであった。あくまでも子供の立場に立つことを死守した教員であった。

当時、詰め込み教育の行き詰まりが顕著になり、渡辺の勤務する小学校は大阪市教育委員会の研究指定校として「教育の近代化をはかるためにどのようにすればよいか」という主題を追及していた。この動きの中で、渡辺は『発想法』と出会った。『発想法』の源流は『パーティー学』にあり、データの啓発的統合法、衆知を集める法、チームワークのありかたの三者を統合的に考え、その焦点として「人間の創造性をいかに育てるか」という構想に大きな共感を覚え、人間教育の復権として KJ法を学校教育に全面適用の運びとなった。

当初は試行錯誤の連続であったという。やがて、

その実践の一つひとつから、KJ法が子供のもつ能力を十分に引き出すことができ、それを生かすことによって子供一人ひとりの個性が顕現できる喜びを見出した。

そうした一方で「学び方を学ばせる」といった多面的な学習法にも、より効果をもたらせるものであると考え、その指導法の確立に向かって、相互研鑽を積み重ねた。

その後は共同研究から個人研究へ移行し、渡辺は様々な試みを自分の教室で展開した。

渡辺の授業での展開は、KJ法の型を少しも逸脱することがない。最大の問題は時間がかかることであったが、教科ごとに教員が変わることのない小学校の利点を最大限に活かしたことである。

ラベル集めと表札づくりのできばえを作品から見ると、渡辺がいかにKJ法の本質を見抜いていたかがわかる。

当時はまだ6ラウンド累積KJ法の研修がなされていないにもかかわらず、的確に指導している。教科と6ラウンド累積KJ法の特性を活かした判断であった。

6ラウンド累積KJ法の第6ラウンドは、実施手順のラウンドである。これを学んだ子供たちは、卒業式を子供たちの手で手順化し、全生徒の言葉をKJ法で組み立て、ひとりひとりが読み上げていった。

筆者は渡辺の死後、川喜田と共に当時の卒業生のクラス会に出席した。ほのぼのとした会であった。

森は静岡県の山間に位置する一等僻地の中学校の校長であった。

静岡市の市域とは名のみで、実際は市街地から一時間近くも車で走った大山奥の、過疎地域の谷間にある小さな中学校。それが、この稿の主体となった大川中学である。だが、この中学における全校あげてのKJ法導入の試みは、ながくKJ法の歴史に名を留める、ショッキングなほどのできごとであった。

川喜田の驚きである。

1974年ごろから、川喜田研究所の費用の安い教育者コースではなく上級コースに、同じ中学校の教員が研修に来るようになった。それで尋ねてみた。聞けば一等僻地で、その欠点を利点に変えてしまっているようだ。

新田實[17]は1974年に赴任した。3年間勤務した当時を次のように回想している。

毎日をKJ法とともに暮らしたといっても過言ではない。夏休みには全職員で一学期の教育活動の評価をKJ法で行い、冬休みをはさんだ二学期の後半から3学期中は、その年度の教育活動の評価を同じく全職員でKJ法によって

行った。とくに後者の評価は、現状把握ラウンド、本質追及ラウンド、構想計画ラウンドを綿密に実施し、各ラウンドごとのブレインストーミング、ラベルのピックアップ、ラベル集め、表札作り、図解化の作業は、延べ40時間あまりにも達し、3ラウンド合計すれば述べ100時間を越える作業量であった。

全教員が校長であるという森校長の薫陶が行き届き、教員と生徒と、さらには地域住民をも巻き込んでの学校活動となった。

校長である森は前面に出ることなく、部下である教職員を前面に押し出して、黒子に徹していた。富士移動大学でお目にかかったが、野武士の気骨を感じた。

学校マネジメントにここまでKJ法を導入した校長は森だけであろう。ここでも特筆すべきことは、KJ法の作法に忠実であったということである。

研究者としての永延[10]の真骨頂は、生活の全てをKJ法化していることである。学者としての研究は全てKJ法の作法に則っている。

KJ法は、取材のノウハウ(花火日報、点メモ花火、探検型花火、統合型花火、データカード保存・検索)から、異質のデータの統合作法、問題解決学としての6ラウンド累積KJ法と、野外科学に必要なノウハウと思想が体系化されて完結している。

永延は、この体系を完璧なまでに研究に導入している。

これまで見てきたひとたちの共通点は、KJ法の技法としての型を徹底して追及していることである。

筆者が監督して制作したKJ法電子版が出来上がったときに感じたことは、空っぽのツールだということであった。KJ法はなにも強制してはいない。データをして語らしめることで、データからおのずと学んでいる自分がある。作法を忠実に実行することだけが、発想思考や思想につながる道なのである。

永延の、「技法を修得していくことが、おのずと発想思考や思想につながる」に尽きる。

しかし、本研究のようなごく初歩的なKJ法入門期の人々を対象の作法伝達研究は見当たらない。

本研究に直接関係するのは、川喜田の著作[18]である。

第2章 KJ法とは

2.1 KJ法の創案者

KJ法の創案者は、文化人類学者の川喜田二郎博士である。

『知的生産の技術』[1]著者 梅棹忠夫は著書の中で、梅棹や川喜田の仲間がカード方式の開発をしていたが、理論においても実技においても大発展させて、洗練した技法にまで作り上げたのが川喜田二郎で、彼の頭文字を取って、KJ法と名づけたということである。

川喜田によると、KJ法の命名者は、梅棹忠夫である。

KJ法は商標登録されている。

KJ法と同じであるにもかかわらず、名称を親和図法と変えてあるものがある。日科技連出版[19][20]には、1984年には親和技法はKJ法に起源を持つとあるが、一年後には、親和技法の解説にKJ法の解説がなされ、KJ法は創造工学の一技法の扱いとなっている。

親和技法はKJ法そのものであるとする書物もある。[21]

2.2 KJ法創案の背景

川喜田は、19歳のときの論文「絵画におけるリアリズム」[22]世界外的世界から世界内的世界への転向を表明して、今日に至る。

現実世界を外から睥睨するのではなく、渾沌とした現実の世界に身を投じて、渾沌と共にのたうちまわるという発想である。

KJ法創案は、学問的動機、実務的必要、国際平和の観点から、分類発想である「同質の要約」ではなく、「異質の統合」を希求し、その熱意が1951年のKJ法の原理の発見となった。

2.3 KJ法作法

本論文自体がKJ法作法にかんするものであるので、付録および本文に譲る

第 3 章 KJ 法作法との出会い

3-1 オリジナルラベル操作

KJ法を技術ではなく「作法」としてとらえようとする感覚がここに宿ったのは、四国移動大学[23]でKJ法創始者のテントを覗いたときであった。



図 2 四国移動大学キャンパス風景



図 3 筆者のラベル集め

以下は、そのときのエピソードである。

移動大学の雰囲気慣れてきたころ、筆者は KJ 法創始者のテントを覗きに行った。入り口をめくって顔を突っ込んで挨拶をした。創始者は KJ 法作業中だったので、ちょっと迷惑そうなそぶり。

筆者：「おや、変だな。ラベルの集め方が教わったのとは違うぞ」と心の中でつぶやきつつ、創始者の作業中のラベル群に目が釘付けになる。

筆者：「ラベルの集め方が、教わったのとちがうんですけど？」

創始者：「私は最初からこうだよ。こうすれば、集まったラベルもいつも均等に読んでいける。作業が進めばだんだん枠が小さくなっていく。場所をとらない。」

創始者のラベル集めのラベル操作は、図4のように、最初に並べたラベルの

枠内で操作され、近いラベルは、文字が見える範囲で上下に重ねてあった。

筆 者：「重ねると、下の一枚じゃまになりませんか？」

創始者：「もってきたのと入れ替えればいい。」

筆 者：「それじゃ、せっかく覚えた場所を忘れちゃいませんか？」

創始者：「なあに、これぐらいのことはええやないか……。」



図 4 川喜田二郎博士の野外講義風景

川喜田のラベル操作は、図 5 と図 6 のようであった。

黄色同士が近いと感じたら、どちらかの側に移動して、重ねておく。下図の場合、右上のラベルを左下のラベルの下に置きたい。この場合、ピンクのラベルがあって置き場に困るから、入れかえる。このとき字が読める程度に図 6 のように重ねる。

ラベルの集合全体は、一つの宇宙を成すものとする。[24]この宇宙内のラベルの志のより近いものを集める(集まる)のである。

あくまでも、宇宙内でラベルの志を聴く事が秘訣である。

感性というものはいい加減なものと思う人が多いが、全体と部分の距離感を鋭く感知している。だから、ラベルを宇宙外にだしてはならない。

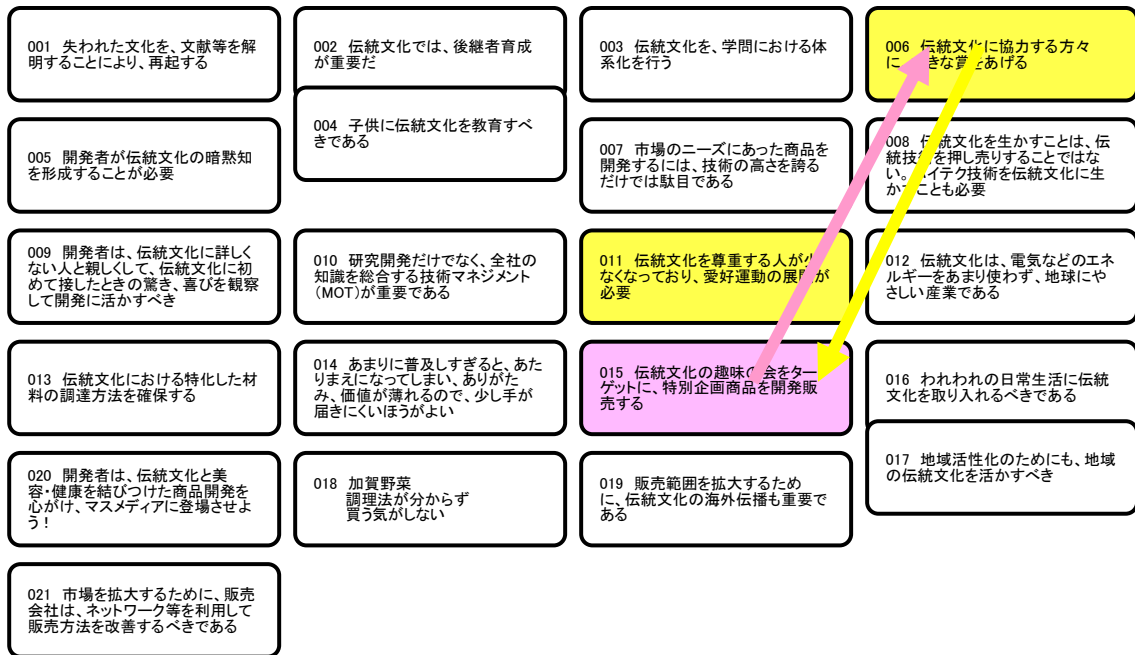


図 5 ラベル集め 黄色同士を近いと感じる

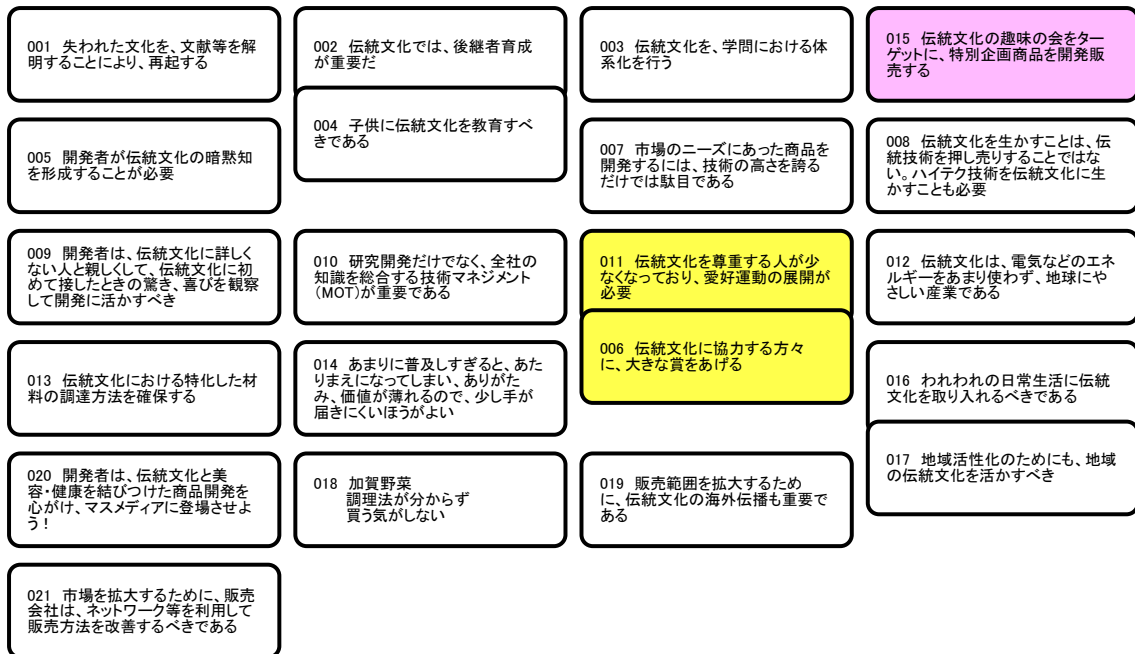


図 6 入れかえて重ねる

3-2 誤ったラベル操作

筆者が最初に教わったのは、集まったラベルセットは枠外(川喜田は、枠内を宇宙と呼んでいる)に出すというものであった。

001 失われた文化を、文献等を説明することにより、再起する	002 伝統文化では、後継者育成が重要だ	003 伝統文化を、学問における体系化を行う	004 子供に伝統文化を教育すべきである
005 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要	006 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる	007 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である	008 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要
009 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき	010 研究開発だけでなく、全社の知識を統合する技術マネジメント(MOT)が重要である	011 伝統文化を尊重する人が少なくっており、愛好運動の展開が必要	012 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である
013 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する	014 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい	015 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する	016 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである
017 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき	018 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない	019 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である	020 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう!
021 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである			

図 7 黄色を近いと感じる。

001 失われた文化を、文献等を説明することにより、再起する	002 伝統文化では、後継者育成が重要だ	003 伝統文化を、学問における体系化を行う	004 子供に伝統文化を教育すべきである	016 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである
005 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要	006 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる	007 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である	008 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要	017 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき
009 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき	010 研究開発だけでなく、全社の知識を統合する技術マネジメント(MOT)が重要である	011 伝統文化を尊重する人が少なくっており、愛好運動の展開が必要	012 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である	
013 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する	014 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい	015 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する		
	018 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない	019 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である	020 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう!	
021 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである				

図 8 枠外に出す。黄緑を近いと感じる。

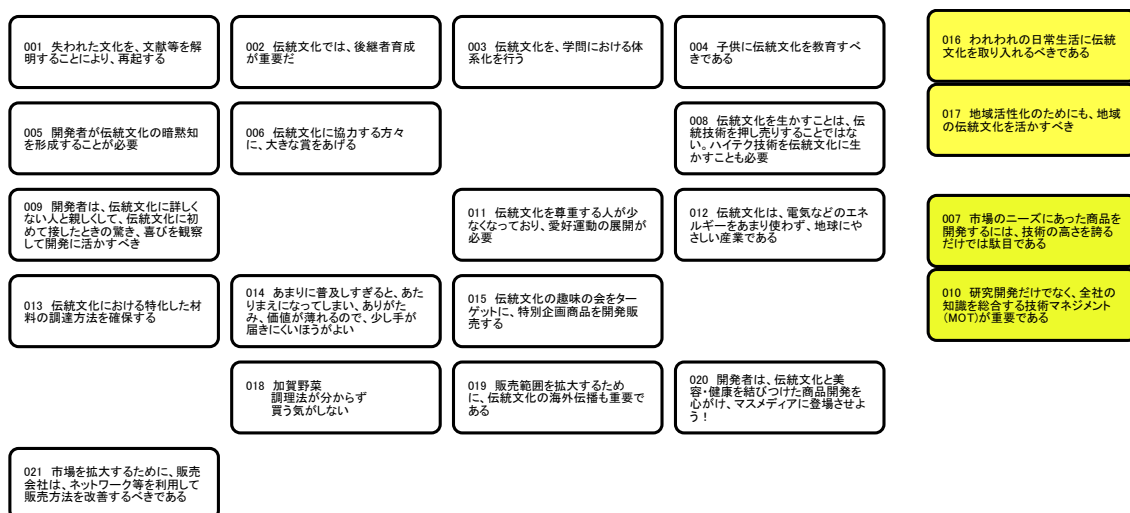


図 9 枠外に出す。

その後の研修会でも、インストラクターにはやはり集まったラベルは枠の外に出すように教えられた。だが、創始者のラベル操作をこの目でしかと見とどけた筆者は、自分で作業するときはもちろんのこと、教えるときには創始者の操作法を伝えた。

集まったラベルセットを枠外に出したときと、図のように枠内にあるときとでは、ラベルを読む感じが違ってくる。枠内にあるときのような全体と部分の関係を捉えにくくなる。

集まったセットを枠外に出すと、なぜかホッとして、外に出したラベルセットは読まないで、枠内だけを読むことになる。そうするとどうなるか？

川喜田の言葉を借りるならば、ひとつの全体をなす宇宙内での相対的近さでラベル集めをするということである。

ところが、集まったラベルをひとつの全体をなす宇宙の外に出してしまうと、この宇宙は虫食い状態になり、別のひとつの全体をなす宇宙となってしまうのである。集まったラベルを出すたびに、また別のひとつの全体をなす宇宙を生み出すことになる。

筆者自身の体験からも言えるのだが、集まったラベルを外に出すことで読まなくなると、減った枠内、のラベル同士の相対的近さで集めることになり、結果としてズレたラベル集めとなってしまう。

誤ったラベル操作をすることで、このような事態がおこってくるのであるから、まずラベル操作の正しい作法を忠実に守る必要があると考えられる。

このような認識に立ち、ラベル集めだけでなく、ラベル並べから図解化までの全工程のラベル操作を分かりやすく伝えるために、ビジュアルなシミュレーション教材と手作業シミュレーション教材を作成した。

ラベル操作が分かったら、次に学ぶべきはラベル集め感覚である。

表札づくりが一番難しいと川喜田はいう。だが、表札づくりはラベル集めの後に来る作業である。無理なラベル集めをして無理に表札をつけようとするべきではない。

川喜田は、ラベル集めは厳密に、表札づくりは厳密にとっている。

自然なラベル集めができれば、無理のない表札がつけやすくなる。

ラベル集めでは、次のような見当違いのやり方がよくおこる。筆者は、この誤りの類型[25]いて、それを見ながらインストラクションを行っている。

ラベルを宇宙内で操作するだけでも、こういったことに気づきやすくなる。

A:分類型

B:ストーリー型

C;読みすぎ型

D:対立志向型

なぜ創始者と違ったラベル操作が教えられたのかは不明だが、じかに創始者と言葉を交わしてこの目でしかと見て違いを知ったことにより、KJ法のラベル操作になにかKJ法上達の秘密が隠されていると無意識に感じたといえる。

集まったラベルを外に出す教えられ方は、その後長期にわたってそれがスタンダードであるかのようにインストラクターから伝えられていった。

外に出しても全部読めば同じことだと誰かに言われた記憶があるが、集まったラベルが枠内にあるのと枠外にあるのでは、いいかえれば、図からも分かるように、枠内が虫食い状態にあるのとないのとは、なにか感覚的に違う。集まったラベルが枠内にあると、枠の全体に包含されて、全体と部分の対話をしている感じがする。

「扱うすべてのラベルの集合全体は、いわばひとつの世界であり、ひとつの全体をなす宇宙なのである。その世界全体の声を聴き届けた上で、最も志の近いラベル同士を集めるべき」[26]と川喜田はしている。

ラベル群の枠内の世界内的やり取りから、川喜田の心にKJ法が芽生えたのではないかと思える。枠内でラベル操作をすることは、ラベル集め感覚の本

質に導く作法であるといえるのではあるまいか。

作法にこそ本質に迫る秘密が隠されているのではないだろうか。

KJ法の作法は、このような人間の感性の特性をよくとらえている。

第4章 大量ラベルシミュレーション

4-1 早稲田 KJ 研究会

初回研修会

初回(2003年4月11日~13日)の研修会への参加者は、4名であった。

リーダーの M 氏が仲間に声をかけたそうだが、大学で教わった KJ 法のイメージがあるので、みな敬遠したとのこと。KJ 法を教えている大学は多いようだが、正則な KJ 法が教えられているところは少ないのではないかと思われる。

以下に、3日間のスケジュールを記す。

第一日目:座談およびラベル操作シミュレーション実習

「現場取材の心得」

第二日目:一日目のつづき

第三日目:「上達」をテーマにパルス討論、多段ピックアップ

グループ KJ 法一段目、表札づくり、点メモ花火

シミュレーション用教材第一号誕生

参加者は固定ではないということなので、筆者が知っている研修プロセスでは実施不可能である。

初回の参加者にラベル操作工程だけをまず覚えてもらうことにし、次回からの参加者には、彼らが核となって同じラベル操作プロセスを予め伝授しておくという、順次指導制をとった。

なぜこのように考えたかということ、以下の KJ 法電子版制作に携わった体験が生きている。コンピュータで出来ることは、KJ 法の型だけを取り出して操作するだけのことしかできないことと、型だけを取り出して学ぶことが可能であることを同時に認識したからである。

KJ 法の型には KJ 法作業中のこころの姿勢の転換点とも言うべき節目がある。KJ 法の型を、筆者が作法と呼びたいのはこの点にある。

付録のシミュレーションを何の解説もなしに見ても、どこがその節目なのか捕らえられない人のほうが多いのではないかと思われる。

この節目は、重要な作法、儀式といってもいいかもしれないが、これをとばし

てやってしまう人のほうが多いのではないだろうか。

古くから伝わる儀式というものは、単なる形式主義で片付けられるものではない、こころの本質を秘めたものである。KJ法の型にも儀式の比喩が当てはまると考える。

ラベル操作体験教材として、「現場取材の心得」を使った。「現場取材の心得」は、1999年に開催された「月山移動大学」[27]の現場で筆者が研修とインストラクターを担当していたときのこと、参加者の2泊3日の現場取材行出発二日前に、創始者から、模造紙一枚の手書き図解をコンピュータに入力するよう依頼されたものである。これは、川喜田二郎著作集3フィールドワーク心得帳[28]に一致している。

「現場取材の心得」は、内容そのものがKJ法にとって重要な取材のための教材になるものなので、シミュレーションをするならこれ以外にはないと判断した。

この図解を分解して、元ラベルからボトムアップ式に手作業でシミュレーションができるように、準備をした。

精密に測定できずとも、次善の策を工夫せよ。	発言の記録では、「...」など、その要約が文意通りかを区別して記せ。	土地の人自身に、彼らのヴィジョンを語らせよ。	植物種の出現点は細みやずいが、消滅点はいつの間にかくる。	記録の略号を使ったら、すぐその定義を記述しておけ。	測定できるものは、創意工夫して測定せよ。	記録では、どんな略号を使え。
時には人生相談のヤリトリもせよ。	相手がつまらぬと思う点も大マシメで記録していると、相手が記録を警戒しなくなる。	よきエビキュリアンとして、その土地を味わえ。	分布調べにはインディケータを活用せよ。	その場の記録だけでは、とくに平凡なことがぬける。	1度記録したものは、決して消すな。	村人間の続き柄を調べ、固体識別に役立てよ。
タメエが本音かの区別に注意を払え。	落ちた時の備えに、野帳には住所、氏名を書いておけ。	チベット村での宴会席次で、相手のステータスを知った。	データは正直に書く勇氣を持て。	矛盾法で相手ののべる意見の真偽を確かめよ。	事実とデータとは違う。	ボラロイド・カメラは、物や人間の同定に役立つ。
テープレコーダーで声を再生したら、相手が進んで面接に応じてくれたこともある。	H R A F の人間行動観察の7着眼点は役立つ。	その土地についての座標軸的知識を持て。	村にとって真に有効なヴィジョンなら、村人は眼を輝かす。	初期の印象はドンドンそのまま書いておけ。	人間関係の調査では、固体識別法を活用する。	相手の好む話題から始めよ。
記録よりも記憶とはいえず、また記憶よりも記録だ。	場所の記録には、現象のおこった場所と、記録した場所との2種がある。	なるべく早く、「点メモ清書」を行え。	最初はブラリと現地をうろつけ。	見えるものから、ドシンドン聞いてゆけ。	現地人の立場からする現地人の知識体系を掴め。	現地語がわからないと、眼が鋭くなる。
面接しつつ、記録は点メモせよ。	叙述が観察を、自他ともに判るよう記録せよ。	ひとり歩きのできるデータカードを作れ。	対象にドブプリ浸る。	調査項目に露骨に対応しないことでも、「何だか気がかかったら」、データにとれ。	スケッチをすすと、観察眼が鋭くなる。	質問項目を図解化して、相手にもあけて説明する方法もよい。
はじめから現地語がペラペラの人は、耳からの情報に甘んじやすい。	観察の信頼度も、「...を見る、...らしし」など、程度を正直に記せ。	ノートすることを習慣づけよ。	一義的にしか取りようのない文章記録を心がけよ。	知ったかぶりをせず、ヨソ者らしく。	座標軸的教養を持て。	何種もの野帳の使い分けは、結局不便。
素朴にありのままを語るインタビューメントを見つけてよ。	ゼロックスの使用を考慮して記録時の色を選べ。	なにげないものにも意味を養見するのが観察・記録の楽しみ。	相手と相互に、質問・応答をするように心がける。	相手のステータス・役割を、予め知れ。	イエス・ノー式だけをきくな。	「自分しか記録者がいない」と覚悟せよ。
努めて互恵の調査を行え。	数人で面接し尋ね手や記録役は1人にしぼれ。	カメラで撮ると、モノをよく見ない。	固有名詞を聞いた時には、ハッキリするまで、くどくどと確かめよ。	静止しているものの分布は見やすいが、動いているものの分布は見落とすし、勢えは動作。	できるだけ相手の立場になりきって感じてみよ。	快いキッカケから始めよ。
データには、(1)とき、(2)ところ、(3)出所、(4)製作者を。	気がかかったことはドンドンメモ化するクセをつけよ。	たとえ相手のつまらぬ質問にも、まじめに答えよ。	その場の点メモもさえ適切ならば、正確に復元できる。	自分の気に入った意見しか聞こえない傾向がある。	絵を描いて見せたら、相手が乗りだしてきた。	地図の折り目に字を書くな。
調査は搾取なり。	面接と観察とを、相互にチェックせよ。	記憶は、自分の気に入りの方向へと思ひ込みになっていく。				

図 10 「現場取材の心得」元ラベル

「現場取材の心得」でシミュレーションをしようと考えついたときは、研究会直前であったので、元ラベルに分解するのが精一杯であった。十分な準備ができなかったこと、作業時間は十分にあったので、やむを得ず全てを手作業でやってもらうことにした。

表札もシンボルマークも既製品を用いているため、この時点では、作業をなぞるだけではそれほど効果はあるまいと思っていた。

元ラベルは73枚をもちいており、作業の全ては手作業である。

作業の様子を観察していると、さながら、手で考えているという感があった。

整然と並べられた元ラベルからマニュアルどおりのラベルを捜し出すだけでも大変な作業である。探しているうちに、内容を読んでしまっているという参加者もいた。

ラベル操作だけが分かればよいと思っていたが、参加者は内容にだんだん惹かれていったことがわかった。教材さえよければ、一見面倒くさそうな KJ 法作業も、かえって効果が上がるものではないかと思えた。

ラベル集め、表札づくり、シンボルマークづくり後、図解化を行う。

図解化の第一歩は、シンボルマークだけ使って空間配置をする。この作業は困難である。どの研修会でも、ここでつまづく人が多く見られる。



図 13 図 14 シンボルマーク*による空間配置作業



図 15 図解化ラベル展開

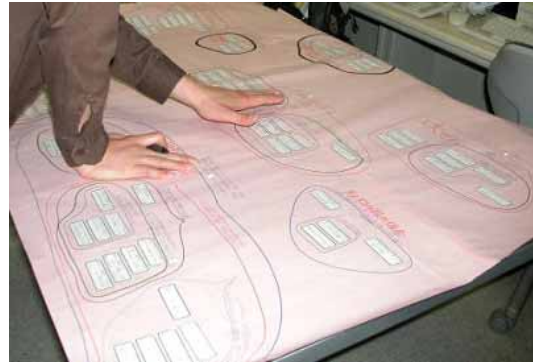


図 16 図解仕上げ

元ラベル転記から図解がほぼ完成するまで、丸々二日かかった。残りは宿題とした。

同じ年の8月に開かれた、北陸先端科学技術大学院大学インターンシップ KJ 法研修会でも、同じ教材で、同じく手作業でシミュレーションを実施した。全員が完成するまでにやはり二日かかった。

時間が十分ある研修会は、極めて稀なため、短時間で出来る方法はないものかと考え始めた。

以上のような面倒な作業に興味をもって進められたのは、参加者にとっては、このような思考プロセスは初めてで興味津々であったと推測される。取材という教材の内容が彼らの興味をひいたのであろう。特に、表札の表現に関心を示していた。

また、ラベル集めでは自分ならどうだ・・・と自問自答しながらの作業であった。

内容と量が適切であれば、KJ 法習得を目的としなくても、事柄を关系的に理解するには、手作業シミュレーションはうってつけの教材となるであろう。

大量データのシミュレーションの感想 - これぐらいは必要だ -

8月の研修会参加のためにこの作業を体験した年配の参加者は、次のように述べている。ちなみに、学生たちは、だんだん友人知人を老若男女問わず誘ってくるようになった。

若いときに『発想法』を読んだが、指導者がいないと分からなかったので、やめてしまった。

大量ラベルのシミュレーションを若い学生に混じってやってみたら、手作業に意

味があると思った。量は確かに多いが、若者はこれぐらいのものをやらせてもいいのではないかと思った。頭だけで考えないで、全身で考えることをしてほしい。

シミュレーションは意味の近さ感覚を育てた・・・点メモ花火

最終日は、「上達」をテーマにパルス討論*を実施。

パルス討論をする前に、点メモ花火を教えて欲しいという強い要望があった。パルス討論の司会をしながら、半分に折った模造紙に議論の流れを点メモ花火で描いていった。

意見の全体が目の前で即時に構造化されながら議論をしたことで、点メモ花火フィーバーがおき、研究会では点メモ花火が大流行し、スタンダードになってしまった。

司会者にとっては、意見の中核を捉えようとする意識が維持され、発言者の意図を聴き取ろうとする姿勢が最後まで保たれた。そして、同時に参加者の意見が構造化されるので、発言者の意見をさらに深めることが出来、それぞれ意見の関係を適切に捉えられるので、議論を深めることが出来た。

参加者にとっては、メモがうまく取れないひとは安心して意見を述べる事が出来、しかも自分の意見の捉えられ方を確認しつつ、自分の考えもまとめられた。さらに他のひとの意見との関係も捉えられるので、自分の意見に固執しなくなる。清書の場合では、その図解を見れば、その時々での議論の展開が思い出せるので、触発されたバラエティーに富んだ意見を書くことができた。

実際の討論という生きた場面で目の前で点メモ花火が描かれていく本方法は、すぐに実行できる有効な方法だと思われる。いまでも、そのときの参加者から、当時の感動が語られる。彼らが、点メモ花火を自らの工夫で深め、かつ仲間にも広めていった。学内の定期試験にも活かされたという報告もある。

議論はえてしてすぐに消えてしまう音声によってなされる。しかし、点メモ花火では、議論を即時的にビジュアル化することで、混沌から開放する。

点メモ花火は、取り立てて難しいというほどのものではないが、意味の中核を捉えることと、意味の関係性を即座に判断する必要があるため、議論の速さについていくにはある程度の訓練が必要である。初心者としての点メモ花火と表札づくりでは、意味の関係性を捉えることが一定のレベルで達成できた。

ある講演会で、二十数名の参加者が意見を述べるとき、講演者からの依頼で、点メモ花火で描いたことがある。意見がビジュアルに構造化されていくこと

により、全体像をつかみつつ、発言がなされていったことが感じられた。

筆者が即時に点メモを描いていくので、自分もやってみたが追いつかなかったという感想をいただいた。不慣れであることが一番適切な理由ではあるが、たぶん、意味の関係性を即座につかめないこと一番大きな理由ではないかと考える。

意味の関係性をつかむ一番よい訓練は、KJ法を実際にやってみることである。KJ法を体験することで、幅広い関係を状況に応じて描くことができるようになると思う。

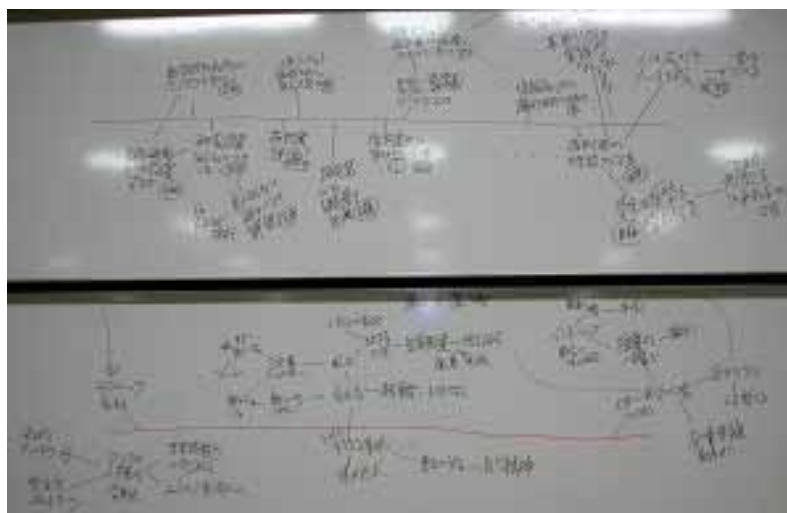


図 17 ホワイトボードへの点メモ花火

また、意味の中核を即興的に关系的に図解化することは、ラベル集めの感覚を養うにもよいと考える。

KJ法は、まずデータありきである。得られた定性的データの処理法である。したがって、元ラベルの出来不出来がKJ法の死命を制することになる。

KJ法を教える場合には、必ず取材のノウハウも含めながら進める必要がある。この意味で、即時記録法である点メモ花火はKJ法と平行して指導するとよい。

KJ法の体験

討論と清書が済み、図12のように探検ネットを作った。次に多段ピックアップ*を経て、25枚の意見を抽出した。



図 18 探検ネットおよび多段ピックアップ*



図 19 グループ KJ 法土俵



図 20 表札作りを点メモ花火で



図 21 初めての表札づくりに興奮

- | | | | | |
|--|--|---|--|---|
| 1. マスローの5段階。人が上達したいのは自己実現したいから。 | 2. 人に認められたいという欲求から上達したいと思うこともある。(マスローでいう3番目) | 3. 何事も人間は、物事に対する心構えを失った時にはうまくいかないものである。 | 4. 演出家の言われるままだけでなく、自分で考えながら演じる役者は演技の幅が広いように感じる | 5. 制限の質によって上達することもあれば、かえって下手になることもある。 |
| 6. 散漫になりがちな意識が、制限を加えられることで方向づけられる(焦点化すること)がある。 | 7. トレーニングを反復する中でのフィードバックは重要である。 | 8. 自分のしていることに気づく能力が必要だ。 | 9. 上達には才能次第だという常識がある。 | 10. 上達に関しての社会常識が上達の邪魔をしている。 |
| 11. 上達することは、簡単ではない。 | 12. 石の上にも3年、3年先の稽古(相撲)、千日回峰行も3年。上達には3年間が必要らしい。 | 13. 始点と終点を身に染みこませると中間の動きは自然と補完される。 | 14. 遊泳をして楽な泳ぎ方を体得した。 | 15. 完成度は低くても将来性を感ぜさせる作品に魅かれる。 |
| 16. 上達するには何らかのストレスがともなう。 | 17. 自分がどの位置にいるのか知りたいのが人間である。 | 18. 目標フォームと自分のフォームとの差がよくわかる視覚ツールがあるといいなあ。 | 19. 上達する為は、日々の訓練を要する。 | 20. KJ法のラベル集めは理屈抜きの世界とKJは言うが、理解するのは至難のわざ。 |
| 21. 自分の経験では、バイトでも上達しなければクビになる。 | 22. 上達の最終目標は高度の倫理観の確立ではなかるうか。 | 23. 本物に接することが上達には必要。 | 24. 上達するには、それだけに固執するのではなく、時には、息抜きも必要である。 | 25. その時の自分の状態に合わせてなるべく無理に合わないことから始めるのが、長続きさせるコツだ。 |

図 22 多段ピックアップによる25枚の抽出意見

この後、グループ KJ 法*の第一段階のラベル集めと表札作りをおこなった。
集まったたった2枚ないし3枚のラベル群の表札をつける難しさを実感したようだった。

このデータをグループ KJ 法で組み立てたプロセスを KJ 法の作業プロセスの説明用にとパワーポイントでつくったが、その時点では、付録のような教材のイメージはもたなかった。

2003 年 4 月 14 日 メール:M から筆者へ

今回は知的興奮を味あわせていただきありがとうございました。

ここまでの興奮はちょっと記憶にありません。

あの後、3人で喫茶店に行き、今回の会について感想を述べ合いました。

言うまでもなく点メモ花火です。

それについては近いうちにまとめてお知らせします。

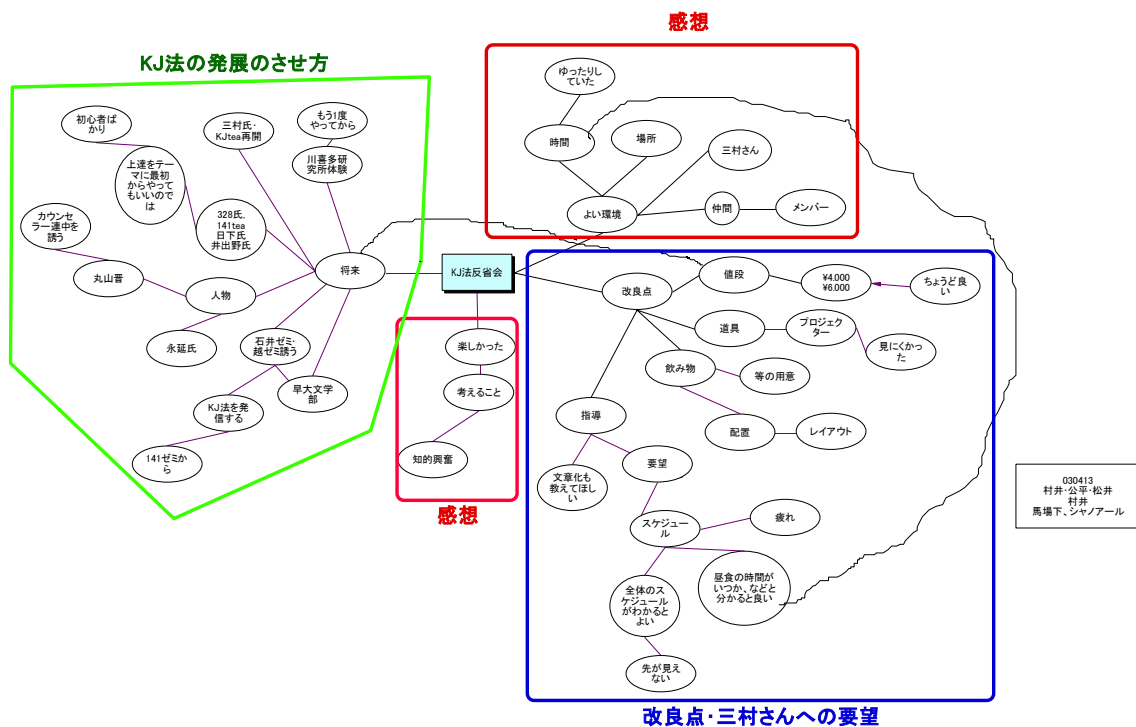


図 23 やがて送られてきた反省点メモ花火

2003 年 4 月 15 日 メール:M から他のメンバーへ
メンバー、時間、場所、どれをとっても最高でした。

あの後、我々3人は喫茶店で反省会をしたのです。

反省というか感想を言い合う会ですね。

僕はもちろん他の2人もあれほどの知的興奮を味わったのは初めてだ、

凄かった、凄かった、としばらく会話にならないほどでした。

大げさでなく、3人ですげーすげーと言い合ってるだけでした。

今回の勉強会はうれしい誤算の連続でした。

本当はもっと多くの人に参加するはずでしたが、あれだけになってしまった。

結果的にあのメンバー以外であの内容は考えられないほど、ぴたっと決まった。

場所も候補は上がったけれども、ゆっくり時間を取れるという意味ではよかつた。

た。

自主勉強会

二日間にわたる「現場取材の心得」シミュレーション作業、パルス討論における点メモ花火図解、元ラベル(カード)一单位的確圧縮表現、探検ネット*づくり、大量のデータから質を落とさずに少数をピックアップする多段ピックアップ、グループ KJ 法におけるラベル集めと表札づくりという、すべての作業と思考プロセスが初めてのことだったので、このような興奮を引き起こしたのだろう。

見逃してはならないことは、「現場取材の心得」シミュレーション作業がもたらしたモチベーションの高まりの結果であることだ。二日間の KJ 法シミュレーション作業は、それまでのトップダウン思考とは全く違う思考方法があることを、参加者に体感させたようだ。

この年の 8 月の別の研修会でも同じ教材で手作業で実施する機会があったが、同様の感想を得た。

2004年8月末の研修会では、22枚の元ラベルも表札も全て印刷された教材での短時間シミュレーションであったが、やはり同様の感想を得た。

2003年4月17日 自主勉強会の提案 メール:Mから次回参加者へ

三村さんから、「現場取材の心得を次回までに完成させておくように」とのことでしたが、なかなか一人でやるのは大変だろうと思います。八角はまだ習っていないし。

そこで完成していない人で集まって一緒にやってみようか。集中して一気にやってみようか。

来週月曜の夕方はいかがでしょう。

2003年4月19日 メール:初回未完成のメンバーからMへ

月曜の夕方参加したいです。一人でだらだらやるよりみんなでガツと集中して

やった方がいいですよ。最近、劇団の次回作の話し合いで色々話すのですが、点メモ花火が役立ちます。書いてやったほうが、思わぬ意見がでて楽しいです。

2003年4月25日 メール：Mからメンバーへ

KJ研究会、メンバーの皆様

A、5/10.11までの宿題と、

B、5/10.11のスケジュールとをお知らせします。

A、宿題は「KJ法の基本的な手順を学んでおく」ことです。

「現場取材の心得」という優れた教材を使って、決められた手順に従って、一連の流れを学習します。

半分機械的な作業ですが、次の2つの理由から、必ずやっておくことになっています。

1 全体の流れをつかんでおくと、個別の学習をしたときに、やっていることが、全体のどの部分なのかがわかり、袋小路に迷い込みにくい。

2 「現場取材の心得」という教材が示唆に富んでいるため、この教材に触れるだけでも、何かを研究する時に役に立つ。

このようにして、初回の感動が、シミュレーションの順次指導制による自主研究会を生み出した。

学生にとっては、集まって教えあいをしながら作業を進めることで、連帯感が生まれ、人間的なふれあいが出来て成長していくのだろうと感じられた。

型は本質への道しるべ(作法)

手作業シミュレーション作業は、その後の自主研究会のよきコミュニケーションツールとして機能し、さらに点メモ花火が自主研究会で教えられ、これもまたよきコミュニケーションツールとして機能したようであった。

KJ法の作法が若者同士のコミュニケーションを促したようだ。

KJ法は、参加するひとびとを昂揚させる。これを見て、自分の実力によってそうなったと錯覚するひとが少ない。これは大変危険なことである。

筆者はこのことを常に自戒しながら、KJ法作法に則り、それを忠実に履行することを心がけている。作法がひとびとを昂揚させているのだという認識を前提にインストラクションを行っている。

型は本質への道しるべである。型はこころをよりよい方向に導くものである。

KJ法の型はよりその意味合いがよいと思う。

武道などは特にそうだが、それぞれに特有の型を持っている。型に入ることによって、その本質を捉えやすくなり、型から出でることによって、自在の私になれるのであろう。

6ラウンド累積 KJ法を心理療法に応用した丸山晋博士の『精神保健と KJ法』[12]の第一章の冒頭には、土居健郎博士(「甘えの構造」の著者)の言葉「サイコセラピーは問題解決である」とある。<上達は問題解決である>と置き換えられると考えた。6ラウンド累積 KJ法は、人間上達(型)を目指す技法であると強く思われた。

匠の世界についても同じことが言える。

生田久美子の『「わざ」から知る』[29]の、<形から型へ = 間の体得>の認知プロセスが6ラウンド累積 KJ法のプロセスを彷彿させるものであった。

「わざ」の世界は、まず「形」に入り、「形」から出でて「型」に入り「間」を極める上達プロセスは、人生が自分に何を求めているかを自分で気付く、自分で解釈の努力をする事なしには達し得ない、そんな境涯に達することかと思われた。この二著に刺激を受けて、6ラウンド累積 KJ法によってスキルの上達が図れるはずだと考えた。

これを試そうと被験者を募ったら、若い友人の K氏が名乗りをあげた。「ケーナが上達するには」が彼の最初のテーマであったが、相談の上、「ケーナのこころを伝える演奏者になりたい」とした。

テーマ表現が適切だと、言葉がこころを導いてくれる。適切な言葉も型と言えるかもしれない。

6ラウンド累積 KJ法に忠実にたどっていった。本格的な現場取材から得た369枚のデータを組み上げつつ、まったく初めてのケーナ演奏練習に着手し、わずか2ヶ月で感動的な演奏を披露できるまでになった。今後は本質追及も含めて作業を続けていくが、どのような成果が得られるか、楽しみである。

この成果を2004年度の KJ法学会発表で、K氏は状況把握ラウンドまでの作業過程で得られたことを次のように述べている。

- ・ ラベルの言わんとすることが、演奏経験のなかで実感としてわかるようになる。
- ・ プロ演奏家の言葉からのラベルは、終盤まで他のラベルとくっつくことがない。
- ・ ラベル集めと表札を繰り返すうちに、発見・気づきがうまれハタと膝を打つ。
- ・ 「ケーナの心を伝える演奏者」となるには、何をすれば良いのか360°の視点

で理解しているがゆえに上達も早い。

- ・ ひと仕事のプロセスを構造化したものが W 型問題解決モデルであるならば、ひと仕事の連続＝「生きること」＝累積 KJ 法と言い換えることができる。

筆者がここまでリードしえたのは、狭義の KJ 法一ラウンドと、問題解決としての 6 ラウンド累積 KJ 法の整った作法に則ったからである。

企業人との対話やインストラクションから現実には、KJ 法の型は正しく伝わっていないことを知ることとなった。

ラベル(カード)を使うことが KJ 法ということに一般的にはなっているということである。要するに、KJ 法の周辺技法である花火(ニックネーム)に似たものである。

そこで、正しい KJ 法のラベル操作だけを取り出して伝えることだけでも、効果的に誤解を解くことが出来ると考えた。しかも短時間で実現しなくてはならない。

こんな問題意識を持たざるを得ない状況に遭遇したために、試行錯誤を重ねながら、付録のシミュレーション教材を作るに至った。

シミュレーション図解および空間配置と口頭発表・・・五月研修会

5 月研修会の参加者は一気に倍以上に増え、10 人になった。初回参加者の感動を聞きつけてやってきたそうである。

「現場取材の心得」シミュレーションは、図解の空間配置に関しては作業者の意思に任せた。

KJ 法の作業は、大きく分けて二つに分けられる。一つは前半部のラベル集めと表札づくり、もう一つは後半部の図解化である。

図解化の第一歩である空間配置は、難しく、ここで立ち往生する人がどの研修会でもいる。

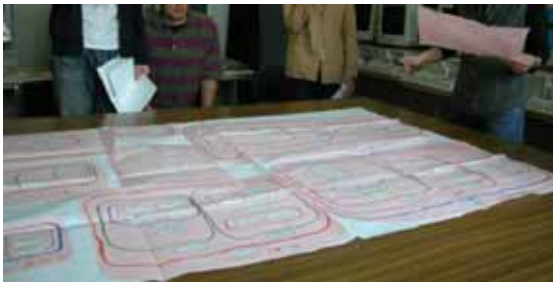


図 24 「現場取材の心得」図解化



図 25 「現場取材の心得」図解化

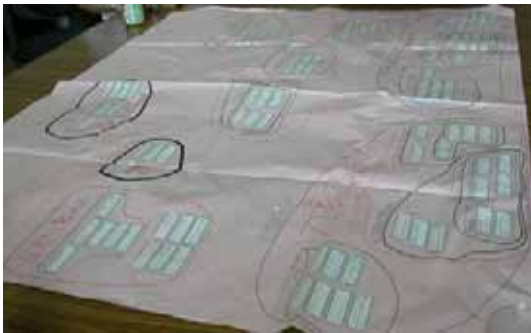


図 26 「現場取材の心得」図解化



図 27 「現場取材の心得」図解化



図 28 「現場取材の心得」図解化



図 29 「現場取材の心得」図解化

筆者は、ラベル操作シミュレーションにおいて、図解化の第一段階を極力自力でやってもらうようにしている。どうしてもダメな場合は、シミュレーション用テキストに採用した作者による空間配置を真似てもらうことにしている。

図 26 から図 29 は、「現場取材の心得」シミュレーション図解の発表の様子である。

73 枚というのは、模造紙一枚には入りきらない枚数である。元ラベルの数 2 センチ×6 センチの KJ ラベル* (一単位の的確圧縮手書き表現にちょうどいいサイズ) の場合、模造紙一枚に描くには 40 枚ぐらいが限度である。

省エネ図解

シミュレーションの最初の目的は、ラベル操作だけを取りだして、その工程を体感してもらおうというものであった。図 28 図 29 のような省エネ図解は、最小の労力で最大の効果を引き出すシミュレーションづくりの貴重なデータとなった。

表札を手書きするのは時間がかかる。すべての段階の表札ともラベルを使っている作品がある。これなどは、階層性が分かればいいことで、表札を手書きしないでラベルをそのまま使うということは、図解をコンパクトに手軽に描けるということになる。

自主研究会でつくった図解は、表札にラベルを使ったものと手書きがあるが、いずれも島単位にべつべつにつくられている。

大きな島の大きさなら KJ 法の階層が3段以上あるので、階層性を理解するにはちょうどいい大きさであると考えた。

表札を手書きするのは一苦労なので、すべての表札をラベルで代用すると見づらいから、最上段の表札だけでも手書きのほうがいい、という意見を述べた人がいた。

口頭発表

内容がKJ法の取材にかかわる「現場取材の心得」は、それだけで極めて有益な教材である。今後 KJ 法を学んでいく上には不可欠な内容であるため、その内容をよりよく理解してもらうために、図解をもとに口頭発表をさせた。

これは、川喜田が定義している狭義の一ラウンド KJ 法の定義にも準じているすなわち ラベルづくり、 グループ編成、 図解化、 口頭発表および文章化[30]である。

図解化は、文章化してみたときに、初めて図解の意味が分かると川喜田は述べている。

前出の K 氏には、作業過程で最も強調してきたのが文章化であった。

問題提起ラウンド図解をきちんと文章化し、それをもとに調査項目づくりをしてもらった。

2004 年 5 月 12 日 メール:K から筆者へ

文章化が難しく感じました。

図解をみながらストーリーにするという方法で行いましたが、

ひとつの図解のどの部分から書き始めると一番わかりやすいものになるのかい

まひとつ掴めませんでした。

Q1、見取り図を作っている際には、ラベルの因果や関係を見出すようにして行う方法で宜しいのですか？何か自分勝手にストーリーを作りあげてしまうのではないかと、少し疑心に駆られました。

2004年7月13日 メール：Kから筆者へ

今回は本当に3日間の何から何までお世話になり本当に感謝しております。

まったくの良い経験ばかりで大興奮でした！！

(筆者注：インターネットハイスクール・アットマーク社の日野社長に体験インタビュー実施)

また、お会いできる日を楽しみにしております。

本日、思い切ってKRIにお邪魔させていただきました。

<中略>

そして、「これは凄く大事なことだ」

図解だけで終わる人が多いが、文章化することが必要である。

といわれたため、KJ氏に

ケーナのR1図解、R1文章化、R1.5図解をお見せしました。

すると、「これは良い！私にもこの図解をくれ」というので差し上げました。

口頭発表には、二通りのスタイルがあった。

一つは、一枚に描いた図解の発表と、もう一つは、島ごとにばらばらにつくった図解の発表である。

後者のひとたちは、口頭発表しながら島を動かし、動かしながら新しい関係を見つけては言葉をつないで、最適の配置を模索していた。

筆者は、インスピレーションソフトを使ってKJ法作業をするが、図解化は、シンボルマークでまず空間配置をしておいて、島ごとにコンテンツを作っておいてから最初の空間配置に一応当てはめ、次に島ごとの細部に着目して配置をより納得するものにしていく。さらに、島の細部の配置を変えて全体の整合性をはかっている。

インスピレーションソフトは、自在に配置を変えられるので、手作業をそのままコンピュータに移した感がある。したがって手作業でKJ法を学んできたものには、大変親しみの持てるソフトである。

ラベルを印刷して、紙による手作業をし、作業の節目節目で経過をコンピュータに入力をするひともいる。簡単にリンクが張れるので、階層性が人目で分かるので、KJ法の構造を理解するには最適である。また、階層構造をアウトラ

イン化できるので、便利である。

口頭発表の方法については、添付メールで下記のように予め参加者には知らせておいた。

2003年5月6日 以下添付メール 筆者からメンバーへ

口頭発表について

KJ法図解の口頭発表は意外に難しいものです。

現場取材の心得の場合、元のラベル数が73枚です。73もの内容を全て挙げて説明していたら、長時間かかってしまいます。

我々が一度に全体の構造と意味をつかむには、そのデータ数は $<7 \pm 2>^*$ というよく知られた数があるそうです。5から9の間なら、一度に全体の構造と意味が掴めるというわけです。

KJ法は、ラベル集めと表札作りは最後に10束以内になるまでやれと、創始者の川喜田二郎博士は述べています。川喜田先生は体験上10束以内なら一度に全体の構造と意味を掴めるとおっしゃっています。北陸先端大で、昨年学んだ「システム科学方法論」で $<7 \pm 2>$ の話聞いたとき、即座にKJ法の10束以内を思い出しました。

この10束以内の各束にシンボルマークをつけるのは、最終表札が長くて一目ではわかりにくいので、長い表札内容をシンボリックに一言で表現することで、10束以内の内容がより直感的に把握できるからです。

古いKJ法のやりかたでは、このシンボルマークという手法は定式化されていませんでした。理由は簡単で、表札を「一行見出し」と呼び、発句の精神で表現せよとあったため、当時の表札は短かったのでシンボルマークをつける必要性に迫られなかったからということです。

従って、シンボルマークは、一束の全体をぴたりと言い表す効果的な表現であることが求められる訳です。効果的な表現であれば、それらは巧みな空間配置と相まって、元ラベルの数がたとえ何百枚であっても、何を言わんとしているかはぴたりとわかるというわけです。

そのためにも、ラベル集めと表札作りの作業は厳密に行う必要があります。

そうするための心構えは、“Facts speak for themselves.”「データをして語らしめよ」(後出)を徹底することなのです。

既成の分類でやったり、あるいは自分本位のこうまとめてやれのスケベ根性を出したとたんに、本来のKJ法とは似て非なるものになってしまいます。

いい図解は、曼荼羅を思わせるものになっていくようです。

蛇足ですが、深層心理の研究者ユングの曼荼羅の研究が思い出されます。

話が飛んでしまいました。

シンボルマークと空間配置によって全体の意味が捉えられているのですから、口頭発表のときは、細かい元ラベルに気を取られないように、皆さんがご自分で捉えた核になるポイントを一つだけ(各島ごとに)エピソードを交えて発表なさると良いと思います。

◎ 図解口頭発表の仕方

今回の場合取材がテーマですが、これは現実の自分の身近な体験と照らし合わせて話すとよいでしょう。そうすれば、聴衆も自分の身近な体験をよみがえらせることができ、感覚を共有できるし、新たな視点をお互いに見出すことができます。

シンボルマークのある島に、ひとつのエピソードを添えて話すとよいでしょう。

一つに抑えておいても、エピソードである限り、芋ずる式に自然にたくさん話してしまうものです。一つに抑えておくということは、話の自然な流れが自ずと生ずるということです。

はじめからたくさん話そうとすると、收拾がつかなくなることは皆さんはすでに経験済みでしょう。

○ 準備として(発表のときの道しるべとしてのメモ)

A4の紙を一枚用意します。

それに図解と同じ配置にシンボルマークを同じく赤でラベルと同じ大きさぐらい(見やすい大きさという意味)に書き、丸で囲みます。字は太字のほうが印象的です。

このシンボルマークから関係線を出して、ぜひ話したい一つのエピソードのポイントをいくつか(少ないほどよい)やはりシンボルマーク的に印象的な表現で点メモ花火風に書きます。これは黒で太字で書きましょう。

○ 発表時

図解の配置の説明をまず最初にします。なぜこのような関係にしたかという理由を簡潔に述べます。

次に、シンボルマークのある島々を、上記のメモを片手に持って、エピソードを手短かに話しましょう。

口頭発表は、同じ材料であるにもかかわらず、図解の配置が発表者それぞれ少しづつ異なり、発表者のそれぞれの背景と取材の視点がユニークであり、島ごとに述べられる一つのエピソードはバラエティーにとんでいた。これは参加者ならではの環境下における生の取材世界のエピソードであるので、取材世界の広がり奥深さとバラエティーさに、参加者は感心して聞き入っていた。

4-2 JAIST インターンシップ研修

2003年8月4日から8日までの5日間、北陸先端科学技術大学院インターンシップ学生対象のKJ法研修会が企画され、講師としてよばれた。

参加者は、各地から集まった高専と大学生の男子4人と、学内参加者6名(社会人学生含む:最終的に3名)であった。

研修会のスケジュールを以下に記す。

第一日目: KJ法の解説および検索図解づくりの実習

第二日目: ラベル操作シミュレーション実習

「現場取材の心得」

第三日目: 二日目のつづき、テーマ決め、パルス討論。

第四日目: テーマ決め、パルス討論、多段ピックアップ、グループKJ法

第五日目: グループKJ法および

シンボルマークによる空間配置図解発表



図 30 手作業 手引書と首っ引きで



図 31 シンボルマークによる空間配置の説明をする

ユニーク図解が登場。S氏のころは模造紙に納まりきれなかった。



図 32 右図解の説明風景



図 33 シンボルマークによる空間配置

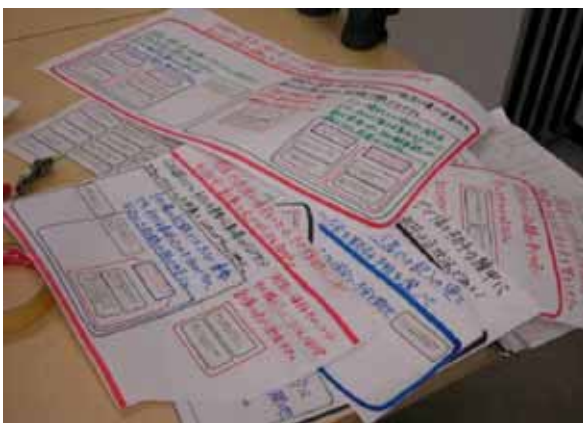


図 34 島ごとの図解化



図 35 床に空間配置

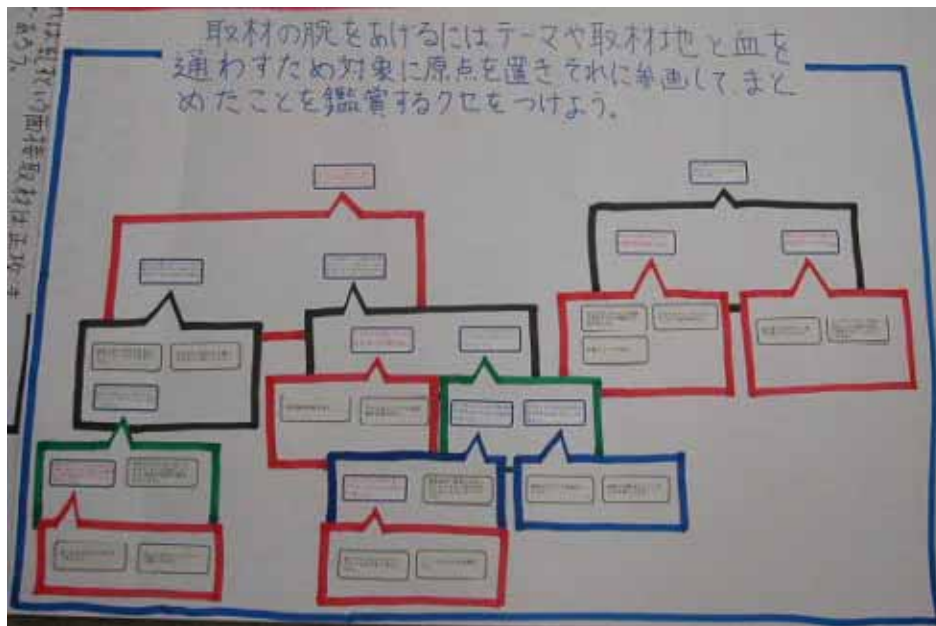


図 36 ユニーク階層図解

2003年8月6日 メール:筆者から早稲田 KJ 研究会メンバーへ
こちらでの KJ 法研修会は今日で3日目です。

今日は、午後の4時過ぎまで、

昨日の午後から始めた「現場取材の心得」の図解化を進めました。

図解化に時間がかかることを参加者は初めて知ることとなりました。

昨晩は、図解化の前に行ったシンボルマークによる空間配置の情報交換が効
を奏し、

各自、自分のストーリーでユニークな図解をつくりました。

一番面白かったのは、添付メールにもあるように、

コンピュータで複数のウィンドウ表示と同じように描いたものでした。

彼はコンピュータが好きで、KJ 法の階層性を複数ウィンドウ表示として捉えた
そうです。

もう一つ面白いのは、座標上に島を配置したものです。

各自が独自色を出すことにより、特に全く初めての学生さん達は
自信を表明するようになりました。

この研修会でのシミュレーション作業の特徴は、シンボルマークによる空間配
置の段階で口頭発表会をしたことである。

実際は発表会というようなものではなく、互いに学びあうということを目的に、
自然発生的であるかのように筆者が導いた。こうすると、参加者は構えることな

く自分を表現することがきる。

この空間配置が終了した人から、作業の場で筆者に向かって解説をしてもらい、その後すぐに他の参加者を招集してもう一度解説をしてもらった。

図 33 の作者の説明が終わってから

T: 発想がすごく面白いなと思いました。やっぱり、時間というものを抜きには考えられないので、それをすごくうまくイメージの中で、シンボルを使って表していることができ、最終的な方向性まであって、面白いなと思いました。具体的にこれを当てはめるといえるときには、また聞きたいなとおもいました。

E: 今までこういうのがなかったから、びっくりしました。

S: 私は逆に、学生さんの、一番二番三番四番があるというのを見て、順序だててやっていくのがあるんだなというのがあって、私の場合は、ストーリーというよりも、ネットワークでの結びつけでしか考えてないから、うまく一から十までを説明するというそういうリニアな感じではないので……。

M: こういうように、構造的に見ることは必要なんだけど、普段やってないから、意外と難しいんですよ。やってしまうと、あっそうかとなるんです。

Y: そうなんだな。

M: KJ 法の面白いところは、いろんなやり方が全部入っている。

F: 僕のイメージの中では、ある程度シーケンシャルに最初から最後まで行くというイメージしかなかったのだから、こういう風にぐるぐる回ったり、3次元上にスパイラルに昇っていったり、そういうイメージが全然なかったから、すごいなと思いました。

T: 感無量ですね。関係だけでいいような気がしてたんですけど、こういう順序とか大切だなと思ってたんですけど、全部の要素が全て混ざってるみたいなんです、完璧な感じがしました。

M: 箇条書きにすると、書いたものはこれしか見えないんだよね。ところが空間配置するとこの間(シンボルマークの間を叩きながら)が見えるんです。この間まで自分の世界で考えて配置するわけです。そういうことが可能です。図解って言うのはそういう要素がある。ストーリーにすると間をきちんと詰めたものが出てくる。だから、口頭発表も大事だし、文章化も大事です。全部一通りやったほうがいいんです。

E: スパイラルモデルが出てくるとは思わなかった。KJ 法自体が方法論で、方法論を実践するために、また別の方法論をもってくるというのがすごい発想だと思った。これは面白い。

M: KJ 法は方法論なんだけれども、要するに、いろんな渾沌としたやつを階層的にまとめているだけなんであって、それをどう使うかどう見るかは、やってる

本人の問題なんです。方法論があるからこちらが規定されるのではなく、それが土台になって全体構造が見えた上で、じゃあ何をしますかということになる。KJ法は、渾沌としたものに新しい枠組みを設けて見えるようにしましょう。ビジュアル化なんです。ボトムアップで表札があるから、意味の階層性を実現することが可能なんです。そのときに心理的なもの、人間の情念とか、先に捉えてしまう斥候みたいなものがあるから、それをマスターするのがたいへん難しい部分があるんです。

T: メタ理論、メタ方法論というようなものですかね。

M: めったく面白い。学生さんにはこういう議論が必要なんですよ。

KJ法をいくら教えてもダメ。こういう風に仲間同士で発見しあうことしかないんですよ。表札もラベル集めも、仲間同士で発見しあうことが一番です。こうですと言っても、わかんないから。間に居る私は、出来ることとできないこと、していいこととして駄目なことをひとよりよく知っているだけ。その部分で口を挟むだけ。

Y: まず思ったのは、僕はストーリーをまず作っていこうかなとおもっていたが、これには驚いたね。まず座標を作ってこの中に、8枚のラベルを落としこむということなんかは全く考えていなかったの、びっくりしました。時空というか、座標がありますよね、その座標を身体と精神、方法論と実践を彼女の場合は設けたんだけど、これって出来そうで出来ない。今度はみんな座標で考えるとしても、座標がみんな違うんだと思う。さらに驚いたのは、二次元の座標の中に、そのスパイラルを入れてくるとは、知識科学の鏡みたいだなと思った。

M: 作りながら中身を読みながらきて、こういう表現はいいねと思いつつきて、その中で構築されてきているんです。そういうデータと自分が本来持っているものと対話する、近藤先生に言わせると振動するというんだよね。それで生まれてきているんです。そこがいいところなんだ。

Y: ほんとにね、三村さんも言ってたけど、距離感ていうのがね、これには表されているでしょう。そういう感覚が素敵だなと思ったね。それと後は、これは二軸だけど、ひょっとすると三軸か四軸か、複数の軸の中でも考えられるかもしれないね。人間の心なんてそうさ。

T: すばらしい。



図 37 シンボルマーク図解

図 37 の作者のしどろもどろの説明が終わってからの意見交換

M:これ、あっという間に出来たでしょう。頭の中に一瞬のうちに全体像が浮かんだんです。本人がしゃべるときにつまづいているようだけど、頭の中では腑に落ちているんです。だから、周りの人が見て、なるほどその通りだよなでしょ？腑に落ちるもん。そうだそうだその通りだ。そういう風にも見なけりゃいけないんだと。

S : 関係線を矢印とか点線で区別する方法は今までなかったから新鮮。

Y: その太い矢印にはまいったな。

T : うん、とても力強い感じがしましたね。

Y: この流れが中心にあるんだね。いいね。

M: ぱっと見た瞬間、なんか、ウンとくるでしょ。こうやって、ぱっと入ってくるね。ぽんと入ってくる。

T: うん、そう、そうです。なるほど。なんかすごいグループではありませんか。どんどん出てきて、2つと同じものがないというのは。

M: 前の(ひとの作品の出来栄え)が低いとか高いとかじゃなくて、その人の個人として、触発されて、その個人が伸びていく。瞬時に伸びるからね。やはりこれも中身をきちんと積み上げているから、そのエネルギーというのが必ず結実するんです。体験上、いつもそう思うんです。KJ 法をみんなで和気あいあいとやったからといって、そういうことないんですよ。素材がいいですよ、まず。川喜田さんのカードがね。

表札がいいでしょう。皆うなっているじゃない。そのなかで、何か構築されるんですね。さっきも言ったけど、早稲田の人たちには大変だけど、図解を作った後の発表のときに、島一つ一つに自分の体験上のエピソードを話してもらった。

これが面白い。自分の体験に自信を持ってない人がいた。俺の体験なんか……。まあ、一応言おうとやったら、拍手喝采。ええっ？そんなに皆こんなの面白いんですか？それから議論が発展した。個人から出たものはみんな貴重なんですよ。私が KJ 法の研修会が好きなのは、こんなことがあるからなんです。毎度、お説ごもつともだけでしゃべるだけで、何が身につくのかな？今日のなんて、まさに互惠だよ。独自の把握してるしさ。これが全部ここで育ってるのさ。ついしゃべっちゃった。(笑い)安藤さん、どう？

A: 僕、心理学やったんですけど、ロールシャッハテストっていうのがあるんですね。人の心を映し出す。ある意味、その人が大事にしているものが上手に出るので、ある意味、理解して欲しいときにも、こういうもの、要するに発表するときに見えるし、見る人も一発で分かるという意味でも、いい表現媒体だともうんですね。しかも、方法論がかっちりしているから、的確に言う結果、そういう方法が でしょうね。それが抽象的だとどうとでも取れるから、ウーンという感じなんだろうけど、明確な言葉があるから、川喜田先生の作られた図解が正しいんじゃないかなと思う。

S : なんか、箱庭療法に似ているような気がする。メンタル性を感じる。

M: ユングの箱庭療法ね。

Y: それってどんなのなんですか。

M: 1メートル四方の深さ20センチの箱があります。内側は水色で塗られています。水色というのは水という意味です。その上に砂を敷きます。それを取り除けば、水が出てきますから、これは川、あるいは海になります。部屋の壁にはいろんなおもちゃが置いてあります。それを配置するんですが、その人の心の配置しか出来ないんです。その変化を見るわけです。

Y: なるほど。

M: 河合隼雄が、ユングの心理学で日本にもたらしたものです。この図でも何でもそうですよね。その人の世界だから。どれがいいか悪いかではなく、その人がそうなのであって、そこから他人の個性を学んで、自分の糧にするというのが大事ですよ。点数をつけるからいけない。点数なんかいらぬ。その人がその人らしくあったら満天！あるいは百点から始まるとか。百点がリミットではなく、百点から始まるという考え方をすればいいんです。そうするといくらでも広がれる。私は教員を辞めてよかった。百点以上つけるとしかられるからね。

Y: 用紙も、縦書きにしたり横書きにしたり。左から右へ描くヒト、上から下へ描くヒト。これもまた面白い。

S : 形に対するこだわりみたいなものを感じられて、それも彼の世界なんだろうなと思うんですよ。非常に左右対称にきれいに配置するという、その関係性もきれいに整理したいという彼の内面みたいなものをすぐうかがい知れますよ

ね。

M: どうですか？

K: う～ん、あるかもしれない。

T: 一本筋を通したいとか。

M: 同じがないというのがいいね。

T: すごいね！！

M: 図解の島ごとに、自分の日常のエピソードをいれて、普段からしゃべる準備をしておくといいですよ。全体構造の中である言葉を述べると、生きたスピーチになりますね。

Y: ところで、手作業もやっておいたほうがいいですね。コンピュータは確かに楽だが、自分の体力で、腕でやっていかないといけないかもしれないね。

このように優れた教材とシミュレーションが合致すると、KJ 法の本質的な発見をするようになるようである。

「現場取材の心得」シミュレーション図解をつくっているときに、一息入っていた Y 氏との対話より。

Y: 2枚を対等に扱うのではなくて、核融合的にやるのではなくて、その2枚をストーリーを作ってくっつけているというのがあるんですね。

それから、何層目だったか忘れたけれど、言い換えてより本質にせまっているんですね。言い換えが深い。拡散していくのではなくて、発散していくのではなくて、コトバがグッと濃いんですね。

とかく上の方へ行くと何言ってるのか分からないような言葉に、僕だったらなりそうな気がするんですよ。文章に常になっていくというのがね……。僕も一回やろうとしたら、必ず名詞で終わっていたり、体言止めになったりするわけけれども、そこに必ず動詞が入っていたり、形容詞や副詞がピッタリ入っていたりするんですね。そんなことがやっぱり違うんですね。

実習でやったのがいったいなんだったのか、改めて思いますね。

M: それならこのシミュレーションをやったほうがよっぽどいい。

Y: 本を一冊とか、この間の「複雑系の知」みたいなのにチャレンジしたくなかったですねえ。

少ない枚数でもいいんだけど、みんながどれくらい表札をつくれるか考えたり、どのところでどれぐらいの時間をとったり、結果を見るといっしょになってしまうけれども、そのプロセスの中で、どういうふうにそれをどこで悩んだのかとか、それって人によって結構違ってくるかもしれない。

そういう意味からすると、例えば三村さんが、同じものを使ったときどこで悩んでるのかなとか、どこでいちばん苦しんでつくったのかななんてね、そういうのに興味がありますね。私はどこで考えちゃったのかななんてね。

M: 作法としてしていいことと悪いこと、精神として持っていていいものと悪いものを意識してやっているだけ。データが出てきたら、データに対しては全くの素人です。いつも白紙状態。

Y: 今日やって思ったことは、たった一枚のカードが最後まで残っているやつもあるわけでしょう。僕はそれに耐えられなくなって、何とかつけようとする努力をしようっていうせめぎ合いがあるわけ。

M: それはあります。

(二人で大笑い)

Y: そのところを耐えながらああやって残していくのがねえ、非常にこれってねえ……。

M: だから、素直にやればいいんですよ。

Y: そうは言うけど、ウワー、これって辛いよなあって思いながら……。実にそれを思いながら、ウワー、これ残したのかみたいな。次の階層へ行ったら、ウワー、ここでくつつくなら前のところでなぜくつつけなかったのかなあと思いながら悔やむんじゃねえかみたいなね。

一枚だけ残っていたのが、3階層で積みあがったところでスコンとついちゃうとかね。あれって不思議なんだよね。あんとき、おそらくハッとするんだろうね。

M: そんな時、不思議な独特の喜びを感じるね。

Y: いやあ、誘惑とのせめぎあいだなあ。つけちゃう自分に嘘をついちゃいけないみたいな。邪念とそれの……。面白いですよ、これは。

借り物の内容であるにもかかわらず、ラベル集めのダイナミックな階層性にどきどきしする人がいることを知って、内容の優れたものなら、面倒な作業でも耐えられるということがわかった。

インターンシップ学生についての社会人のやり取り

Y: 僕らはある程度の知識が入っているし、背景も知っているし。だけど学生さんたち4人は初めてだから、昨日今日やったやつとか、とりあえず辛いけどもね、こういうのを一通り最後までやるというのは、これはいい方法だなと思った。これによって、どうやってこういう風に積みあがっていくのかわかるよね。

T: 私もわかる。

Y: 彼ね、自信つけちゃったね。

T: 彼、最後まで、私と同じぐらい結構最後までがんばってやっていた。今ね、学校でああいうほめられ方をする時間がないんですよ。何かを評価しなきゃならない。ああいう形が出来て、ほかのヒトと違うね。これはいいと。

M: 個別把握で個性を評価するときが一番なんです。あなたでなきゃいけないんですよと。

T: 次にまた個性を出すことが出来る。ほんとに、目に見えてそう思いました。

M: 今日みんなの図解の発表会で、一気にみんなの距離が近づいた。これで議論が変わりますよ。

T: 少年たちは花開きますね。

お互いの解説を聞いた参加者はたがいに刺激されて、自分の空間配置をより深めようという動機付けとなった。二度目の解説をしたほうもまた、より深まったといえる。

このことにより、全員が互いの作品の解説を味わうことが出来た。

島ごとの図解化をしなくなり、模造紙を2枚を貼り付けて1枚とし、この1枚に丹念に図解化していった、図解化の第一歩であるこの空間配置が自分として腑に落ちたものとなると、細部の図解化も精緻なものとなっていく。

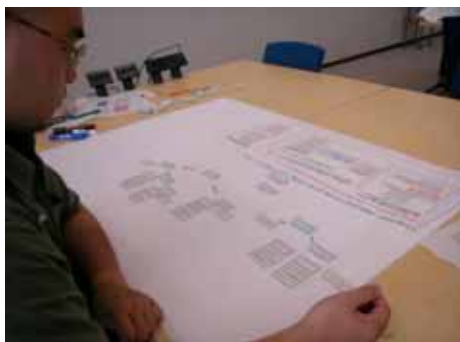


図 38 図解制作中



図 39 関係がよく練り上げられた図解

パルス討論からグループ KJ 法へ

翌日の四日目は、テーマ決め、パルス討論と多段ピックアップ、グループ KJ 法というスタンダードなメニューに朝から取り組んだ。

決まったテーマは、「死して何を残すのか」であった。

このような抽象的哲学的議論は、しにくいものである。しかし、驚くほど活発な議論が展開された。彼らのリード役に筆者が選んだ社会人学生(30歳代、40

歳代、50歳代)をしのぐ若者たちの鋭い発言に、議論は深まった。

年齢層、性、職業背景、興味関心など、このテーマをめぐっての議論は、異質の集まりのよさが発揮された。

シンボルマークによる空間配置図解の発表会により、自分に自信を持った学生もあられ、参加者同士の距離を縮めたことによるものであることは明らかである。

シミュレーション最大の難題である図解化の初段階を、互いの考えや解釈を聴きあう場を設けることによって、かえってよりよい状況を生み出すこととなった。

これは、内容に優れたKJ法作品にめぐまれたことと、KJ法の仕組みを知ろうとすることによって、内容にも興味を持ったからであろう。

ここまでの効果は、当初は予想できなかった。



図 40 2 サイクルの討論により、得られた意見数は期せずして108枚

翌日の午前2時までかかって、8束にまで仕上げた。

シンボルマークをつけることを宿題とした。

シンボルマーク空間配置による発表会

最終日は、「現場取材の心得」の要領で、各自がつけたシンボルマークで空

間配置を行い、口頭発表を実施した。

「現場取材の心得」の段階ですでに口頭発表をしているので、どの参加者もよくこなれた発表となった。

完成した図解で発表すると、元ラベルに引きずられて、それらを読み上げることに終始しがちである。シンボルマークだけの空間配置による口頭発表のほうが、体験上自由闊達な発表となるようである。

早稲田KJ研究会では、シンボルマークで空間配置した図を片手に、口頭発表をしてもらった。このスタイルを実行した参加者たちの発表内容は非常に興味深いものであった。島ごとに図解化し、空間配置しながらの発表もあったが、この場合は下位の表札や元ラベルではなく、島一つをシンボルマークでとらえて動かしていたように感じられた。現に、発表内容はシンボルマーク空間図解を手を持って発表したひとたちとは、発表内容に遜色はなかった。それよりも、発表を聴いている側の様子を観察していると、目の前で島単位の大きな図解が動かされることで、視覚的にも聴覚的にも楽しめたようだった。

また、30年前にすでにKJ法を体験した年配の参加者には、すでにラベル操作は知っているということで、シミュレーション作業はしてもらわなかったが、自分も発表したいということで、他の参加者がつくった島ごとの図解を借りて、空間配置をしながら口頭発表をした。参加者は興味深く聴いていた。

シンボルマークだけではこうはいかなかったのではないかと思われる。おそらく、シンボルマークと下位表札や元ラベルが描かれている島図解を、視覚はシンボルマークだけでは捉えられない島全体を捉えていたのではないだろうか。

シミュレーション作業における図解化の初段階で、自分の言葉ではない借り物の内容でやる場合には、島ごとの図解をまず作り、その段階で内容も把握しているであろうから、島を動かしながら空間配置をするのも一案かもしれない。そうすれば、シンボルマークが従えるラベル集まりの束の全体の意味をシンボリックに表現していることを意識できるのではないかと思われる。

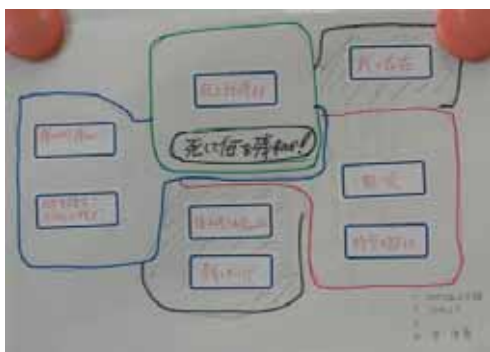


図 41 立体表現

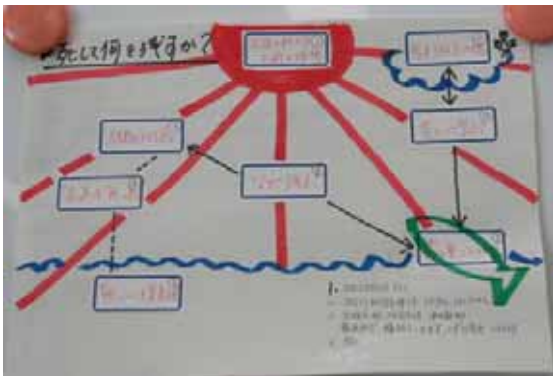


図 42 シンボルマーク空間配置

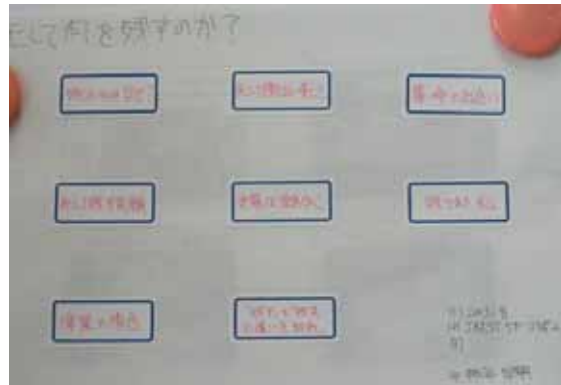


図 43 シンボルマーク空間配置

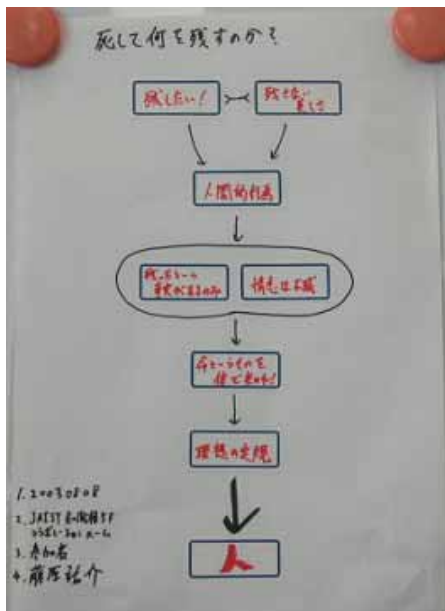


図 44 シンボルマーク空間配置

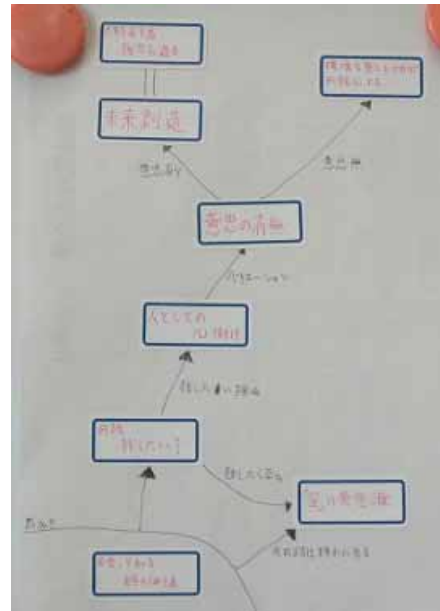


図 45 シンボルマーク空間配置

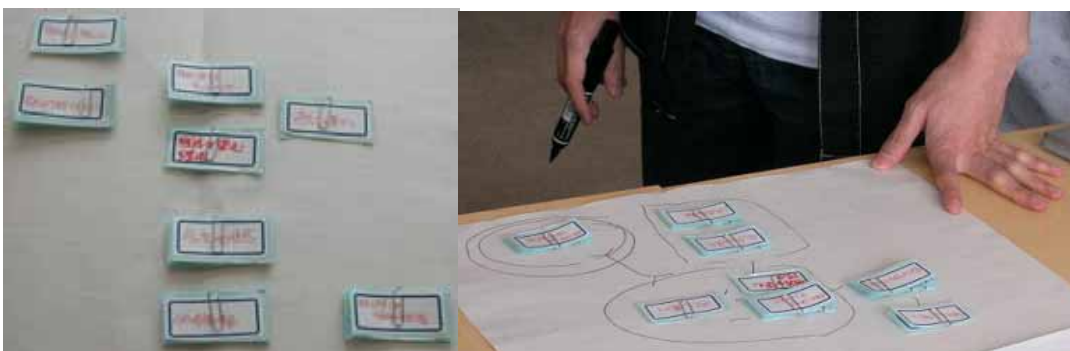


図 46 シンボルマーク空間配置

第 5 章 20枚ラベル手作業シミュレーション

5-1 グループ創造技法体験研修会

元ラベル22枚による試み

2004年8月27日

ISP人材確保・育成支援セミナー

「創造的人材育成のためのグループ創造技法」

講演と実技実習を半分ずつにし、一時間で KJ 法の感じをつかめる実習をするようにという要請があった。

それまでは、時間制約がほとんどない条件下でインストラクションをしてきたので、これには戸惑った。考えあぐねた末に、元ラベルも表札もシンボルマークもすべて既成の作品を使ってプリントし、それを裁断して作業手順通りに手作業をしてもらえば、ラベル操作だけを通して感じは掴んでもらえるだろうという結論に達した。

一時間でということになると、ラベル数が問題である。

早稲田 KJ 研究会での島ごとにつくられた省エネ図解が思い出された。大きな島を見て、これぐらいの大きさでも KJ 法の階層が3段以上あるので、階層性を理解するには「死して何を残すのか」が22枚であり、内容的には抽象的かつ哲学的ではあるが、誰にでも当てはまる問題なので、20枚程度が適切枚数であると判断した。

当日は、作業手順を示したプリントも用意し、簡単な解説をして作業に入ってもらった。

参加者を観察することで判明したことは、作業手順のプリントは、まったく役に立っていなかったということだった。周りに集まってもらって作業見本を示したが、それでもわかりにくいようであった。

一番ショックだったことは、2段目で集まったラベルに表札を一緒に束にするとき、下位段階で留めていたクリップと一緒に突っ込んでいるひとがいたことであった。表札をつけたラベルグループは、一枚のデータとしてあつかうという意味が分からなかったのである。筆者が実演したら、「ああ、そうやるのか。本を読んでも作業の実際がイメージできないんですよ」ということであった。

本を読んでも分からないという声は多い。KJ法は、説明を聞いても本を読んでも分からない。それはたたみの水練と同じだからである。

ある時、KJ法の質問をしてきた知人がいた。彼は川喜田二郎著作集全巻を持っているので、何巻の何ページを読めとアドバイスをしたら、アンダーラインを引いたコピーを送ってくれとやってきた。いろいろ書いてあるので、どれが大事か分からないという。初心者にとって重要なことは、入門の敷居が入りやすい高さであることである。そのために、作法としてのビジュアルおよび手作業シミュレーションを制作したのである。

この失敗により、一時間で狭義のKJ法一ラウンドの作業工程を分かりやすく体験できる教材を作ろうと決心した。



図 47 筆者説明風景

自分が残したものを生きている人に活用して欲しい	「残したい！」と思うのはなぜ？	死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある	人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である	何かを残したいという欲求は本能である
昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない	「残すこと」と「残ること」は同じではない	魅力的な人物は語り継がれる	自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ	一度しかない命は得難く尊いものである
何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による	残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある	人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ	無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる	一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい
人間の営みは、放っておけばそれなりどころへ向かっていく、なるようになるのでは？	意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない	残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい	住みやすい社会を残したい	諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない
何も残さないことをキレイだと思ふ感覚は日本的である(ワビサビ)	死体は灰にして海に流して欲しい			

死して何を残すか？

偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する	消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす	命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れる	次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である	死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる
----------------------------	---------------------------	------------------------	----------------------------------	--------------------------------

はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である

人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている	文化的、社会的産物はとりまく世界のありようによって、自然にその姿を変える	残すか田舎の基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる	死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す好意は人間的である
-----------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------

多くの人と出会うことで命こそ得難く尊く同じ重さを！持つものと知れ！	理想となる基準を持つて環境を整備せねば、あらゆる事物は時間の洗礼に耐えられず、正道が見失われる	立つ鳥跡を「残さず」の精神は、日本の美意識である
-----------------------------------	---	--------------------------

1. 20030808 Fri.
2. JAIST 知識棟5F
コラボレーションルーム2
3. 笠瀨秀一郎、柿谷宗明
津田顕一郎、藤原祐介
鱸裕子、寺朱美、羽山徹彰
4. ラベル集め及び表札作り: 同上
シンボルマーク: 柿谷宗明
図解化: 柿谷宗明
5. JAISTインターンシップ研修
6. インストラクター: 三村修
電子化: 三村修

残された私	世界は流れ行く	死して残さない美しさ	尊い命の出会い	死して残す笑顔
-------	---------	------------	---------	---------

偉業の情念	残「す」「る」の違いを知れ	残したいのはなぜ？
-------	---------------	-----------

図 48 「死して何を残すのか」手作業紙教材

死して何を残すか？ 元ラベル並べ

人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ	死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある	人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていくようになるのでは？	何かを残したいという欲求は本能である	「残したい！」と思うのはなぜ？	<p>☆整然とならべましょう。</p> <p>☆動かし易くするために、間を少し空けましょう。</p>
意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない	「残すこと」と「残ること」は同じではない	一生は短いので、出来るだけ多くの人と出会いたい	自分が残したものを生きている人に活用して欲しい	死体は灰にして海に流して欲しい	
昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない	自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ	無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる	一度しかない命は得難く尊いものである	残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある	
何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による	魅力的な人物は語り継がれる	人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である	諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない	残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい	
住みやすい社会を残したい	何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)				

第1段階 ラベル集め

「残すこと」と「残ること」は同じではない	一度しかない命は得難く尊いものである	人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていくようになるのでは？	一生は短いので、出来るだけ多くの人と出会いたい	「残したい！」と思うのはなぜ？	<p>☆集まったラベルは、図のように重ねましょう。</p> <p>☆絶対に枠外には出さないことが、コツです。</p> <p>☆場の相対的近さを意識して集め(集まり)ますから、集まっても同じように読み進めるうちに、より近いラベルに気づけます。</p>
意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない	人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ	何かを残したいという欲求は本能である	自分が残したものを生きている人に活用して欲しい	死体は灰にして海に流して欲しい	
昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない	自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ	無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる	死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある	残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある	
何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による	魅力的な人物は語り継がれる	人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である	諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない	残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい	
	何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)		何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)	住みやすい社会を残したい	

第1段階 表札づくり

命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ	消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす	死んだ人の魂を持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる	偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する	はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である	次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である
一度しかない命は得難く尊いものである	何かを残したいという欲求は本能である	自分が残したものを生きている人に活用して欲しい	人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である	諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない	残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい
人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ	無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる	死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある	魅力的な人物は語り継がれる	何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)	住みやすい社会を残したい

第2段階 ラベル並べ

「残すこと」と「残ること」は同じではない	命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ	人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていくようになるのでは？	一生は短いので、出来るだけ多くの人と出会いたい
意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない	自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ	消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす	死んだ人の魂を持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる
昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない	偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する	はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である	死体は灰にして海に流して欲しい
何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による	次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である	「残したい！」と思うのはなぜ？	残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある

図 49 「死して何を残すのか」作業手順

第2段階 ラベル集め

「残すこと」と「残ること」は同じではない	命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ	人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく、なる	一生は短いので、出来るだけ多くの人と出会いたい
意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければ	自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ	何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による	死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる
次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である	消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす	はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である	偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する
死体は灰にして海に流して欲しい	昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない	「残したい！」と思うのはなぜ？	残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある

第2段階 表札づくり

残すか田舎の基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる	死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す好意は人間的である	文化的、社会的産物はとりまく世界のありようによって、自然にその姿を変える	人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている
意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければ	自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ	人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく、なる	死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる
次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である	消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす	何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による	偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する

第3段階 ラベル並べ

「残すこと」と「残ること」は同じではない	命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ	文化的、社会的産物はとりまく世界のありようによって、自然にその姿を変える	一生は短いので、出来るだけ多くの人と出会いたい
残すか田舎の基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる	死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す好意は人間的である	はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である	人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている
死体は灰にして海に流して欲しい	昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない	「残したい！」と思うのはなぜ？	残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある

第3段階 ラベル集め

「残すこと」と「残ること」は同じではない	人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている	文化的、社会的産物はとりまく世界のありようによって、自然にその姿を変える	一生は短いので、出来るだけ多くの人と出会いたい
はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である	死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す好意は人間的である	残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある	命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ
死体は灰にして海に流して欲しい	昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない	残すか田舎の基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる	「残したい！」と思うのはなぜ？

第3段階 表札づくり

立つ鳥跡を「残さず」の精神は、日本の美意識である	多くの人と出会うことで命こそ得難く尊く同じ重さを！持つものと知れ！	理想となる基準を持つて環境を整備せねば、あらゆる事は時間の洗礼に耐えられず、正道が見失われる
はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である	一生は短いので、出来るだけ多くの人と出会いたい	文化的、社会的産物はとりまく世界のありようによって、自然にその姿を変える
死体は灰にして海に流して欲しい	命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ	残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある
	残すか田舎の基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる	

図 50 「死して何を残すのか」作業手順

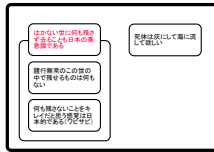
死して何を残すか？

残したいのは
なぜ？

「残したい」とは
誰の？

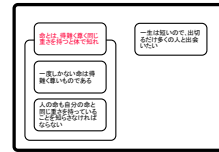
死して残さない美しさ

立つ鳥跡を「残さず」の精神は、
日本の美意識である



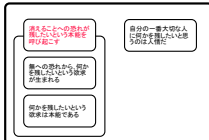
尊い命の出会い

多くの人と出会うことで命こそ得難く
尊く同じ重さをもつものと知れ！



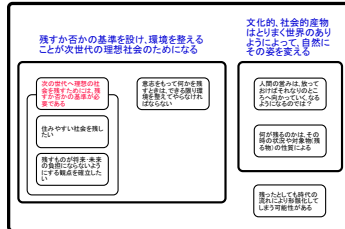
死して残す笑顔

死を笑顔で迎えるために、大切な人
に何かを残す行為は人間的である



世界は流れ行く

理想となる基準を持って環境を整備せねば、あらゆる
事物は時間の洗礼に耐えられず、正道が見失われる

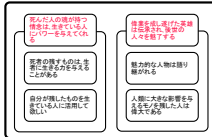


残された私

昔の人と同じくらい
自分自身、今の自分が
残る。

偉業の情念

人々を魅了し、パワーを与える偉業には、
死者の強い情念がこもっている



残「す」「る」
の違いを知れ

「残す」とは「残る」

A 7-9
B 4-6
C 1-3

- 20030808 Fri
- JAST 稲垣健吾
- コラボレーションルーム2
- 空軍第一師団、稲垣健吾、藤田謙一、藤原花介、藤原花介、寺本英、羽山徹彰
- ラベル集め及び表札作り、同上
- シンボルマーク、稲垣健吾、藤原花介、寺本英、藤原花介
- JAST インターンシップ研修
- イシタカ、三村修、電子化、三村修

図 51 「死して何を残すのか」図解

5-2 再挑戦

翌日は、15人の参加による前日のフォローアップ研修会が開かれた。
があった。

前日の失敗を教訓とし、同じ教材で筆者の音頭で作業をしてもらった。ラベル並べ、ラベル集め、表札づくり、シンボルマークの作業工程までは、順調に進んだ。



図 52 図解化に取り組み風景

図解化の段階に入って、シンボルマークでの空間配置は、各自に任せた案の定、ここで流れが止まった。

自分の言葉でないのでイメージが湧かないという訴えがあった。それで、全員に集まってもらって、解説しながら、当人に動かしてもらいながらやってみた。

「現場取材の心得」を使ったときは、すべて手作業で、しかも内容を味わい理解しながら進めたので、この作業はひとによっては苦行だったようだが、図解化の初段階での空間配置はむしろよく練られたものになった。自分の言葉でないのでイメージが湧かないので空間配置が出来ないのは当然のことである。

観察していると、借り物の内容であっても、機械的な作業をしつつも内容を素早く把握して作業をしているひとや、日常的に他人の情報を読み解きつつ整理しているひとは、空間配置でつまづかないようである。

しかし、その次に体験する自分たちの言葉である KJ 法を理解できるかということ、そうとも限らない。

空間配置の作業は、意味の関係性に着目しているが、自分の考えが大いに反映されるもの、すなわち自分の観念世界に当てはめられるひとの方が、借り物のデータで空間配置をするときは容易だといえる。

短時間でラベル操作だけを知ってもらおうという目的にシミュレーション教材を使うならば、図解化初段階での空間配置も、借り物でやってしまったほうがいいかもしれない。

単なる分類ならば、何についてという具合に、既成の枠に放り込めるが、ラベルがそれぞれに持っている意味を考えると、納得のいく配置にたどり着けなかった。

KJ 法を学びにきた若い学生が、「死して何を残すのか」のシンボルマークで空間配置にトライしたとき、4時間かけても決まらなかったと報告してきた。彼の場合には、表札はつけなくても、各段階でラベル集めをやってもらったので、それなりの内容の読み込みは出来ていたはずだが、やってみたらそうではなかった。

「死して何を残すのか」では、8枚のシンボルマークを空間配置するが、ひとによっては、8枚という数は一度に全体の意味を捉えるには多すぎる数なのかもしれない。

マジカルナンバー 7 [31]

前日の研修会で、自分にとって一度に意味が捉えられる数はいくつかを質問してみた。一番多かったのは、3～5であった。

川喜田は、いくら多くても10束までといっているが、初心者にはこれは多すぎるようである。5束前後がいいようである。「現場取材の心得」も8束である。

早稲田 KJ 研究会では、島ごとに図解化しておいて、口頭発表しながら空間配置を考えるということが多くあり、8束は初心者には多いのかなと感じさせられた。

早稲田 KJ 研究会のメンバーの、川喜田先生とKJ法を一緒にやってみたいという熱い希望がかなって、2004年1月24日にご夫妻と一緒に KJ 法作業を行った。



図 53 川喜田二郎博士夫妻と早稲田 KJ 研究会メンバー

このときに、何束までやるのかが話題になった。参加者の一人が、部下が6人を超え、増えれば増えるだけトラブルが増加すると発言した。

マジカルナンバー7は、一人で一度に捕らえられる対象の数である。

図 54 は、マジカルナンバー7に興味を持った佐藤氏が、統合型花火図解で表現をしようと試みた作品である。

一般的に KJ 法とされているものがこれよりももっと粗雑なものである。

佐藤氏は、「百枚近くの元ラベルを意味の近さで関係的に腑に落ちるまで空間配置し、最小単位から輪取りをして KJ 法による表札づけをし、さらに大きな輪取りをして表札づけをしてみたが、2 段階目で限界であった」と伝えている。

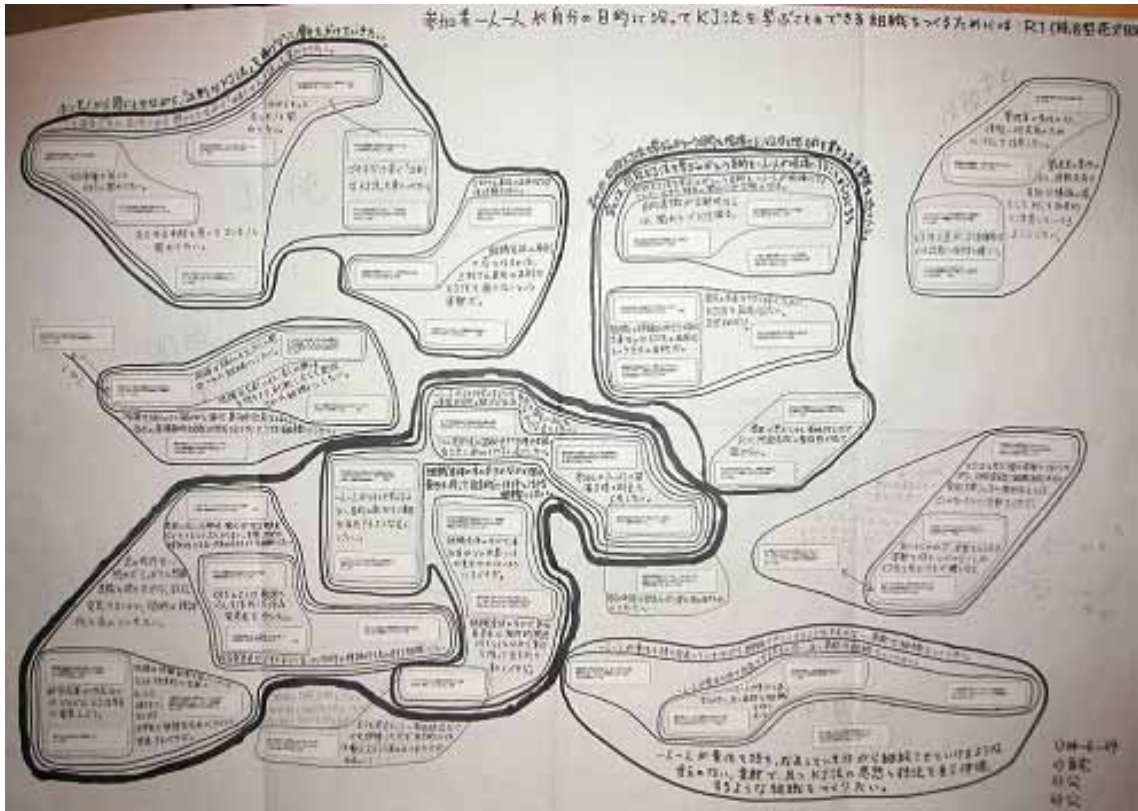


図 54 マジカルナンバー7を花火図解で試みた作品

では、なぜ KJ 法は数束までラベル集めが可能なのだろうか。

「扱うすべてのラベルの集合全体は、いわばひとつの世界であり、ひとつの全体をなす宇宙なのである。その世界全体の声を聴き届けた上で、最も志の近いラベル同士を集めるべき」、これに尽きるのである。

これに関して、ある研修会で以下の興味深い体験をしたことがある。

この研修は、240 枚もの大量の KJ 法作業をはじめから意図したものであった。1人の参加者が、自分の観念でラベル集め、というより、観念にラベルの当てはめをしたことに始まる。

10 枚ほどのグループが10組近くできていた。全体は実に理路整然と空間配置されていた。数百枚でも自分の観念で空間配置が出来るひとにたまにある。このひとはそのような一人であった。

これは KJ 法によるラベル集めではないので、どのようにしたら気づいてもらえるか、一計を案じた。10 枚一組のラベルたちの空間配置をしてもらった。その上で、より近いもの同士を見つけてもらおうというわけである。

空間配置をしたまでにはいいが、どうもしっくり来ないようであった。このとき不

思議な現象が起こったのである。より近くに空間配置されているもの同士が、本当には近い感じがしない様子なのである。

じっとラベルを見つめている。突然、「あっ、あれだ」と10枚のグループとは全く違うところのラベルを取り上げたのである。

これ以後、この参加者は、傲慢な自分との戦い(本人談)を繰り広げたといっている。この傲慢な自分との戦いに打ち勝って、見事な図解を完成した。そして、大いなる発見があったという。

このエピソードについては、第35図が参考になる。

統合型花火	KJ法
短時間のまとめ	ある程度時間がかかるまとめ
簡単なまとめ	本格的なまとめ
その場のまとめ	長期間通用するまとめ
まとめる	まとまる
本人の持っている見方の範囲でまとまる。	本人の持っている見方を乗り越え、新しい考え、本質の見方が生まれる。

図 55 統合型花火とKJ法の比較表 [32]

すなわち、シミュレーションにおける図解化初段階における空間配置については、シミュレーションの前段階で経験できるようにしておいたほうがいいようである。

シミュレーションの効用と反省点

この研修会は、KJ法ラベル操作作業シミュレーション パルス討論グループ KJ法 最終段個人 KJ法 口頭発表 の流れで初めて行ったものであった。

観察した限りにおいては、これまでの研修会のうちで流れが一番スムーズであった。

グループ KJ法作業のときに余計な説明がなく、あってもポイントだけで、作業に集中できて気分がよかったという感想があった。

これは、筆者の音頭でシミュレーションを実施したときに、KJ法作業の解説を詳しくはないが付け加えたことがよかったのではないか。

KJ法は、説明を聞いたり本を読んだだけでは分からないものなので、既成の内容ではあっても、実際に手を動かしながらリアルタイムな解説がポイントだ

けであっても、単なる KJ 法解説だけよりもその効果ははるかに大きいようだ。

KJ 法作業の解説ばかりではなく、元ラベルや表札それからシンボルマークの意味内容にも言及しながらシミュレーションを進めれば、図解化の初段階の空間配置でもつまづくことがなくなると思われる。

空間配置は、意味内容がよく理解されていれば、個々人の問題意識がおのずと引き出され、個性ある空間配置が出来ることは、JAIST インターンシップ研修会で明らかになっている。

今回の研修では、ここまでの配慮がなかったために、自分の言葉でないのでイメージが湧かないという訴えがでたことは当然のことであった。

シミュレーションの効用と欠点

筆者が行うグループ KJ 法は、グループ作業工程をリアルタイムに個人作業 (RT) の体験も出来るように工夫してある。すなわち、グループ作業で使われるラベルセットと同じセットを個人でも持ち、グループ作業工程を自分のラベルセットでもリアルタイムに個人作業と同じ作法を体験できるようにしてある。

TSを導入する以前は、この方法だけでラベル操作を学んでもらったが、TSを導入してからは、参加者には趣旨を簡単に説明するだけで、参加者は、あたかも以前からそうしているかのように、スムーズにラベルを操作している。

STは、ラベル集めと表札づくりに専念できる環境づくりに一役かったことになる。



図 56 探検型花火実習風景



図 57 表札づくり



図 58 表札づくり

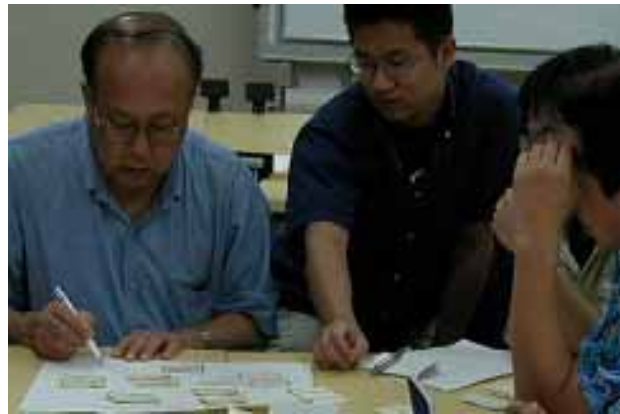


図 59 表札づくり

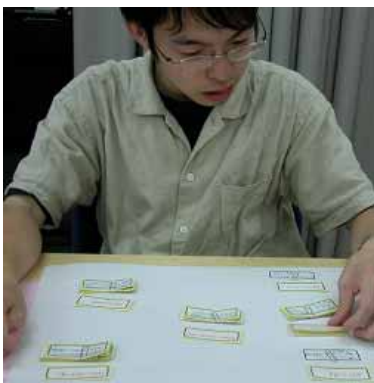


図 60 空間配置



図 61 図解化



図 62 図解化



図 63 図解化

21枚という少ないラベルでのシミュレーションでも、図解化に効果的であった。

最終段階を個人の手持ちラベルセットでやってもらったが、図解化の段階でも自力でやっていた。多少の間違ひはあったが、それは個人的に指摘しただけですぐに理解してくれた。

時間をかけた「現場取材の心得」シミュレーション後はもちろんであるが、わずか25枚の元ラベルで、A3用紙に描ける簡単化したシミュレーションでも、要領はつかんでもらえることが確かめられた。

これは、教える側にとっても、学ぶ側にとってもストレスを感じなくて済むので精神衛生上もたいへんよい。

見知らぬ土地で最も役立つのは地図である。シミュレーションは、この地図の役割を果たしていたようである。自分はこれから何をどうするのかということの見通しが立って取り組むのと、そうでないのでは安心感の度合いが格段に違う。シミュレーションは、単なる道しるべとしての説明ではなく、実感を伴った道しるべとなることが最も優れた点として上げられよう。

観察した限りにおいて、期待感でモチベーションが高まり、場の雰囲気もよくなり、参加者相互のコミュニケーションが促進され、作業への集中力もどんどん高まっていった。

これはインストラクターにとっても非常にありがたいことである。多くを語らなくても、実技とワンポイントアドバイスで分かってもらえる。

シミュレーション中間考察

ここまでの時点で、より効果的なシミュレーションはどうあったらいいか、考察

してみた。

第一に考慮すべきことは、かける時間である。必要なことが伝わる範囲で短いほどよい。同じ時間をかけるなら、説明にかけたい。そうなれば、シミュレーション作業の無駄をいかに省くかということになる。

元ラベル数は20枚から25枚ぐらいがよい。少なすぎると、KJ法独特の階層性を味わうことができない。

表札は、階層性をまずつかんでもらうことが重要なので、手書きをせず、ラベルをそのまま使う。

シンボルマークは、A4用紙に空間配置するので、本体には手書きする。

輪取りは、4色ボールペンを使い、階層を識別する。

元ラベルや表札、シンボルマークは手書きをせずコピーとする。

コピー機の飛躍的な向上により、時間短縮にはコピーは欠くことのできない武器である。

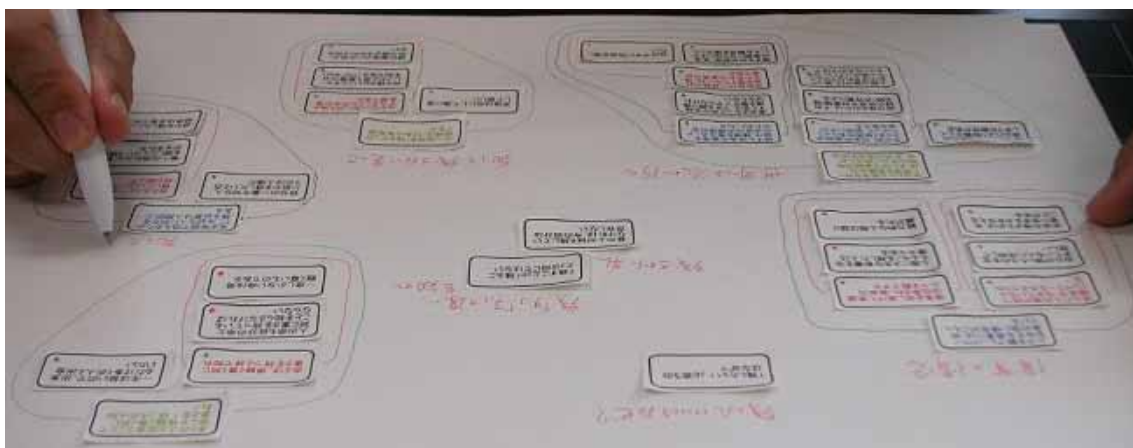


図 64 「死して何を残すのか」手作業シミュレーション図解

第 6 章 ビジュアルシミュレーション

6-1 ビジュアル条件

機器を使用しない。

使用したとしても、簡単に操作できること。

動画感覚。コマとコマの間を補完できること。

本でも動画感覚が得られること。

6-2 ビジュアル&手作業シミュレーション

JAISTオープンセミナー

2004年11月28日

「創造的人材を育成するグループ創造技法」

参加者は33名であった。

当日の予定を書きに記す。

KJ法と周辺技法の違いの解説

KJ法作法ビジュアルシミュレーション(1時間)

手作業実習(1時間)

KJ法の概要を説明(1時間)

ビジュアルシミュレーションを先に見てもらって、その後の手作業シミュレーションには、下図の階層図解をみて作業をしてもらった。

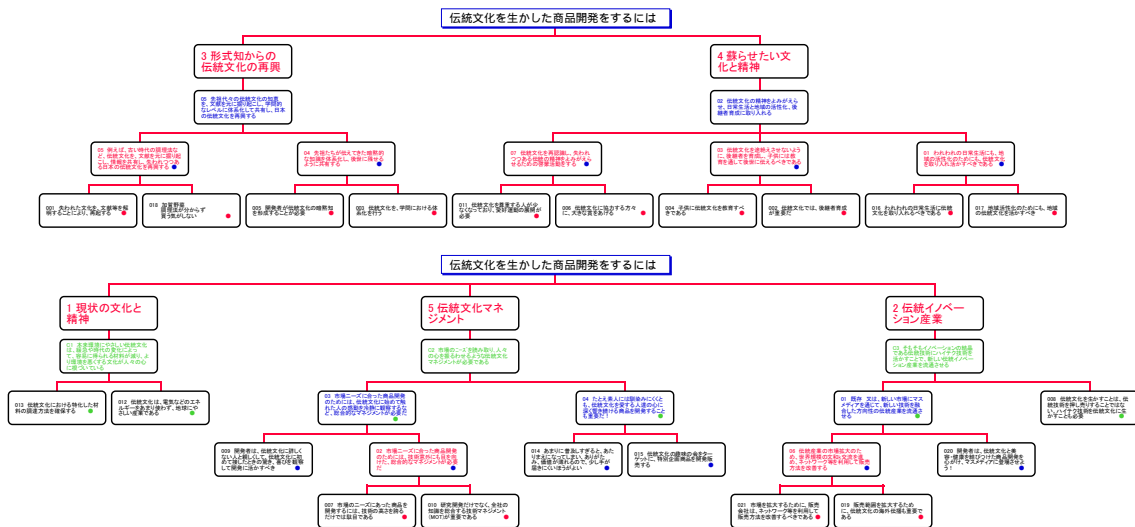
この階層図解は、ラベル集めと表札づくりの全てを示しているので、へたな手順書よりも分かりやすく、かつまた KJ法の階層構造も理解してもらえないか思ったからである。

シンボルマークによる空間配置がうまくいかないという訴えが2・3件あっただけで、全員無事に図解化までこぎつけた。手作業シミュレーションだけの所要時間は一時間であった。

自力でやってもらうのもよいが、作業の様子を見て回ったとき、もう一つうちとけない何かを感じた。朝から講義のみで受身できて、またもくもくと作業をした

からではないかとふと思った。

グループ創造技法フォローアップ研修のときのように、筆者の音頭でビジュアルと手作業のと解説の視聴触覚の三次元で、質疑応答をしながら進めるべきだったと思う。シミュレーションは機械的ではあるが、伝えるときは、人間同士のやり取りのツールと考えるべきであろう。これは何事にもいえることだ。



第 65 「伝統文化を生かした商品開発」階層図解

6-2 感想まとめ

「パワーポイントの説明文が高貴でかつ KJ 法独特の用語があって分かりにくかった」

「シミュレーションだけでは、現実の問題解決やまとめの能力向上になるというイメージは湧かなかった。」

「シミュレーションだけでは本当には分からない。本を読んだりさらに研修を積んだり、さらに実際に自分の問題などでやってみなければ、本当にはわからないと思う。」

KJ 法用語も KJ 法自身も、実際に体験してみてわかることが多い。短時間のシミュレーションの限界を感じる。

「今までやってきた KJ 法とは違って、目が覚めた。KJ 法といわれて広まっているものとの違いを分かるまで知りたい。」

ビジュアルと手作業シミュレーション体験だけでも、誤った KJ 法との違いが

よく分かるようである。誤った KJ 法と正則な KJ 法とは、その作法は全く違ったものである。当然といえば当然のことである。

「図解の具体的な構築手順が良く分かった。中公新書の「発想法」を読んだばかりだったが、理解が深まって良かった。」「KJ 法のラベル整理の作法のイロハはよく理解できた。」「ラベルの動かし方(作法)のあるとラインが理解できました。」「計算機で処理できないデータの整理の手順が大まかに分かったような気がします。」

クリップ留めでつまづいていた参加者を思い出させる。シミュレーションだけで、つまづきのおおかたは解消できるのではないかと思われる。

あとは、ラベル集めと表札づくり感覚をどのように身につけるかという課題を残すばかりである。

シミュレーションだけの実習でも、正則な KJ 法の本質を見抜くひともいた。

「生ラベルの書き方が細かいのに驚いた。」「ラベルを考え出すことが大変そうだと感じた。」「大変有益でした。時間の制約があり難しかったです。」「作法の次の段階がもう少し聞きたかったです。」「実際のグルーピングしていく手法の実習があればよかったと思った。一週間後のフォローアップ研修に出られないので。」「表札をつける(抽象化した表現を捻出する)ことが、非常に難しいのではないかと思います。」

ラベル集めと表札づくりの重要性に気づいてもらえたようだ。

「分類のための道具ではないことを初めて理解しました。むしろ異なるものをより大きな概念で捉えなおしてゆくプロセスと理解しました。」「ラベルをカテゴライズすると考えてましたが、融合することによって発想が生まれる。」「データに耳を傾けるということは、非常に大切だということが分かった。」「結果(真理)よりも、多面的な見方をするというプロセスが大事なのか？」

ボトムアップの本質を見抜いていると感じられる。

KJ 法に初めて触れた参加者の新鮮な驚きの感想もある。

「KJ 法の事を今まで知らなかったのも、とても新鮮でした。」「全く初めて触れる分野であり、大変知的刺激を受けた。ただ、慣れていないので、難しく感じた。」「KJ 法の論理的思考はおもしろい。」

「文章化の手法を知りたいです。」

図解を文章化することのメリットは計り知れない。だが、研修会では、文章化にまで達したことがない。

2004年3月15日に全国から集まった硬式テニス関係の小学3年生から高校生60人(三分の一は小学生)を対象に「わかりあう技法」講習会が開催された。自己紹介点メモ花火図解に引き続き、探検型花火を実習している真っ最中に、一人の小学生が「これは作文に使える」と叫んだ。

意義のある文章を書きたいと思っているひとは多い。子供もまたしかり。だが、作文で苦しんでいるのだ。筆者もそうであった。この子の叫びがいまだに耳に残っている。

「6ラウンド累積 KJ法の全体をしりたい。」

これに関しては、KJ法観のインタビューに次のようなものがある。

「W型問題解決モデルの説明を聞いていて楽になった。問題は何なのかという話しに行かないで、今何をやっているかをラウンドをみて、そこに集中すればいいのだ。」「W型モデルは、R0R1のような展開を絵にして見えるので、何をすればいいのかが見えてきた。」「6ラウンド累積 KJ法を簡単でもいいからやっておけばよかったと思う。先が読めないの、現在やっている2ラウンドに自信がもてない。」

最後の問題は重要なので、何らかのシミュレーションが出来ないかと考えるきっかけとなった。



図 66 「伝統文化を生かした商品開発」手作業シミュレーション

第7章 リアルタイムシミュレーション

7-1 リアルタイムシミュレーション

筆者が行うグループ KJ 法は、グループ作業工程をリアルタイムに個人作業の体験も出来るように工夫してある。

このアイデアは、KJ 法の駆け出しのころから持っていたものである。

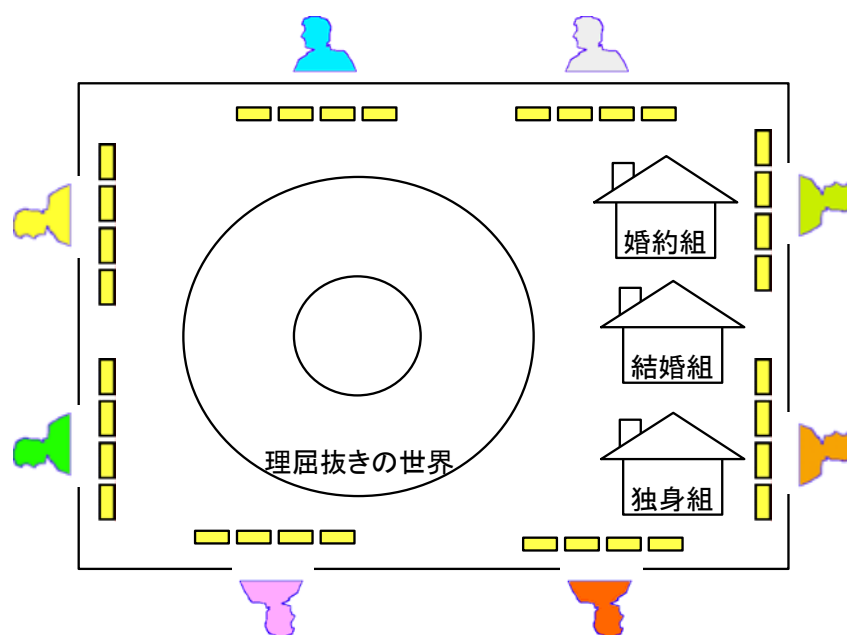
理由は3つある。

全体感がつかめるようにしたい

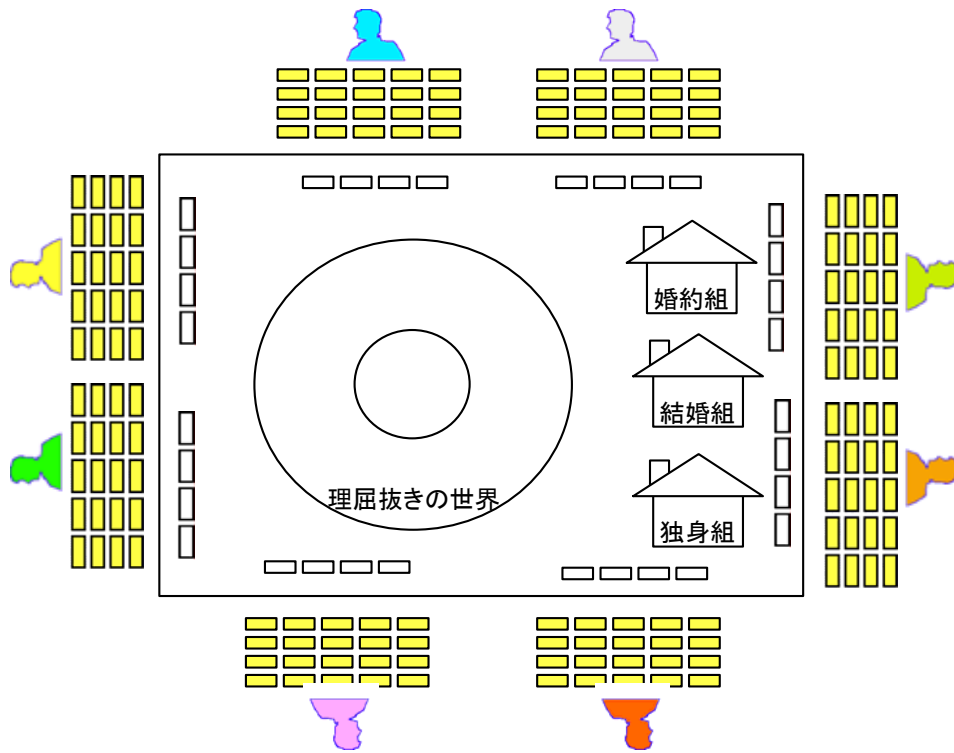
個人作業体験がしたい。

図解が作りやすい。

そこで考えたのが、図 67 のように、グループ作業で使われるラベルセットと同じセットを個人でも持つことであった。グループ作業工程を自分のラベルセットでもリアルタイムに模倣することによって個人作業と同じ作法を体験できるし、常にグループと同じ作業段階にあるので、リアルタイムにグループの作業の全体感がつかめる。



第 67 グループ KJ 法の基本的土俵とラベル配り



第 68 三村式グループ KJ 法リアルタイム個人作業シミュレーション方式



図 69 三村式グループ KJ 法 早稲田 KJ 研究会

この作業では、以下の3つの利点がある。

個人作業のラベル操作は覚えられる

全体感つかめる

図解化が自分で出来る

個人がグループ KJ 法作業と同じラベルセットを持つということは、図解化を各個人でできるばかりではなく、グループ作業の途中の段から個人作業に切り替えることも可能である。

グループ創造技法フローアップ研修では、躊躇なく最終段を個人作業に切り替えた。ひとはある程度学べば自力でやってみたいと思うもので、このやり方は好評をばくした。

グループ作業から個人作業に切り替えたことにより、同じラベルでどれほどの違いのラベル集めとなるかの比較一覧表を作ることができた。これに関しては第7章に後述する。

やり方は、基本的には『KJ法 渾沌をして語らしめる』『KJ法のグループ作業』[32]に準じているが、手続きを若干変形してある。

一人でも反対者がいたら、婚約させないというルールを踏襲する。
いかに手順を示す。

ラベル配り: 全員に均等に配る。

ラベル集め: 親(持ち回り)が、ラベルを読み上げながら二重丸の土俵の真ん中に出す。

付け札: 親も含めたメンバーは、配られたラベルに近いと感じるものがあれば読み上げて、親札(ラベル)との距離感を意識して空間配置する。

手持ちラベルセットを見て、付け札要請: 第 図のように並べてある自分の手持ちセットを眺めて、出されていないが近いと感じるラベルの番号(ラベルには番号を振っておくとやり取りがリズムカルになる)を読み上げ、配られたラベルを持っているメンバーに出すことを要請する。要請された札を持っていたメンバーは、それを読み上げて空間配置する。しかし、ピンとこなければ要請したメンバーが空間配置する。付け札は親札から空間配置的に遠くても、距離感を養うために出しておいたほうがよい。

空間配置による対話: 近い理由を詳しく述べていると、分析的になりすぎて近さの感じが失せてしまうので、言葉で説明使用としないで、感覚的にこういう空間配置がすっきりとするという具合に、互いに空間配置を

異質馴化

このグループ KJ 法リアルタイム個人作業シミュレーション方式を適用した研修会で以下に述べるように、興味深い現象が見られた。

早稲田 KJ 法研究会 5 月研修会でのことであった。

グループによるラベル集めをスムーズに行うに、全体感をつかんでもらおうと考えた。それから、個人作業とグループ作業のドッキングも考えていた。

それで、個人の手持ちラベルセットで個人ラベル集め作業をしてもらった。その後、互いのラベル集めの状況を見学してもらった。

他のメンバーのラベル集まりもしることになれば、全体感はより深くなり、グループでのラベル集めはあっという間に終わるだろうと予想していた。

いざふたを開けたら必ず反対者が現れ、それをめぐって議論が白熱して、さっぱり先へ進まなくなってしまう。あろうことか、6 月の会も 7 月の会も同じ展開となった。参加者は毎回へとへとになるまで議論し、へとへとになるまで表札づくりに没頭した。へとへとといいつつ、議論をし尽くした、表札で頭を使い切ったことに喜びをみな感じていた。その喜びをメールで送ってきメンバーもいた。「現場取材の心得」でシミュレーションをしてあるので、メンバーの自主的運営で進んだ。インストラクターである筆者は、ラベル集めや議論の様子をはたで見ている、時々、「どんな感じ、情念が大事なんですよ」と釘を刺した。しかし、議論はいっこうにやむ気配はなかった。

5 月の会が終わってから、先端大の國藤教授を訪ね、事の顛末をはなして解釈を求めた。

2003 年 5 月 14 日 メール: 三村からメンバーへ

皆様へ

あれほど徹底して、納得いくまで、表札作りとラベル集めをすることになろうとは、予期しませんでした。

しかし、私自身は初心者の時代にここまでやりたかったというのがホンネです。ところで、なぜここまで徹底できたかという考察をしておく必要があると思います。

表札はまずおいておいて、

ラベル集めがなぜあのように展開したのかについて、

私の理解の範囲を越えていたので、

北陸先端大の國藤教授に今回のラベル集めの状況を説明し、

解釈を求めました。

グループによるラベル集めの前に個人作業をしてラベルの全体感を掴んでおけば、グループ作業もスムーズにいくだろうと私は踏んでいたのですが、結果は

反対でした。

的確な答えが返ってきました。

シネクティクスは、類似点をさがして発散的に思考する考え方ですが、そこには、初めてのものに対して類似点をさがすのか、類似点のなかに異質をさがすのかによって、深まり方の質が違ってくるということを國藤教授は示唆してくれました。

類似を感じやすくするためのグループ作業に先立つ個人作業と私は判断していたのですが、

皆さんのグループ作業を思い出しながら國藤教授の話を聞いていて、類似を感じるよりも、異質に強く反応することになっていたことに気付きました。國藤教授によると、類似から入るのがよいのか、異質から入るのがよいのかは、判断の分かれるところだが、異質から類似へというルートの方が深まるのかもしれないとのことでした。

それが今回のケースなのではないかなと思いました。

20003年5月14日 メール:K氏より三村へ

三村さんのメールを読んで少し考えてみました。

私は今回が初めての経験であり、比較するものを持っていないのでなんとも明確なことは言えないのですが、あの時の自分が感じたことを思い出して書いてみます。

まず個人作業をした後に皆がどうラベルを集めたのかを見て廻った時に軽いショックを受けました。自分の感覚からはとても結びつきそうにないラベルがくっついているのを見たからです。そして、それを見ていて「なるほど、そういうつけ方もあるか」と思うのもあれば、「ええっ何で？」とショックのまま見当もつかないようなものもありました。

その後でグループの作業に移ったわけですが、やはり自分の分け方がまず頭の中にできており、それがその後の作業に影響していたことは確かなようです。まず、自分と違うラベルを提示してきた人にその理由を聞いてその人の理解の仕方、感じ取り方を確かめをする必要があったようです。その人の理解の仕方がのみこめた後ようやく判断ができ始めるように感じました。

これが異質性と類似性という説明の仕方と合致するのかは分かりませんが、自分と他の人の集め方の異質性がはじめに強く感じられたことは確かです。他に、今回の研修会のメンバー構成の影響についてはどうなのでしょう。前回に参加した人に混じって私をはじめ新たに加わった人が何人かいるわけです。上達のラベルは前回に参加した方達によって練りこまれて選ばれたものであり、当然前回の参加者と今回からの参加者ではラベルの読み込み方も違っ

てきます。そのあたりの影響というのはどうなのでしょう。いずれにせよ、私にとっては非常にエキサイティングな経験でした。

2003年5月19日 I氏

研究会では、皆様にお世話になり本当にありがとうございました。

素人まるだしで、さぞご迷惑をおかけしたかと思いますが、お許してください。

遅れ馳せながら、異質と同質に関し、思い付きではありますが、

私の感想を述べさせていただきます。

Kさんのメールにもありましたように、私も皆さんの(個人による)分類を見て回ったとき、軽いショックと申しますか、正直面白いと思いました。

ラベル集めの作業中から、僕以外の人を集め方が気になっており、「自分なりに考え抜く」という姿勢は貫いたつもりでしたが、他者の判断との比較をしないと、作業中から思っておりました。振り返ってみても、僕にはとても重要な体験だったと思います。

できるだけ先入観を無くそうと思いながら臨んだつもりでしたが、きっとどこかに残っているだろうと、過剰に心配をしていたのかもしれない。

グループでの分類を徹底的にできたことが、僕の Brain Wash になった、というのが正直な感想であります。

2003年5月15日 メール:三村よりメンバーへ

異質と類似はどちらから?その2 です。

以下の記述は、

「新編 想像力辞典 [創造技法]主要 88 技法を全網羅！」

高橋誠編著 日課技連 482ページ 6500円+税

(國藤教授からいただいた)によります。

國藤教授は、これをもとに私に説明してくださいました。

この本はダイジェスト版みたいなものなので、

ピタリと合っているわけではありませんが、異質から類似へというルートと、類似から異質へというルートの取り方の違いで、

深まり方が違うが、どちらがいいかというのは定説はないとのこと。

はじめからグループで類似に取り組んだ場合と、

その前に個人作業をしてからグループで類似に取り組むのとでは、

ずいぶん感じ方は違うのだらうと思います。

Kさんご指摘のように、自分と他人の集め方の異質性がはじめに強く感じられるということにもっと着目して、それがグループで類似に取り組むことの意味を深く追求する必要を私は感じています。

國藤教授も、そのところに強く興味を持たれたようです。

P334 [技法分類]発散技法・類比発想法

シネクティクス [考案者]ウィリアム・J・J・ゴードン

・技法の概要

シネクティクスとは「異なった、一見関連のなさそうな要素を結びつける」という意味をもたせたギリシア語もどきの造語である。

シネクティクスは、私たちが創造活動を行う際、全意識的な心理的メカニズムを用いていることに注目し、そのメカニズムを解明し、それを意識的に用いることを目指している。

この技法は、例えばBS(ブレインストーミング)が自由連想をそのベースにしているのに対して、類比(アナロジー)をその基本においた発想法である。つまり、ある物事を発想するときに、その課題に本質的に似たものは何かをさがし出し、それをヒントにしてアイデアを発想していくものである。

・技法の特徴

シネクティクスの創始者であるゴードンは、シネクティクスのメカニズムとして、2つのアプローチの仕方をあげている。

その1つは、「異質馴化」である。

異質馴化とは、「自分にとってはじめて見聞きしたものを、自分のよく馴れたものに使えないか」ということを意味する。

ブリジストンタイヤの創始者、故石橋正二郎会長が九州で足袋屋をしていた頃、東京の市電に初めて乗り、料金が5銭均一だったことにヒントを得た。そして、江戸時代以来、文数によって料金の違っていた足袋の料金を均一にしたというエピソードがある。これは、異質馴化の典型例であるといっていいたいだろう。もう1つは「純質異化」である。

これは「既によく知っているものを新しい意見方をすることにより、異質な観点をさがせないか」ということである。

顔にあたったサッカーボールから空気入りのタイヤを考え出したという、ダンロップ社の創始者ダンロップの例は、この「純質異化」のエピソードとしてよく紹介されている。

いずれにしても、自分のテーマにとって「本質的によく似たものは何か」をさがし出すこのシネクティクスの技法は、基本的には集団技法である。

日本の等価変換法やNM法同様、類比発想法の代表的手法として欧米では広く利用されている。

ラベルが集まらなくなった最大の原因は、個人によるラベル集め作業よりも、その後の見学が感覚を異質性に注目するようにさせてしまったのではないかと

考える。

このような状態に拍車をかけたのが、ある元ラベルであった。そのラベル自体の表現は、誰が読んでも一義的にしか解釈できないものであったが、その記述者はその表現に対する他のメンバーの解釈に常にノーと否定し続けた。その表現では自分の感覚を言い表していないということに気づくには、翌月を待たなくてはならなかった。自分の感覚とはなはずれた表現をしても、そのずれに気づかないひとは、意外に多いのではないかとふと思った。

メンバーは、議論が楽しくて仕方がなかったようだ。ところが、この議論が通用しなくなるときがきた。

三段目のラベル集めをしているとき、近いと感じた理由を述べているうちに、情念での理屈抜きでラベル集めの感覚は失せ、ラベルが集まらなくなってしまった。

早稲田KJ研究会ではその後、10月に空間配置による対話を徹底してラベル集めをしたら、次のような感想がメールで届いた。

2003年10月16日

久しぶりのグループKJ法。楽しみでした。

初日は、三村さんの教えと5人ということもあり、素早く4組がくっつきました。

以前とはまったく違った印象です。

<中略>

二日目は人数が9人ほどに増えましたが、それでも見事にカップルが誕生しました。

<中略>

日曜も表札付けは時間がかかってしまいましたが、その分どれもすばらしかったです。

その際三村さんが、

グループKJのとき議論するのではなくて、

表札付けのとき議論する方がよっぽど良い、とおっしゃってました。

ああ、確かにそうだと思います。

「グループKJのときは議論をしない」

これを今後とも徹底的に守っていきたいです。

最後に、三村さんに指摘されたことで、

「何を言っているのか」でなくて「どんな感じか」

であるということには、その感覚を大切に

していなくてはと思いました。

「どんな感じ」というKJ法の基礎もしっかりさせていきたいです。

2003年10月13日

Kです。

KJの会ではパルス討論から多段ピックアップ、そしてグループKJ法と一通りを久々にこなし充実しました。特に表札作りでは少し感覚がのみこめた気がしました。私の場合土曜日も日曜日も集まったと思ったラベルが表札作りをする過程であらためて読みこむと実はつかない、離婚だ、ということになりました。

ラベルをつける作業の過程で「感じ」を大事にするわけですがその前に読みの方向性が間違ってしまういたり、ラピッドということをつい浅いレベルの読みのままで感じたレベルでつけてしまったということになっていたようです。

それでも表札をつけられたものに関しては納得感があるものでした。その辺の感じも少しつかめたかもしれません。

このような体験を重ねながら少しずつ理解が深まっていくのかな、と思います。

2003年10月13日 T

ラベルの距離感だけで決めていくの(?)では、あえて説明をしないことの厳しさを感じました。自分がどう感じているかということを真摯に問いかけ続けていないと、薄っぺらな理屈でごまかしたり、その場の雰囲気呑まれてしまう危うさがありました。

第8章 ラベル集め傾向可視化

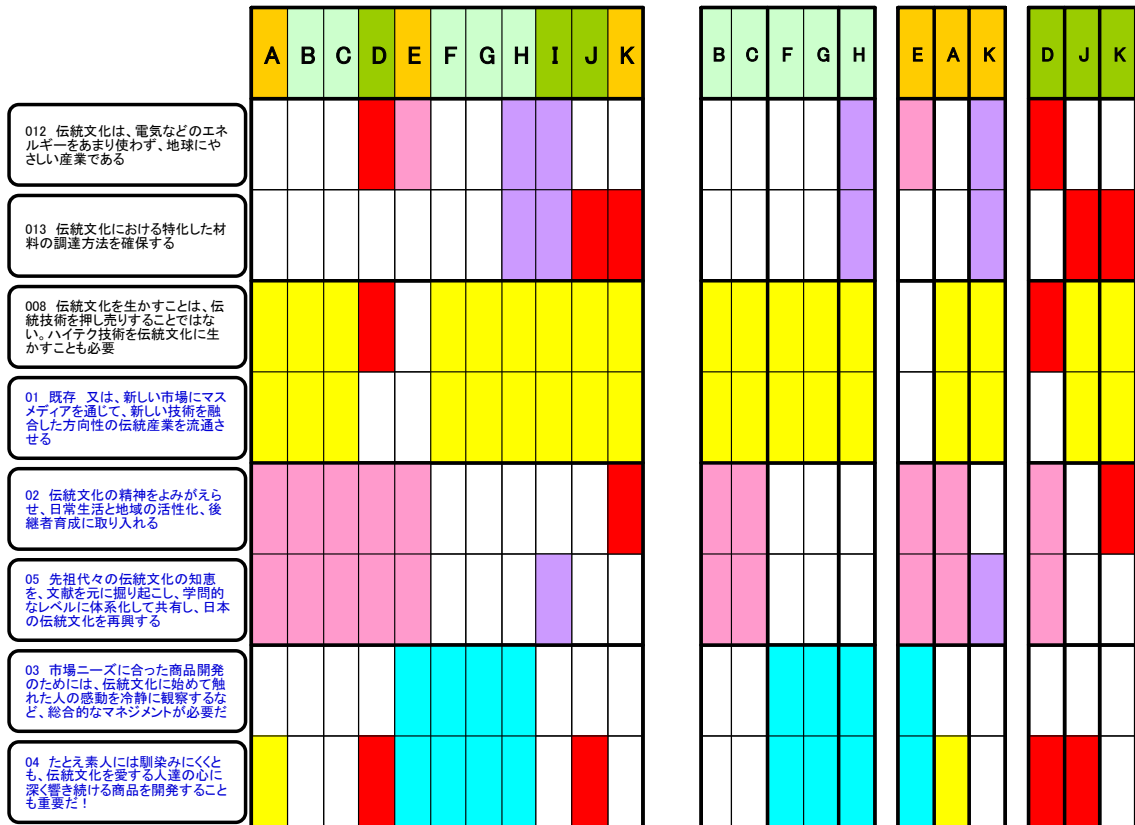


図 71 ラベル集め傾向一覧 (左は作業対象ラベル、A ~ K は参加者)

どのようにつくったか

グループ KJ 法で2段階目 (青表札) まで参加者全員で組み立て (左の8枚のラベル)、最終の3段階目を個人作業で組み立ててもらった。

個人作業後、図解をもとに口頭発表会を開き、お互いが学び合えるように、全員の図解を電子化し、配布した。

図解化の作業にめんどくささを感じなかった。なぜならば、2段階までは全員同じで、最終段階だけを組み立てればよいだけのことであったからだ。

全員の図解化を完成し、配布したとき、ラベル集めのばらつき具合を知りたいとふと思った。前例はない。どうしたものかと考えたが妙案が浮かばない。

エクセル上で、ラベルと名前をたて横にランダムに配して、各人が集めたラベルのセットに × の記号をつけてみた。

出来上がった表を眺めているうちに、ほとんどのメンバーが選んだ2枚のセットが浮かび上がってきた。この要領で他のセットの集まり具合に注目すると、選択を二分するセットが浮かび上がってきた。

これらのラベルセットを上下に並べ、黄色、ピンク、青色、最後に少数派を紫色で識別してみた。

その他に、これらのセットを縦断的に飛び飛びにセットになっているものがあることに気づいた。これらが分かりやすいように表示するために、赤丸で表示することにした。

ラベル集めの傾向をこのようなかたちで表示しえたのは、本手法が初めての試みであると考える。

同じ元ラベルによる複数の作業者のデータを取ることができなかったと考えられる。本論分の提案手法である、グループ作業をリアルタイムにたどる個人作業としてのシミュレーションにより、ラベル集めの傾向を可視化することができた。

解釈

この表をインストラクターとしての立場からみるならば、意味の相対的により近いラベル集め作法を意識して作業をしているとおおむね判断できる。このような表は、インストラクターにとっては、指導に対する評価として捉えることができる。

表を見ると、色別の横の分布が目につくが、個々人のレベルで縦の分布を見ると、全く同じラベル集めはB、CとF、Gだけである。すなわち11分の2しか同じラベル集めをしていないということである。元ラベルである紫色のラベル集めのバラエティーさは、目を引く。この二枚のラベルの読みのレベルが全体感に大きな影響を与えたのではないかと思われる。

しかし、もっとばらばらのラベル集めになっているのではないかと思われたので、このように比較的はっきりした傾向が見られたことは驚きであった。

2004年3月15日 メール:Yから筆者へ

先日はご苦労様でした。日曜はいけなくてすみませんでした。

感心したのは、父兄・コーチの熱心な態度と低学年の適応です。

深夜に及ぶ事前トレーニングではよどみない流れるような三村さんの

指導ぶりに感心いたしました。さすがでした。

誰でもわかる明確な表現になっていれば、ラベルどうしの遠い・近いの位置関係はそんなにぶれないものだということに少々驚きました。感覚の狂いが生ずるのではなく表現が狂いを生じさせるだけであることをしりました。そうすると、言葉の表現には特に注意しないといけないことをしりました。

前出の「わかりあう技法」講習会の前の晩に、指導者十数人にパルス討論の実技指導をした。このメールは、そばで一部始終を観察していた知人の感想である。

「扱うすべてのラベルの集合全体は、いわばひとつの世界であり、ひとつの全体をなす宇宙なのである。その世界全体の声を聴き届けた上で、最も志の近いラベル同士を集めるべき」という川喜田のラベル集めの指示は、Y氏の指摘のように、ひとの感覚はもともとそんなにぶれないものだということに確信を持っているからこそその指示なのだといえる。

だからこそ、ラベル集めは、全体をなす宇宙のなかで行われるべきものである。集まったラベルを宇宙の外に出すという行為は、自殺行為であるといえる。ひとの鋭い感性は、虫食いでも全体をなす宇宙の中で、最も志の近いラベル同士を集めていくのである。

また、表現が狂いを生じさせているというYの指摘は、川喜田の、元ラベルを一義的にしか意味が取れないように一事項適格圧縮表現をせよということに相通ずるものであろう。

KJ法のラベル操作工程を理解したとしても、作業それ自体の最大のつまづきは、元ラベル表現の不正確さによるものである。インストラクションの成否は、ひとえに元ラベル表現の成否そのものである。

KJ法の上達法をよく聞かれるが、ある事象を適格に表現することを常日頃心がけて自分を鍛えることと、一貫して答えている。

学校教育でも、この点をしっかり認識する必要がある。これは、KJ法とは関係なく、だれにでも必要なことである。表現しきれるということは、状況を正確に観察取材できるということである。状況をしっかり認識できるということは、状況の判断をすることが出来るということである。状況の判断が出来るということは、行動に移せるということである。これが生きる力の本質ではなからうか。

日本語で表現しきる訓練なくしては、生きる力などつくはずがない。

知識科学研究

知識流行の時勢だが、この表のようにラベル集め傾向が一覧できるようにすることは、知識科学研究の方法としても意味があるのではないかと思われる。この方法は、プログラミングをして自動的に表示することは難しくないはずである。

合意形成

この一覧をみた D 氏は、同じ部分には着目せず、むしろ互いの相違を見出し、グループ KJ 法で合意することも大事だが、このように違いを認識することこそが合意形成には重要とコメントした。

グループ KJ 法は、参加者に意識の高揚をもたらす。その結果、KJ 法が広まりだした早期に、この効用だけに着目して目的はいつでもよいという心情陶醉に浸るものも現れた。目的追求の前段としての意識高揚による合意形成の手段として、企業によっては、同様の目的でグループ KJ 法が利用されたと聞いている。

わずか 8 束の個人作業によるラベル集めでも、個々人の個性が現れることが分かった。

第9章 結論

はじめに、これまで試みたシミュレーション試行体験から、効率的な活用手順例を示す。

活用手順例

00. 現場取材の心得 元ラベル

現場取材は、現場の状況や、関係者の話を聞き、その場で観察し、記録を取る。事前に準備を怠らぬ。	現場の記録では、「...」という表現は避け、具体的な事実を記述する。	現場の観察は、自分の目で見、自分の手で触る。観察の順序は、場所、時間、人物の順で行う。	現場の観察は、自分の目で見、自分の手で触る。観察の順序は、場所、時間、人物の順で行う。	現場の観察は、自分の目で見、自分の手で触る。観察の順序は、場所、時間、人物の順で行う。	現場の観察は、自分の目で見、自分の手で触る。観察の順序は、場所、時間、人物の順で行う。
現場の観察は、自分の目で見、自分の手で触る。観察の順序は、場所、時間、人物の順で行う。	現場の観察は、自分の目で見、自分の手で触る。観察の順序は、場所、時間、人物の順で行う。	現場の観察は、自分の目で見、自分の手で触る。観察の順序は、場所、時間、人物の順で行う。	現場の観察は、自分の目で見、自分の手で触る。観察の順序は、場所、時間、人物の順で行う。	現場の観察は、自分の目で見、自分の手で触る。観察の順序は、場所、時間、人物の順で行う。	現場の観察は、自分の目で見、自分の手で触る。観察の順序は、場所、時間、人物の順で行う。

川喜田二郎オリジナル

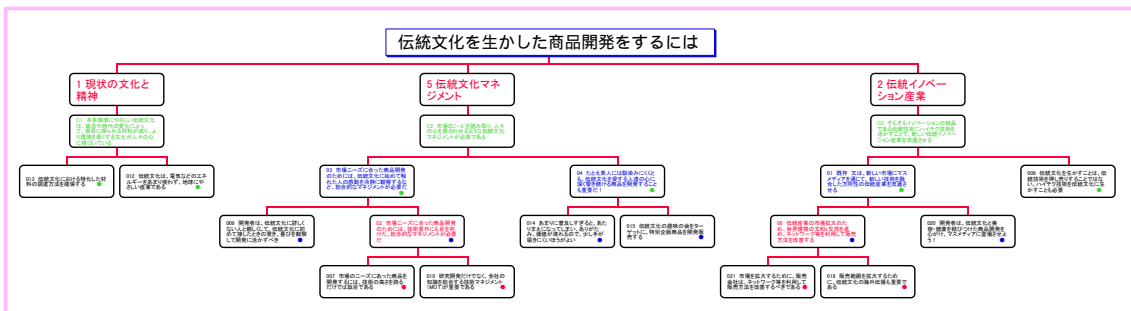
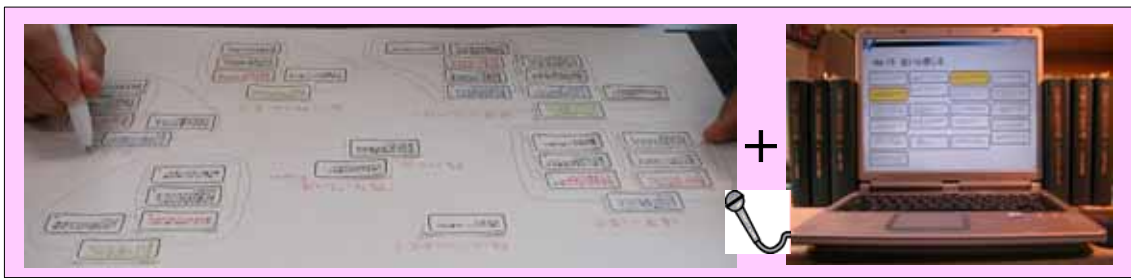
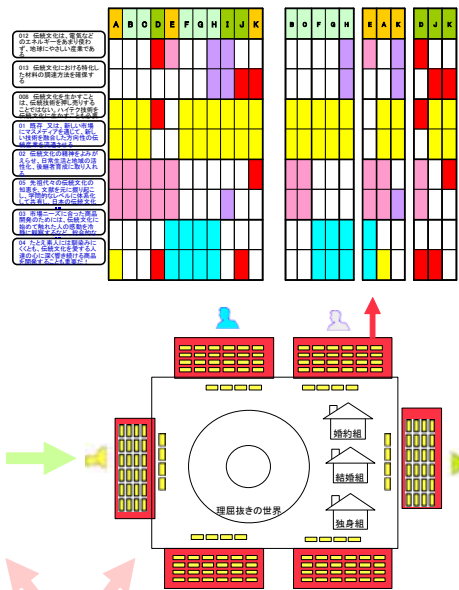


図 72 シミュレーション活用手順例

前頁の活用手順例を簡略化すると、下図のようになる。
活用手順を以下に記す。

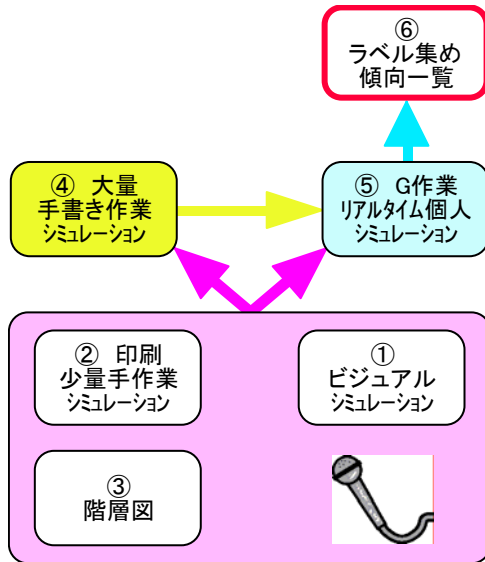


図 73 シミュレーション活用例略図

は、大学の大講義室で大勢の学生に90分間で実習するという設定にする。シミュレーション・スライドにあわせて、階層図と照合しつつ解説(マイクはその意)を交えて進める。視聴触覚効果を期待する。

用意するもの。

- 印刷シート(ラベル、格段の表札、シンボルマーク、4注記)
- クリップ(小×25個、元ラベル数が少ないので輪ゴムは不要)
- スティックのり
- 4色ボールペン
- 用紙(A3×1=図解化用、A4×1=図解化初段階の空間配置用)

は同じ元ラベル。

- 1) を、ラベルの動きに注目させて最後まで見る。
- 2) の印刷されたラベル群をはさみで裁断。元ラベルを並べ、表札もその横に各段ごとに整理して並べる。
- 3) をスタートに戻し、指導者は学生にスライドを一枚ずつ見せ、スライドに表示されているラベル集めを、学生の手持ちのラベル群内でラベル操作をするよう指示する。このとき 階層図解に同じラベル集まりのセットの印を確認のためにつけさせる。表札の場合も同様。

階層図によって、KJ 法がボトムアップによって組み上げられることと、表札があることによって階層性が可能となることを解説する。階層図以下繰り返す。

ーセット目ができれば、あとはスムーズに進行する。

- 4) 表札は印刷されたものをそのまま使う。スライドの順に従って作業を進める。表札をつけたら、そのセットは一枚とみなすことを徹底する必要がある。
- 5) 図解化第一ステップの空間配置は、個人作業かスライドと同じ空間配置をさせるかは時間との兼ね合いで、決める。可能なら、学生に空間配置をさせると後々のためによい。A4 用紙に
- 6) 図解化は、スライドに従って、最上位の表札から展開する。以下スライドに従う。
- 7) 輪取りは 4 色ボールペンを使って色別に階層を示す。
- 8) タイトルとシンボルマークは手書する。
 - 4 注記はコピーを貼る。時間が許すなら、手書きが良い。
 - 4 注記は、作品の存在意味を明らかにする重要なマナーであるので、解説を加えると良い。
- 9) 関係線は図解を読み解いてから最後に記入するとよい。学生の感覚に任せる。

以上。

次のステップは、 の二つのコースに分かれる。状況に応じて選択する。

のコース

優れた内容の大量ラベル個人作業シミュレーションを課題とし、全て手書きで内容を味わいながら作業をし、図解化し、文章化する。

文章化によって、図解の意味がより鮮明に理解できる。文章化によって、図解化で分かったような錯覚に陥っていたことが自覚できる。さらに、ラベル集めと表札づくりが厳密に行われなくてはならないことを知る。図解を作っただけでは、半分以下の理解に過ぎない。

図解化と文章化をレポート課題とするとよい。

本コースで紹介している「現場取材の心得」は、KJ法創始者川喜田二郎のオリジナルである。著作権の関係で紹介にとどめる。

内容が極めて示唆に富み、啓発的なものである。このような作品が大学で取り上げられれば、学生には極めて有益なものとなる。

のコース

KJ法をよく理解しているインストラクターの指導のもとに行うのがよい。

上記のプロセスを経た学生なら、筆者が提案したリアルタイム・シミュレーションそのものは難なくこなすことができる。

しかし、ラベル集めで陥る誤りを互いにチェックしながらグループ作業が進められるかどうかはわからない。参加者のそれぞれがもっている観念を否定することなくラベルの意味(志)の相対的近さのピタリ感にまでリードするのは、かなり熟練を要する。しかし、図解化した後、必ず文章化してみれば、ラベル集めと表札づくりが妥当かどうかは分かるので、試してみる価値はある。

リアルタイムシミュレーションにおいては、指導者が参加者のラベル集めの傾向を把握したければ、ラベル集め傾向可視化一覧をつくれれば、参加者と共に客観的にラベル集めのあり方について意見交換ができ、かつそれが知識科学の研究対象にもなる。

大量ラベルと少量ラベルの両者は、研修会で試すことによって、それぞれの役割が異なることを確認した。これらを別のシミュレーションととらえれば、4つのシミュレーションが存在する。

活用手順例で示すように、それぞれの利点を活用することによって、全てではないが、少なくともラベル操作にかかわるつまづきは一掃でき、KJ法学習の効果を効率的に高められることが確認できている。

最高学府といわれる大学教育において、間違っただけの方法論を教えることは、害あって一利なしである。本活用手順に従って大学で実施されるなら、正しいラベル操作と考え方を一度に大勢の学生に伝えることができる。やり方によっては、自習すら可能である。

誤ったKJ法を学び使っている人たちにKJ法を教えたり議論したとき、型があることすら自覚していないことを確認した。ラベルを使いさえすればKJ法であるという認識であった。これは、平面空間配置図解とKJ法図解とがよく似ていることにもよる。この2つは、構造的にも作業工程としても、まったく異なっている。ビジュアルおよび手作業シミュレーション経験者は、JAISTオープンセミナーの感想から、自分の誤りに気づきやすいことが分かる。

関連研究でとりあげたひとたちは、KJ法を自在に駆使している。本研究において、彼らのKJ法へのアプローチの仕方を追跡したとき、彼らは例外なくKJ法の型のもつ意味を捕え、ラベル(データ)との対話が最も重要であることを自

覚して行使していることを文献から確認できた。

データとの対話は、渾沌との対話である。したり顔で渾沌世界を睥睨している知識人のそれではない。その態度は世界内的である。

データの声を聴くということは、データの身になることである。KJ法のラベル集め作業のときに苦しむのは、データの身になかなかないことである。彼らは理屈抜きに大量ラベルの渾沌世界に身を任せる。

このことは、技法を修得していくことが、おのずと発想思考や思想につながることを自覚しているからである。作法に則ることで世界内的認識が生じ、渾沌データと対話する覚悟ができ、データの個性との一期一会を感じつつ、ボトムアップによる異質の統合が行われるという確信に身をゆだねることができる。

筆者は、インストラクションするときは常に、KJ法作法を遵守することを心がけてきた。その基本は、創始者の川喜田やKJ法の達人たちから学んできた、意識していいことと悪いこと、やっていいことと悪いことである。この基本は、型を意識すると自然に心がコントロールされていく。

インストラクションにおいて、筆者が場を仕切るのではなく、基本的な考え方と作業の型の確認をすることで、茶道の作法のごとくに、参加者全員がKJ法の作法に則って議論をし、作業をすすめるのである。

全員が共通の作法を自覚してそれに則りさえすれば、自由を標榜するよりもむしろ自発性が増し、参加者もインストラクターもそれぞれの役割はみとめつつ、仲間として学びあえるのだと、インストラクションをしていていつも感じる。

作法のシミュレーションを意識的に自覚的に行使してのインストラクションを試みて、シミュレーションを行使したときとしないときの差を考察してみる。

結論から言えば、シミュレーションから始めた講習会のほうが、はるかに落ち着きがあり、深まり、燃える。

「グループ創造技法体験研修会フォローアップ研修」では、少量ラベル手作業シミュレーションを研修の冒頭で実施したことにより、その後の展開予測できる上に、現在の作業がどの部分のものであるかが分かるため、現在の作業に専念できることから、作業姿勢を世界内的に維持することができ、研修の密度が高まったことが、筆者の観察や参加者の感想からもうかがえた。

大量ラベルによるシミュレーションを実施した早稲田KJ研究会も、JAISTインターンシップ研修においても、同様の結論である。

大量ラベルと少量ラベルとの比較をしてみると、どちらも当初の目的は機械的なラベル操作を先にやってしまえば、ラベル集めと表札づくりに専念できる、

あるいは、作法が分かれば参加者自身で運営もできていいだろうほどの期待感でしかなかった。

大量ラベル手作業シミュレーションの観察から分かったことは、作法が分かるようになることだけではなく、KJ 法そのもののトレーニングにもなることと、教材としての内容が優れていれば、作業者自身の考えで図解化することで内容を关系的に深く把握できるので、学習のツールとしても極めて有効である。

少量ラベル手作業シミュレーションは、アウトライン的な解説を加えても 1 時間半ほどで作業を終了できる。目的や状況によって解説を詳しくするなどの柔軟性を持っている。

しかし、説明を多くしすぎて断腸になるよりも、短時間で KJ 法の骨格をインプットするほうが結果はよい。学習の基本である、小から大への原則である。研修の出だしでリズムが生まれる。

この方法は次に控えている本番の作業に対して高い期待感とモチベーションを生み、また、どのように学習が進んでいくか、あるいは現在は全体のどの部分を学んでいるのかがわかるので、落ち着きを感じられた。インストラクタ自身も、いくつもの注意事項をレクチャーする必要がないので、肝心の作業に集中できる。

目的と時間と参加者の状況を加味して、使い分ければよい。

手作業シミュレーションとビジュアルシミュレーションとの比較を試みる。

結論から言うならば、相補的である。

ビジュアルだと流れは分かるが、身体感覚にまでは訴えない。手作業シミュレーションはじっくりと身体感覚に訴えるが、リズムカルに流れを感じない。ビジュアルはリズムカルに作法を伝えることができる。

それぞれの特徴を組み合わせる方法が一番良い。

ビジュアルと手作業シミュレーションの二つがそろえば、適宜音声による解説を加えれば、視聴触覚を総動員して伝えることができる。

研修の最初に、少量ラベルによるビジュアルおよび手作業シミュレーションを解説を適宜入れて実施すると効果的である。

この視聴触覚に訴えるシミュレーションを実施した後は、KJ 法の作業に移行してもよいし、大量ラベルのシミュレーションに移行してもよい。

大学で KJ 法を伝えるには、少量ラベルによるビジュアルおよび手作業シミュレーションで大勢の学生対象に一齐に作業をさせ、次に大量ラベル手作業シミュレーション教材を配って、各個人に個人作業をさせ、図解化と文章化をレポートとして提出させるとよい。この方が、KJ 法の型を正確に自覚できるし、図

解化と文章化によって、学生の能力が開発される。

ひとによっては、これだけで KJ 法を使えるようになる人がごくまれにいる。しかし、一般的にはこれだけではラベル集めと表札づくりは十分ではないので、熟練した指導者のもとでグループ KJ 法で学ぶ必要がある。

以上のように、シミュレーションの応用は工夫次第でいかようにも発展できる。個人作業も可能なので、よりはばひろい応用も考えられる。

コンピュータによる KJ 法作業支援ツール制作の試みがなされている。使い勝手のよいツールは、今のところないようである。あっても、作法として誤りがある。KJ 法をきちんと学ぶことなく、本だけを頼りに制作しているのが現状である。コンピュータの欠点は、自動化ゆえに、作業プロセスが見えないところである。

筆者が提案したシミュレーションは、手作業工程をすべて明示してある。ビジュアルにせよ手作業にせよ、作業工程がはっきりと意識化できれば、自分の誤りを認識できるし、試行プロセスがトップダウンの分類ではないことを容易に理解されることを確認している。

KJ 法作法シミュレーションにより、KJ 法伝達が格段に楽になり、参加者も学びやすくなったと考えられる。

謝 辞

インタビューデータのまとめができずに挫折した大学の卒業研究がきっかけとなって KJ 法の世界に飛び込んだのが 1971 年。光陰矢のごとしである。

もしあのときに KJ 法に出会わなかったら、もし KJ 法が存在しなかったら、あのときの挫折感をどのように解消解決していたのだろうか。

四国移動大学以後、KJ 法を創始者から直接学べたばかりではなく、創始者の背景を学ぶ機会が数多くあった。幸運であったとしか言いようがない。

KJ 法とその創始者に深く感謝する次第である。

本研究は、KJ 法をより深く理解するためにも、挫折を乗り越える意味でも、極めて有意義深いものであった。

本研究に取り組むにあたって、JAIST の先生方から受けた影響は大きい。特に下記の先生方は刺激的であった。心から感謝を申し上げたい。

講義「知識表言論」で宮田先生の発想感覚が異質の統合であると感じた。本研究の可視化につながる直感が働いたのだろう。ゼミ室での若者が先生と共に嬉々として 3D の作品を作っている。この雰囲気にも浸るだけで、可視化感覚が養われた。KJ 法は全工程が可視化である。

異分野の論文文章を隅々まで朱を入れてくださり、論文文章の厳密さを学ぶことができた。甘い KJ 法文章表現をしてきたことを反省。焦点の定まらぬ私を辛抱強く見守っていただけた。

近藤先生は、私の渾沌を受け入れてお付き合いくださった。話すたびに心が落ち着いていた。オアシスであった。的確な問いかけで、KJ 法理解が深まった。

野口先生からは、デザインは絵画ではない、言語だと教えられ、KJ 法の意味を問い直すきっかけになった。「作法にこそ本質がある」は忘れられない。

本多先生からは、思考実験とはどんなことかを教えていただいた。KJ 法の思考過程を考えると、決定的な教えであった。

西本先生の入学時の研究室紹介は印象的であった。ひとにそくしたシンプルなものを目指せという意味の話であった。ビジュアルシミュレーションを作るときの基準にした。

國藤先生が高田先生(金沢工大講師)と共に企画してくださった KJ 法研修は、ことごとくシミュレーションを作るためのターニングポイントとなった。厳しい条件の企画から、このようなシミュレーションを発想することとなった。

國藤先生には、シミュレーションを論文にするようアドバイスをいただいた。これで論文の焦点化ができた。そこからまた新しい発想がうまれた。

様々な角度から批評してくれた KJ 法の若い仲間存在は貴重であった。思い込みを正すことができた。

心身ともにどん底状態で JAIST にやってきたが、支え続けてくれる友人中谷君には深甚の謝意を表したい。

2005 年 2 月 10 日 JAIST 宮田研究室にて

参考文献

- [1] 梅棹忠夫 1969 『知的生産の技術』 岩波新書 p206
- [2] 川喜田二郎 1967 『発想法』 中公新書
- [3] RAYMOND SCUPIN 1997 『The KJ Method: A Technique for Analyzing Data Derived from Japanese Ethnology』 Human Organization, Vol. 56. No. 2,
- [4] グレイザー, B. G. & ストラウス, A. L. 1996 『データ対話型理論の発見:調査からいかに理論をうみだすか』 新曜社
- [5] 箕浦康子編 1999 『フィールドワークの技法と実際:マイクロ・エスのグラフィック入門』 ミネルヴァ書房
- [6] W.C チェニッツ J.M スワンソン編集 1992 『グラウンデッド・セオリー:看護の質的研究のために』 医学書院
- [7] 山本則子 萱間真美 太田喜久子 大川貴子 2002 『グラウンデッドセオリーを用いた看護研究のプロセス』 文光堂
- [8] 川喜田二郎 1997 『川喜田二郎 8 移動大学の実験』 中央公論社 p311
- [9] 川喜田二郎 1996 『川喜田二郎 6 KJ 法と未来学』 中央公論社 付録
- [10] 永延幹男 1996 『技としての野外科学的方法』 KJ 法研究 p23-37
- [11] 川喜田二郎編監修 1985 『KJ 法実践叢書 実務の処女地を開拓する』 p152
- [12] 丸山進 2003 『精神保健とKJ法』 啓明出版
- [13] 川喜田二郎監修 1984 『KJ 法実践叢書:人間のルネッサンス』 プレジデント社 p39
- [14] 川喜田二郎 1996 『川喜田二郎著作集 5 KJ 法 渾沌をして語らしめる』 中央公論社 付録
- [15] 川喜田二郎監修 1984 『KJ 法実践叢書:人間のルネッサンス』 プレジデント社 p97
- [16] 川喜田二郎監修 1984 『KJ 法実践叢書 組織ポテンシャルの向上』 p39
- [17] 川喜田二郎監修 1984 『KJ 法実践叢書:人間のルネッサンス』 プレジデント社 p173
- [18] 川喜田二郎 『川喜田二郎著作集 3・4・5・6・13・別巻』 中央公論社

- [19] 新 QC 七つ道具研究会編 1984 『やさしい新 QC 七つ道具 TQC 推進のため』 日科技連 p12
- [20] 日科技連問題解決研究部会編 1985年 『TQC における問題解決法』 日科技連 p105 および p123
- [21] 徳丸壮也 1999年 『日本的経営の興亡 TQCは我々に何をもたらしたのか』 ダイヤモンド社 p433
- [22] 川喜田二郎 1998 『川喜田二郎著作集 別巻』 中央公論社 p153
- [23] 川喜田二郎 1997 『川喜田二郎 8 移動大学の実験』 中央公論社 p311
- [24] 川喜田二郎 1996 『川喜田二郎著作集 5 KJ 法 渾沌をして語らしめる』 p147
- [25] 川喜田二郎 1996 『川喜田二郎著作集 5 KJ 法 渾沌をして語らしめる』 p149
- [26] 川喜田二郎 1996 『川喜田二郎著作集 5 KJ 法 渾沌をして語らしめる』 p147
- [27] 川喜田二郎 1997 『川喜田二郎 8 移動大学の実験』 中央公論社 p311
- [29] 川喜田二郎 1997 『川喜田二郎 3 野外科学の思想と方法』 中央公論社 p311
- [29] 生田久美子 1987 『認知科学選書14 わざから知る』 東京大学出版会
- [30] 川喜田二郎 1996 『川喜田二郎著作集 5 KJ 法 渾沌をして語らしめる』
- [31] 無藤隆 やまだようこ 麻生武 南博文 サトウタツヤ 2003 『質的心理学研究 第2号』 2003 / N0.2 新曜社
- [32] 川喜田二郎 1996 『川喜田二郎著作集 5 KJ 法 渾沌をして語らしめる』中央公論社 p195

狭義のKJ法 1ラウンド ビジュアル・シミュレーション

「KJ法における作法の研究」付録A

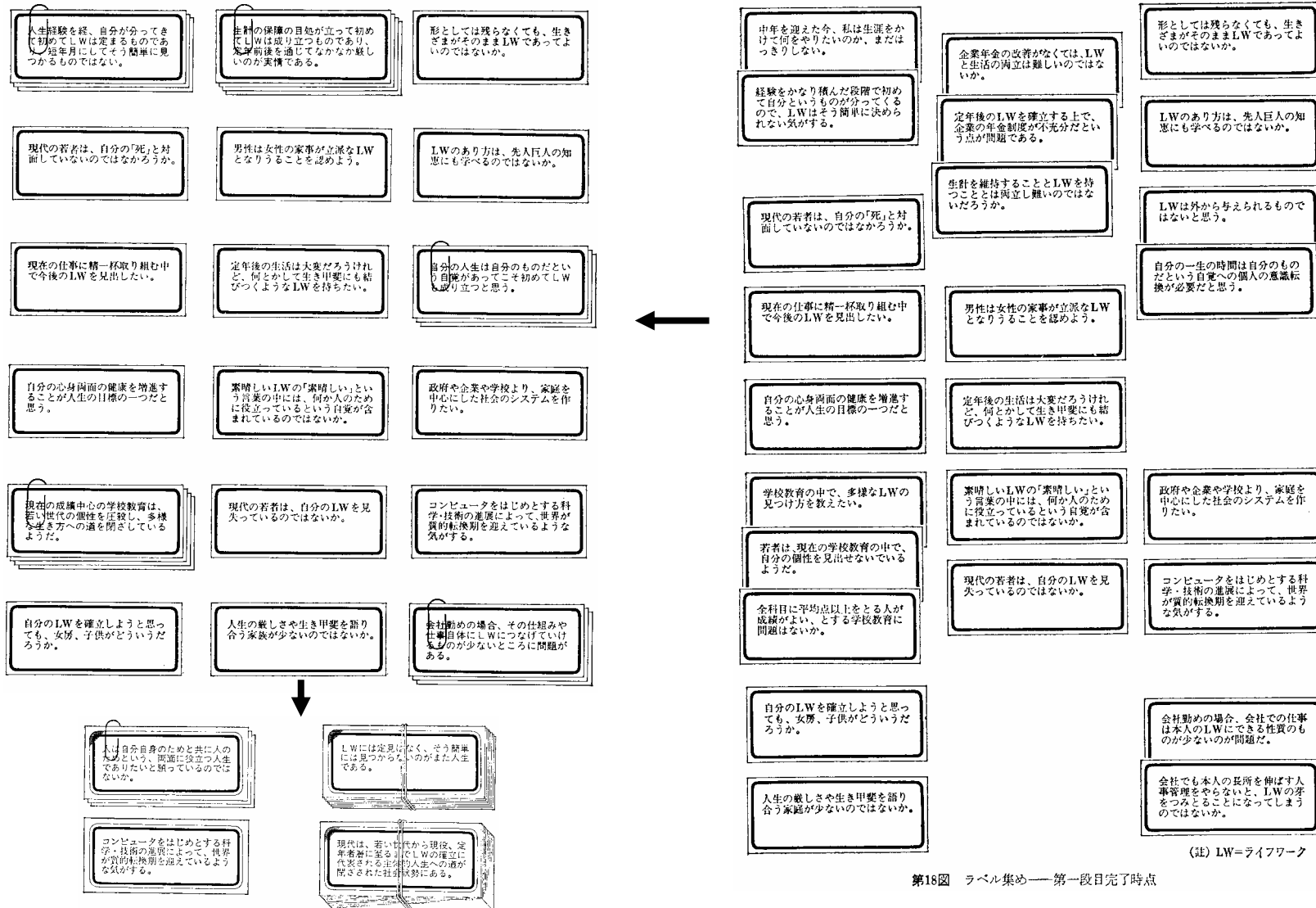
『伝統文化を生かした商品開発をするには』
2004年8月・「グループ創造技法研修会」
有志対象KJ法研修作品

製作目的

- KJ法 KJ法
あまりにも誤ったKJ法が広まっていることに危惧を覚えた。
誤ったKJ法と正則なKJ法は、構造的にも作業工程においても、まったく異なっている。
- 作法(型 = ラベル操作手順)がまったく伝わっていないという確認から、KJ法学習におけるつまづきの大部分がここに端を発しているとの確信し、作法をシンプルで効果的に学べる方法を創案。
- つまづきの多くを解消できる方法をつくりだすことによって、初心者にとってKJ法が取り組みやすいものとするのと、誤ったKJ法の誤解を速やかに解きたい。

筆者が製作したシミュレーションは、ラベル操作の全工程を動画的に示したことにより、ラベル操作作法を実感できるものにした。1971年の四国移動大学で目撃した創始者のラベル操作を再現したいという強い意思の結果である。

『KJ法 渾沌をして語らしめる』「狭義のKJ法—ラウンド」には下図が示されている。



(註) LW=ライフワーク

第18図 ラベル集め—第一段目完了時点

KJ法は役に立たない？

- そう難しい注文をだしているわけではないのだ。水泳や馬術の習得と同じこと。ちがうところは、水泳や馬術だって一通りの基礎をやるのに何日もかかるのであろうが、KJ法は五日ぐらいでとにかく基礎は卒業できるということである。
- それをすらも値切ってケチついて、その結果はどうであろうか。「KJ法をやってみたが、大したことはなかった。役に立たない」、こういう半可通が、せっかくそれをまともに身につけようとしている人たちにマイナスの影響を及ぼしていることは相当なものである。スキーを二日ぐらい練習して、「スキーというものは役に立たないつまらぬものだ」と悟り顔でいうのとまったく同じである。
- スキーの場合は、眼前に達者に滑っている人がいるから、こういう半可通を誰も相手にはしない。それと同じように、KJ法も本当に使える人たちがしだいに出てきたので、結局は半可通は通用しなくなりつつある。事業上や研究上に、二塁打やホームランを打ちだしたからだ。私はこういうことを、地理学や民族学の人たちがKJ法を使う場合にも、同じ轍(てつ)を踏まないことを願って書いているのである。

自分でアタマがよいと思っている人ほどできない

- KJ法を基本だけでもまともに使えるように短期で習得するには、泊りこみで四泊五日、すくなくとも三泊四日は研修に参加することが必須だということである。
- 中途半端な研修や我流KJ法でわかったつもりになった人には、KJ法はほとんど満足な使われ方をしていない。これをわざわざ強調するのは他でもない。学者や大学の先生というものには、つまらぬ面子(メンツ)がある。それで、どうしても仕事の関係上KJ法を身につけたほうがよいと思いだしても、いまさら研修などに頭を下げていけるかと思うらしい。そこでいきおい、中途半端に秘密勉強をする。
- とにかく簡単な技術さと思うので、我(が)が抜けるところまでやらない。KJ法で我を抜くというのは、徹底的にデータの声に従って組み立てるだけのことだが、それができないのである。自分でアタマがよいと思っている人ほどできない。

伝統文化を生かした商品開発をするには

練習教材 A

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を統合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

11 伝統文化を尊重する人が少なくっており、愛好運動の展開が必要。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

18 加賀野菜調理法が分からず買おう気しない。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向けた、総合的なマネジメントが必要だ。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

元ラベル

1 段目表札

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

2 段目表札

B01 既存、又は、新しい市場にマスメディアを通じて、新しい技術を融合した方向性の伝統産業を流通させる。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる。

B03 市場ニーズに合った商品開発のためには、伝統文化に始めて触れた人の感動を冷静に観察するなど、総合的なマネジメントが必要だ。

B04 たゞ素人には馴染みにくくとも、伝統文化を愛する人達の心に深く響き続ける商品を開発することも重要だ！

3 段目表札

B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

C1 本来環境にやさしい伝統文化は、緩急や時代の変化によって、容易に得られる材料が減り、より環境を悪くする文化が人々の心に根づいている。

C2 市場のニーズを読み取り、人々の心を振るわせるような伝統文化マネジメントが必要である。

C3 そもそもイノベーションの結晶である伝統技術にハイテク技術を活かすことで、新しい伝統イノベーション産業を流通させる。

シンボルマーク

1 現状の文化と精神

2 伝統イノベーション産業

3 形式知からの伝統文化の再興

4 蘇らせたい文化と精神

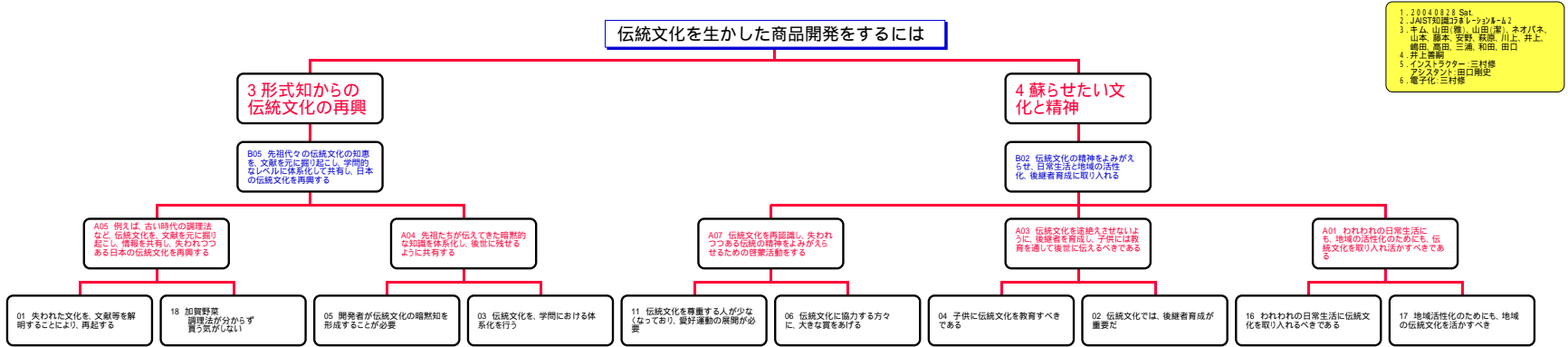
4 注記

5 伝統文化マネジメント

- 20040828 Sat.
- JAIST知識コアセッション-42
- キム、山田(雅)、山田(潔)、ネオバネ、山本、藤本、安野、萩原、川上、井上、嶋田、高田、三浦、和田、田口
- 井上善嗣
- インストラクター：三村修
アシスタント：田口剛史
- 電子化：三村修

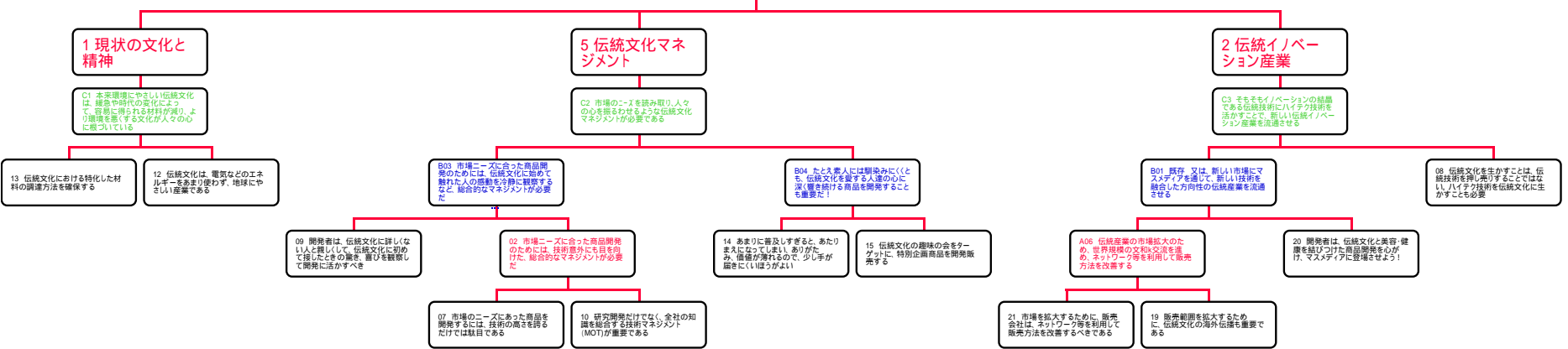
階層構造図

伝統文化を生かした商品開発をするには

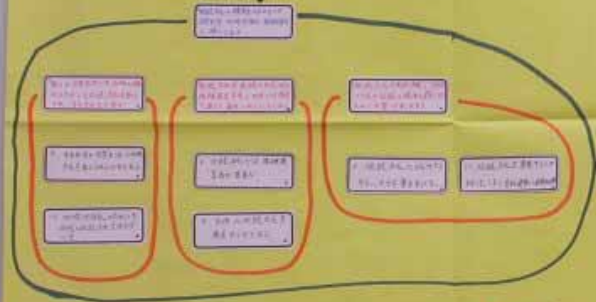
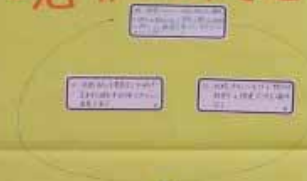


1. 20040328 Sat.
2. JAIST知識共有ワークショップ-6?
3. 牛木、山田、櫻、山田(華)、本孝(平)、山本、藤本、安野、数田、山七、井上、藤田、高田、三浦、和田、田口
4. 井上 幸輔
5. インストラクター 三村修
6. アシスタント 田口剛史
- 電子化 三村修

伝統文化を生かした商品開発をするには



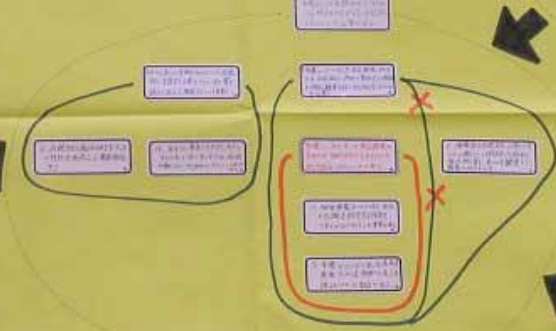
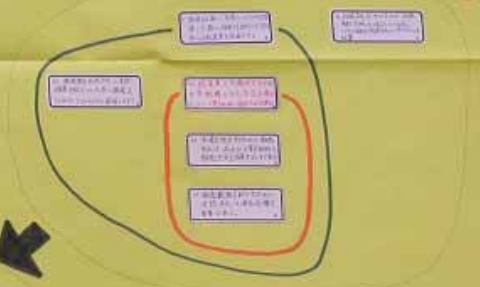
現状の文化と精神



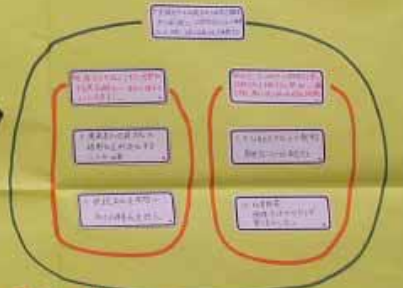
蘇らせた文化と精神

- 1) 2004年8月28日
- 2) JAIST知識試使以告
コホレーションルーム2
- 3) キム(山田(雅)山田(潔)山田(新)
山本 藤本 安野 萩原 川上 井上
嶋田 高田 三浦 和田 田口
- 4) 井上善嗣

伝統イノベーション産業



伝統文化マネジメント



形式知からの 伝統文化 の再興

1. 20040828 Sat.
2. JAIST知識コホレーションルーム2
3. キム、山田(雅)、山田(潔)、ネオパネ、
山本、藤本、安野、萩原、川上、井上、
嶋田、高田、三浦、和田、田口
4. 井上善嗣
5. インストラクター: 三村修
アシスタント: 田口剛史
6. 電子化: 三村修

教材の使い方

- 練習教材を切り取り、手順に従ってラベル操作を手作業で学ぶ。
- 準備する用具: はさみ、のり、クリップ、4色ボールペン、
A4サイズ用紙 × 1、A3サイズ用紙 × 1
- ラベル集めと表札づくりの方法については、要点を川喜田二郎氏著書より引用しているが、より詳しくは「発想法」「続発想法」中公新書「KJ法 渾沌をして語らしめる」中央公論社 を参照のこと。
- 図解が完成するとわかったつもりになってしまうが、図解を文章化して初めて「狭義のKJ法一ラウンド」がおわることになる。図解が完成したら文章化することをおすすめする。

文章化と口頭発表

- (1) 図解化が終着駅ではない

図解化が完成すると、作った人は今までの渾沌の闇から一挙に解放されたかのような解放感に充たされる。そこで「できたー」と叫ぶ。そして、これで一ラウンドが終わったかのように安心してしまう人が実に多い。しかし実は、この図解化を踏み台にしてさらに叙述化をしないと、本当には一ラウンドが終わったことにならない。このことを肝に銘ずべきである。

- (2) 文章化と口頭発表

図解化をして判ったことを、さらにストーリーとしてみる。これが叙述化である。その叙述化には二通りの方法がある。ひとつは文章化であり、もうひとつは口頭発表である。文章化の方が徹底した方法なのだが、口頭発表には別種の重要な効用がある。だから、目的に応じて、どちらかを採り、場合によっては併用するのがよい。

- (3) 内容説明か発想への踏み台か

ストーリーにするといっても、それがこのラウンドの内容を忠実に説明するにとどまるのか、それともその内容を踏み台にしてさらに新たな発想へと前進しようとするのかによって、叙述化の仕方が異なってくる。すなわち、後者の場合には、ストーリー化の途中で触発された新しいアイデアをも、ストーリーの中に織りこむのである。この方法は、後にのべる累積KJ法へとつながってゆく。

文章化するには

- (1)まず図解の内容をよく噛みしめて味わう。
- (2)次に、図解のどの部分から説きおこすか、その戦略を決める。
- (3)何重にもなった島どりの高次元の方から説いてその中の細部の事柄に及んでもよい。その逆に、一枚の元ラベルから説きおこし、低次元から高次元へと話を進めてもよい。あるいは、まず高次元の大局的な事柄を先にのべ、次いで元ラベルの方から順次に高次元へ、つまり下から上へ書き進めてもよい。
- (4)ひとつのラベルまたは島から他のラベルまたは島へ移る時には、図解にのべられてない言葉を挿入して、論理的にストーリーがつながるようにする。だから、簡単な接続詞ですませることもあれば、かなり長い理屈で論理連鎖を創ることもある。(5)ふつつ、図解のひとつの島の文章化を終えると、その島に隣接する、意味の上で関連の深い島へと文章化を転じてゆく。しかし、これは説得の効果の問題なので、どこの島へ転じてもさしつかえはない。
- もちろん、必要に応じて、全ラベルの内容をことごとく文章にしてもよいし、大局的な結論のみを簡潔に文章化するに留めてもよい。あるいは、後にのべる衆目評価法などを適用して重要な問題点の判っている場合には、その部分だけ特に強調して詳しくのべてもかまわない。図解のラベルや表札では何度も重複して用いられている言葉を、文章化ではもちろん極力重複を避けた方が賢明である。

発想のための文章化

- 例えば会議や調査の結果を正直に報告するような目的の場合には、発言やデータをなんら意見を交えず文章化するに留めるのがよい。けれども、文章化を通してさらに新しいアイデアを模索するのが目的の場合には、次のように文章化するのである。
- (1)まず、文章化しつつ新たに浮かんだアイデアは、ことごとく文章中に挿入するのである。そのアイデアの根拠となったデータは、書いても書かなくてもよい。アイデアの中には、感想のようなものがあるがよい。しかし、どこまでが図解のデータの忠実な叙述か、どの部分は解釈的発想か。すなわち叙述と解釈ないし発想とを、明確に区別すべきである。文章の前後関係でその区別が自他共に判るなら、それでもよい。しかしまた、叙述と解釈の別を明快にする習慣を作る目的をもこめて、解釈の部分を()に入れて文章化するのも、ひとつの方法である。
- 発想のための文章化を行なうと、文章化の途中で飛びだした多くのアイデアを、後でピックアップできる。こうして拾ったアイデアを再びラベル化してKJ法でまとめると、驚くほど濃度の高い豊富なアイデアに成長するのである。

文章化と論文

- 図解が完成すると、それを踏まえての文章化や口頭発表がいかに楽になるか、驚くべきものがある。これは、誰しものがほとんど例外なく認めるところである。「私は三〇枚の論文を書いた経験もほとんどない。いわんや一〇〇枚の論文など、とても書けない」。こういつていた人が、KJ法を用いてデータを組み立てたら、楽々と二〇〇枚ぐらいを短期に書き下ろしてしまった。このような解放感と自信をもって、自由潤達に文章化を進めればよい。すでにのべたように、ごく短い文章なら、どこかのラベルから始め、下の段階から上の段階へと文章化するもよかるう。また文学的な作品の多くも、上段階から下段階へとお行儀よくシステムティックに書くことは嫌う。だが主題が論文とか論説といった論理的なもので、しかも大部のものであるならば、序論で上から内容の形式的な大要を述べ、最後の結章では内容的な結論の骨子を上段からの記述で締めくくるのが普通である。KJ法の文章化でも同じである。
- 大部分を占める中間の記述では、図解が主な論述の骨子を提供することはもちろんである。しかしまさにこのように骨子が用意されているからこそ、書き進む細部の順番などは、必ずしも図解に拘泥する必要はない。書き進んだ筆の勢いの調子によって、図解のどの部分にでも移り、自由奔放に次の舵を取ったらよいのである。

図解 文章化 = どういう真実が潜んでいるのか。

- まずひとつの真実は、人間は物事を空間的構造的に捉える一方、他方では同じ事柄を時系列的な論理のつながりとしても捉えることができる。そしてこのふたつの理解の仕方を重ね合わせ、対応すること確かめた場合に、非常な確かさをもって、物事を理解することができる。すでにのべたように、相手に物事を説明して判らせる場合に、このような原理を有効に用いたのが、視聴覚という方法である。
- このことを認めるならば、次のような推測もまたできる。人間が物事を観察するには、視覚や聴覚の他にも皮膚感覚、運動感覚、味覚、嗅覚、内臓感覚など、合計七つの感覚系統を持っているという。まだ知られない感覚系統もあるかもしれない。そこで、それらができるだけ総合的に、しかも相互に照合的に用いられるならば、視聴覚だけよりもさらに遙かに深く物事の理解が深まるのかもしれない。例えばKJ法の体験だけでも、どうも人間には、頭で考えるという思索の他に、手で考えると形容したいような何かがあるのである。
- だから例えば盲人のため「触聴覚」というものを開発すれば、非常な福音であると思う。現にそういう方向を示唆するものとして、盲人のための絵本というのが開発されているという。KJ法もこういう方向のためのヴァリエーションを開発すべきかもしれない。

ラベルづくり

- 以後の作業の**死命を制する出発点**となるほどの**重要さ**
- ひとつのラベルはひとつの**志を持つ**ように記す
- 能動的で訴えの方向性のある形容として

「**こころ+指す**」 = 「**こころざし**」

そのデータは要するに何をいいたいのかという
要点のイメージを上に行見出しをつかって書いた。

- 松沢 それまでは野帳みたいなノートに書いてたということですよ
ね。
- 川喜田 そう。みんなノートに書いてたんです。
- 松沢 今西さんも伊谷さんも、フィールド・ノートに書いてたわけ
ですよ。それをカードにした。

- 川喜田 それを私は戦後まもなく、1946年にはつくった。図書カー
ド、あれにフィールドワークでやった定性的データを書くことをやりだ
した。書くなら書き方のルールを決めにゃいかん。それでそのフォー
ムを考え抜いてつくったんです。本文の一番広いところにね、ひとか
たまりのデータを書く。そうしてそのデータは要するに何をいいたい
のかという要点のイメージを上に行見出しをつかって書いた。
- やまだ ああー、すでにもうそのときに一行見出しができたんです
ね。

一度も研修を受けずしてKJ法を会得した 「発想法」に登場する青木貞巳氏とMBS

- 「KJ法を知る(1966年)8年前にMBS(三菱樹脂式ブレインストーミング)を完成させていたが、どうも(意見の総合化、このころは意見を紙切れに書いてバラバラにするという考えがまったくなかった)うまくいかない。
- 川喜田さんに会った先輩からもらった10頁ばかりの英文のパンフレットを読んで川喜田さんに接触し、紙切れ法を学んだ。
- **すでに完成していたMBSで得た意見を名刺に書き、設計図をはがき2枚大の紙に書いた50枚ほどを、二日後にはKJ法で組み立ててしまった。」**

よいラベル・わるいラベル

よいラベル	悪いラベル	悪いわけ
<p>地層と雲母片岩が地スベリをおこしやすい。 ——中部ネハール</p>	<p>雲母片岩が多く、またときどき地スベリがあった。</p>	<p>志(ココロザシ)が2つある。</p>
<p>若い世代が、生活のため旧慣無視・新事物の導入をするのを、老世代は「罰あたりだ」と反対。 ——多くの Magar 族村</p>	<p>地質構造と地スベリの関係について。</p>	<p>単語がレッテルのように並び、実質的内容が動きのある訴えとなっていない。</p>
	<p>世代間断絶。 —— Magar</p>	<p>概念的な単語だけしかない。</p>
	<p>若い世代は進歩的で老世代は保守反動である。</p>	<p>必要もないのに自分の価値判断を加え、データの迫真性を損ねている。</p>
	<p>保守と進歩があい並んで見られる。</p>	<p>主体が誰であるのか、さっぱりわからない。</p>

第5図 ラベルづくりのよい例と悪い例

のぞましい元ラベル表現とは！

- 志というダイナミックな訴え性がないと困るのだから、いかに短くとも、ふつうは文章でないといけない。例えば「樹木」とか「書物」とか「勇気」とかいったレッテルのような単語だけでは具合が悪い。また「学生の成績」とか「美しいインドの都市」とか「花と小鳥のさえずり」などといった語句だけではだめである。反対に、詩人ゲーテの最後の言葉だという「もっと光をー(Mehr Licht!)」という文句などは、いかに短くても文章であり、ダイナミックに訴える性格があるから、適格である。
- けれども、この一般論から一見脱したかのようにみえる単語や語句だけでも、さしつかえのない場合もある。例えば外国旅行にでかける場合には、「歯ブラシ」とか「靴下」とか「英和辞典」といった単語をラベルに記し、携行する全物品に対照させておく。そしてこういうラベルをKJ法で組み立て、図解化しておく。そうすると、「消しゴムを持ってきたらうか」などと気になった時にも、図解を見ただけでそれは小型のスーツケースの方に入っているなどということが判る。
- すなわちこの場合には、旅行をする当人にとっては「歯ブラシ」とか「フランスの地図」といった単なる名詞でも、訴え性があるからである。
- このように、志として訴える性格があるかないかこそが肝心なので、本人にとってそれさえあれば、実のところは文章であろうがなかろうが、問題ではないのである。したがって、場合によってはラベルの内容が字でなくてもよいのである。

1. 並べる

取材時の論理的脈絡などはできるだけ無視し、カルタとり式にデタラメな順に広げる。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

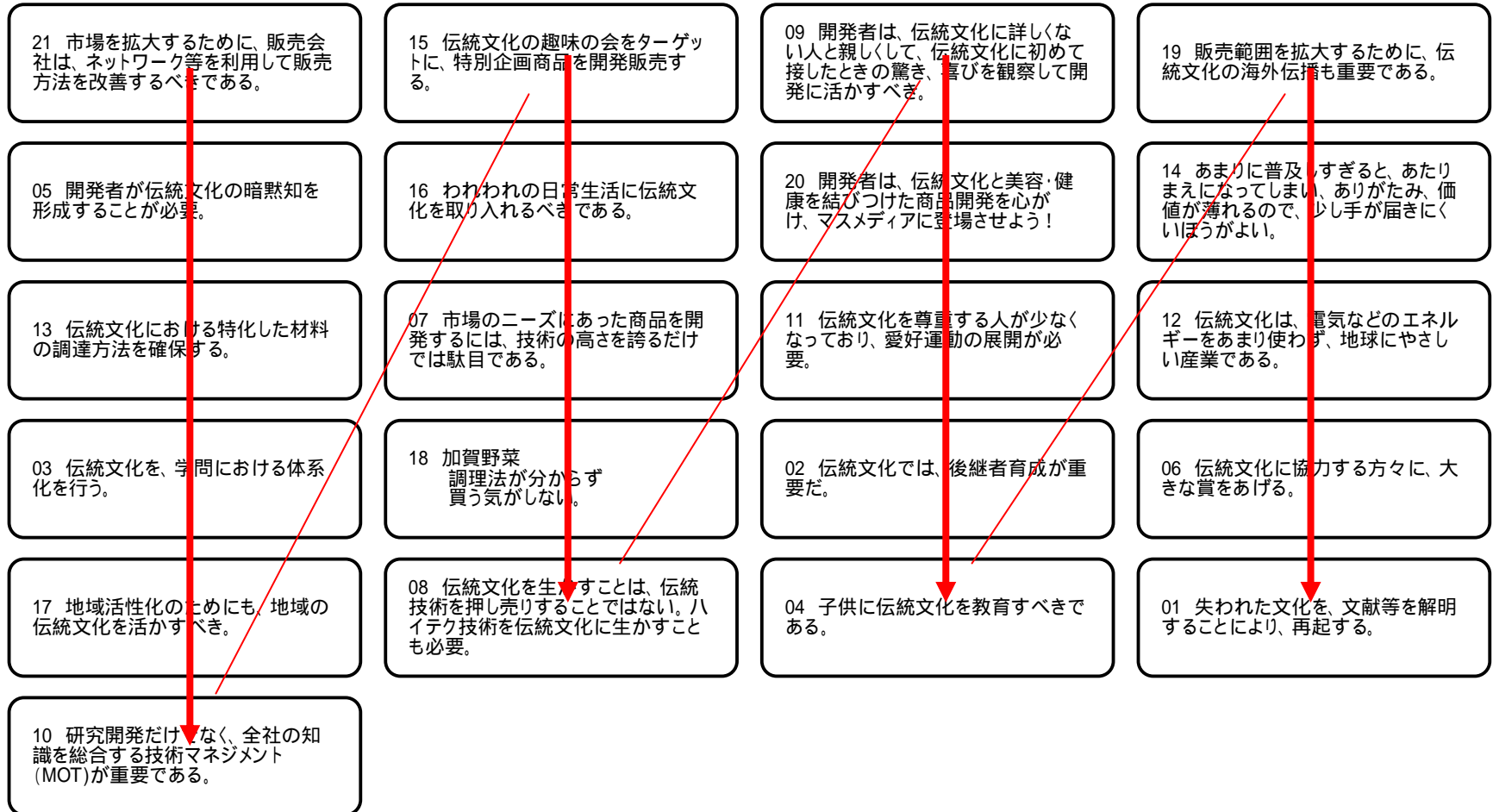
08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

2 . 一段目 : ラベルを読む 集める (まる)



ラベルを読む

- 左端の行の一番上から一つずつ味わって読んでいったんです。よく読んだら次のカードに移る、また読んだら次へ、読んでいったんです。
- 一回読んだときにはもう何がなんだか自分で書きながらわからんのです。もう、ごっちゃだから。頭の中もごっちゃになってる。
- 2回、3回、4回目、4、5回目くらいになると違ってくるんです。
- どう違うのかというとな、カード見てるとね、まるでもうひとりの人間が訴えてくるのと同じだね。
- あっ、君と非常によく似たことを訴えている友達が確かどっかにいたと。それで紹介してやろうと、こういう気持ちになる

ラベル集め

- ラベルの訴えの相対的近さで集める。
 - 情念で集める…集まる。
 - 扱うすべてのラベルの集合全体は、いわばひとつの世界であり、ひとつの全体をなす宇宙なのである。その世界全体の声を聴き届けた上で、最も志の近いラベル同士を集めるべきなのである。それが自然なラベル集めである。
-
- 陥りやすいラベル集め
 1. 分類型
 2. ストーリー型
 3. 読みすぎ型
 4. 対立思考型
 5. 表面的類似型

分類とは

= データの同質性にもとづいて仕分けるだけのこと

- 分類というものは、
データの同質性にもとづいて仕分けるだけのこと。
- それでおこなえることは、
ほしいデータを効率よく探すこと、
同質原理にもとづく一つの母集団をとりだせること、および
その要約と分析にすぎない。
- その分析にしたところで、たった一枚の統計表でも、
着眼点により無数の角度から分析できる。しかし
統計表は、どの着眼点から分析すれば宝物が見つかるということは
何も教えてくれないのである。
- その着眼点自体を暗示してくれるのは、
その人なりの経験に立つ靈感しかないのではないか。

「まとめる」には二つの意味あり

- 一枚の統計表の読みかたにして然り。
- そもそもデータを「まとめる」という日本語の意味のなかには、上記のような要約や分析の意味もあるが、また別個のひじょうに大切な意味も含まれているではないか。
- それは何かというと、そもそも比較など不可能な異質のデータどうしの組み合わせから、新しい意味を発見するという意味での「まとめる」なのである。
- 二言でいえば、「異質の統合 発想」の方法や如何に？ ということであった。これがなくては、創造的な論文に「まとまらない」。

異質のデータとは

- 私はよく探偵小説の例をひくんであります。どこかで殺人事件が起こった、犯人は誰か、としますと、どこかでとにかく人間が死んでいるに違いない。死んでいるそばに、何者かの持っていた帽子が一つ転がっていた。血痕がこういうふうに落ちていた。それから足跡がどちらかの方角にむいてある。時刻は何時何分であった。つまり、そういうような資料が、この殺人事件のために活用されてくるわけであり
ます。
- こういった資料は同類のものを掻き集めるといってもムチャな話であって、帽子は一つしかない。それから足跡は三つか四つしかない。いつもそういった繰り返し得ないものばかりであります。時計が何時何分をさしていたなんていうのは、三つも四つもそんな時間をさすわけにいかない。どれ一つ同類の資料でないのであります。まったく違うものであります。その違うものの組み合わせの中から名探偵は、犯人は誰であろう、という組み立てをつくるわけであり
ます。これは異質の資料の中から文脈を見出すという、そういった種類のまとめ方です。

今までの学者はどうしてきだろうか？

- 今までの学者はどうしてきだろうか。
- 関するFWのデータ処理にかぎり、正攻法はなかったのではないか。すなわち、
 - (1) 要約・分析どまりの平板な報告、ひよっとすると資料集どまりのものがひとつ。
 - (2) 誰かの理論・仮説などをあてはめ、追試するかスマートに文脈あわせをして論文にするもの。
 - (3) 自分の思いつきやカンでデータを綴るもの。こんなあたりだろうか。しかしこれだけでは心細いので、そのテーマに関する学界の積み上げに頼り、FWのデータはそれにほんのお添えものとして肉づけに使う、という程度が多い。

「私は精選されたデータだけしか用いない」などという人もある。
じつのところは精選ではなく、データを活用する能力がないのである。

- (1)は、論文としては食い足りない。
- (2)は、アメリカの文化人類学者C. Kluckhohnのいう「仮説検証型」である(同教授来日時のアメリカーン・セミナーのプリントによる)。これによれば、データは理論・仮説に関係あるもののみしか役立たない。まずくゆくと、論文にしたいため都合のよいデータばかりをツマミ食いすることになる。
- (3)はいちばんおもしろ味があるが、これまたヘマをするとツマミ食いの弊に陥る。
- そこで、(2)や(3)によると、せっかくFWで得たデータのほんの一部しか生かされない。データの量が多い場合ほどそうなる。これを自己弁護し、「私は精選されたデータだけしか用いない」などという人もある。じつのところは精選ではなく、データを活用する能力がないのである。「そんなに使わないデータなら、はじめから採集しなかったらよいじゃないか」と、私は他人に皮肉ったこともあった。

データの語りかけに虚心坦懐に耳を傾け、それに教えてもらい、啓発され発想することが大切

- 必要なことは、せっかく採ったデータを「データをして語らしめ」、使いきることであった。
- 仮説や理論をいくつも持つことは、良いことではあっても悪いことではない。
- しかしFWのデータをまとめるときには、それらにとらわれることなく、データの語りかけに虚心坦懐に耳を傾け、それに教えてもらい、啓発され発想することが大切である、と、ようやくにして気づいた。

ラベル集めは同志の糾合

- 表札づくりの本質とは、強いていえば概念形成といえようか。もっとピタリといえば、ラベル集めは同志の糾合(きゅうごう)であり、表札づくりとはその同志らの旗揚げなのである。
- それはけっして、一セットのラベル内容の単なる最大公約数とか最小公倍数とかいった平板な意味あいのものではない。
- 扱うすべてのラベルの集合全体は、いわばひとつの世界であり、ひとつの全体をなす宇宙なのである。その世界全体の声を聴き届けた上で、最も志の近いラベル同士を集めるべきなのである。それが自然なラベル集めである。

志の遠近は相対的なもの

既成概念をあらかじめ持ち、それにあわせて集めたのではまったくの失敗

- 志を同じうするラベルどうしを、あちらに二枚こちらに三枚という具合に近づけ、集める。
- 志の遠近は相対的なものであるから、ラベル一枚ずつの志をよく聴きとどけつつ、全ラベルのそれを聴いてから集めねばならない。
- 既成概念をあらかじめ持ち、それにあわせて集めたのではまったくの失敗である。

一匹狼 = はなれ猿

- 一枚ずつのラベルが訴える志を、理屈ではなく心で感じとり、その感じたものの近さで集めねばならない。情念で集めるのだといってもよい。このような意味でラベル集めが自然であると、無理のない自然な表札がつけやすい。無理は禁物である。だからまた、はなれ猿でおるべきラベルを、無理にどれか他のラベルとセットにするのは禁物である。はなれ猿には、一匹のままでいる孤高を尊重してあげなければいけない。

あっ、非常によく似たことを訴えている友達が見つかったよ！

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

重なる位置にあるラベルと、居場所を交換する。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

集まったラベルは、枠内で、字が見える程度に重ねる。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

集まったものも集まらないものも同じように読んでいく。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

より近い集まりがあるかもしれないから……

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

集まったラベルセットを外に出さずに、枠内で扱う。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

陥りやすいラベル集めに要注意・・・

分類型 ストーリー型 読みすぎ型 対立思考型 表面的類似型

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

18 加賀野菜調理法が分からず買う気がしない。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

うん！これでよし！！！！

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

18 加賀野菜
調理法が分からず
買う気がしない。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

ラベル集め(集まり)の限界は、腑に落ちるときが来る。 無理に集めようとしないことが肝要。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

18 加賀野菜
調理法が分からず
買う気がしない。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう!

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

3 . 表札づくり：一段目の表札をつける準備

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

表札用の白ラベルを重ねて、 次の作業に向かう心の姿勢転換をする。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

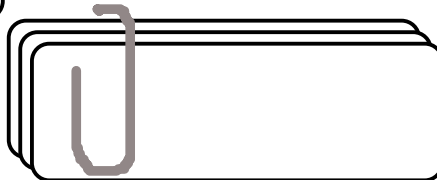
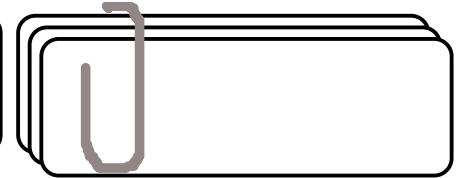
表札をつくるぞという、こころの姿勢転換が極めて重要・・・KJ法のコツ

クリップで留める。 前のラベル集めにこだわらない。



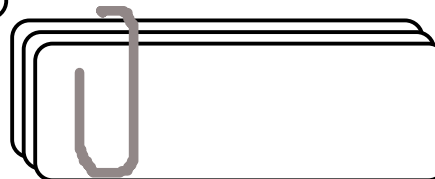
15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。



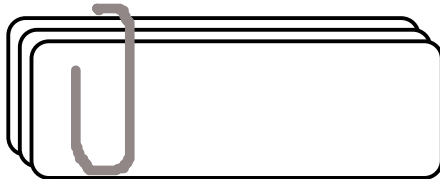
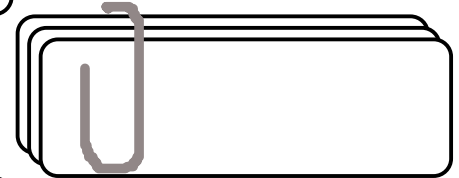
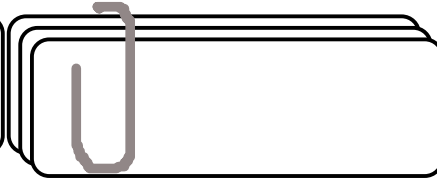
20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。



12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。



08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

表札づくり

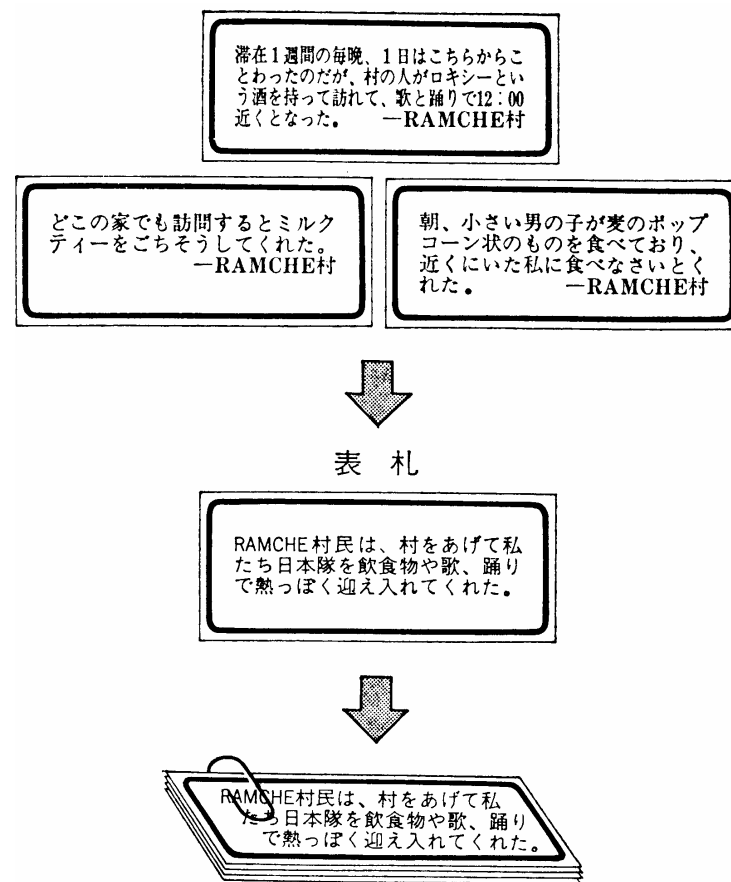
- そのときにごく自然にさ、こういうことがあった。ここにある3枚の、えらい近いことを訴えてるのはね、何を訴えてるんだろう。
- それで、その3枚の訴えのカードを、生きた人間が3人いると思ったらいいんです。
- 要するに君たち3人が言いたいのはこういうことだろうと。それをまた別のカードに赤ペンかなんかもってきて書いた。
- 一番上に重ねたんです。 で、クリップかなんかで挟んだ。
- 全部やったら、数十枚あった単位が減るわけですよ。目減りする。

表札づくりの本質とは、
強いていえば概念形成といえようか。

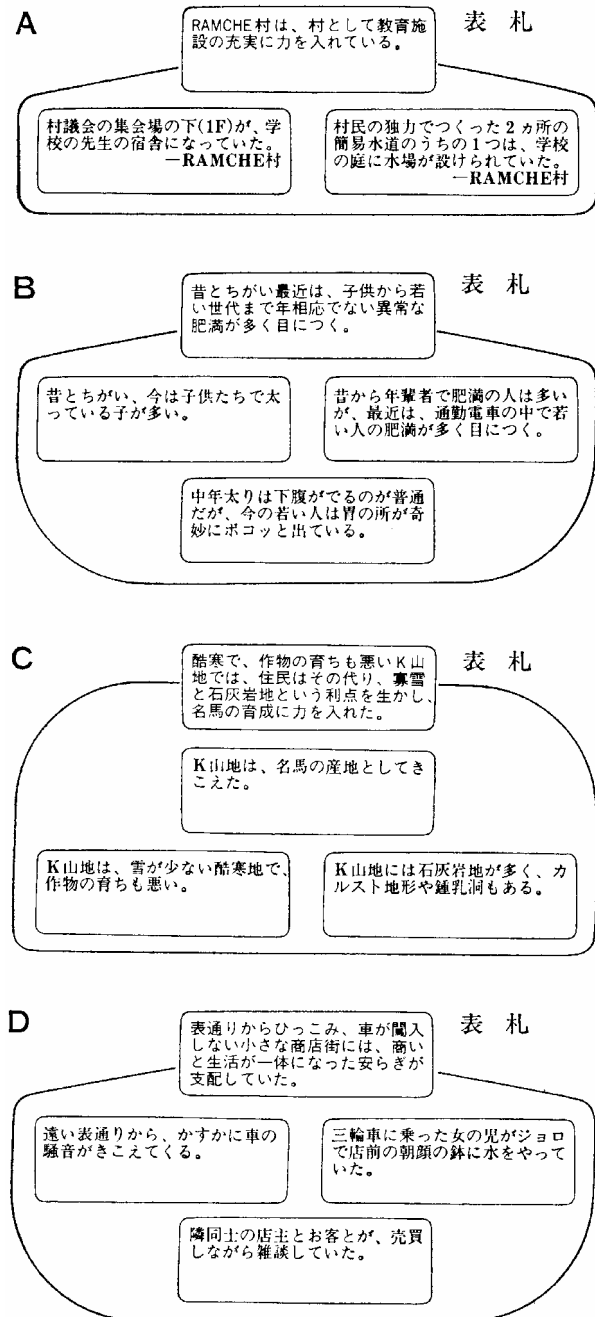
- 表札づくりの本質とは、強いていえば概念形成といえようか。もっとピッタリといえは、
- ラベル集めは同志の糾合(きゅうごう)であり、
- **表札づくりとはその同志らの旗揚げ**なのである。それは
- **けっして、一セットのラベル内容の単なる最大公約数とか最小公倍数とかいった平板な意味あいのものではない。**

表札づくりの手順

- まず、どれか一セットのラベルを取りあげ、自分の手もとにおく。实例として第19図を見よ。
- この例では三枚一セットである。まずこの三枚の志をじっくり聴いて納得する。
- 次に、この三つの志が何ゆえここに集まったのか、その、集まったゆえんが感じられ、それがひとまとまりの志をなしているか、自分の心に問う。納得できれば、このセットには無理がないことになる。そしてこのセットは、セット全体としてひとつの志を持っているのである。その志を、本人は感じていることになる。
- そこで、いったんそのセットから離れ、自分が「志」だと感じたことを、別のメモ用紙に下書きしてみる。その感じを完全に書き表わそうとする必要はない。志の持つ感じのうち、中核的に大切だと思う事柄を、ひと言だけでよいから、メモとして書きつけてみるのである。



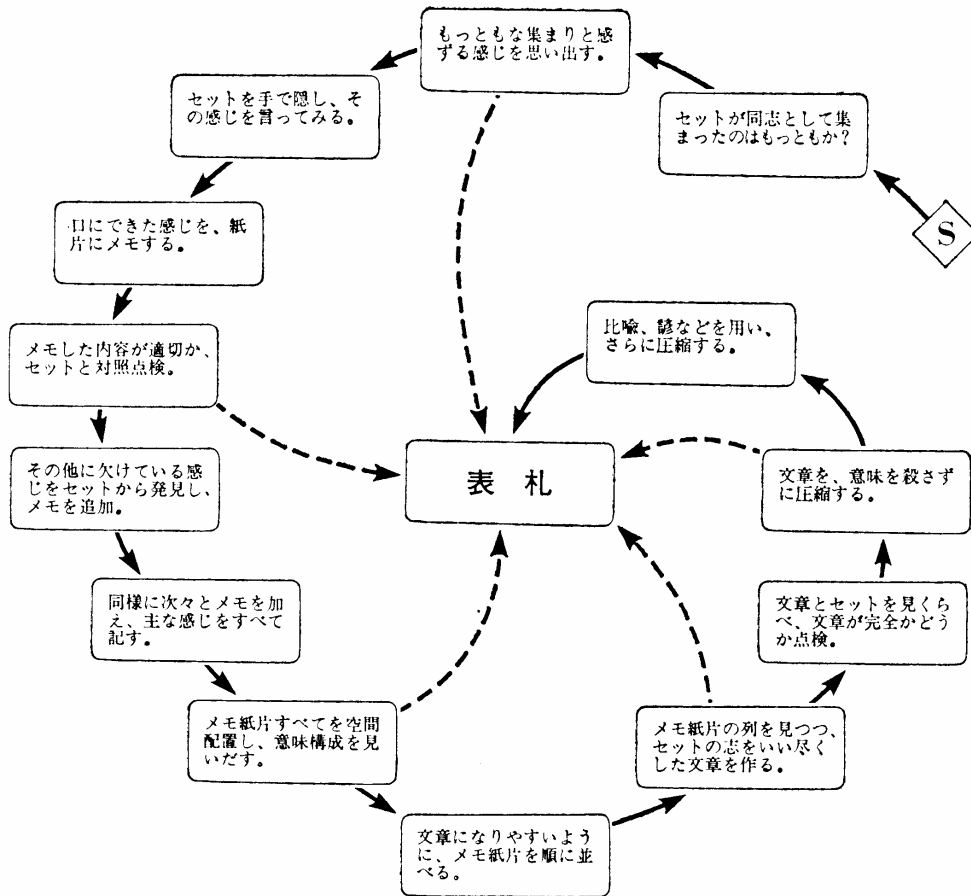
第19図 表札づくりの实例



第20図 やさしい表札(A, B)とむずかしい表札(C, D)

- 次に、こうしてメモした事柄が、ほんとうにこのセットの志にも含まれているかどうか、三枚のラベルをよく読み、点検してみる。含まれておれば合格。不適切なら表現を改める。
- 次に、このセットの志の中に、最初のメモの事柄以外にも重要な事柄が含まれていないかどうか、もう一度三枚のラベルの志を聴く。これも、感じを聴くのである。それを発見すれば、同様にメモする。
- 同様にして、このセットの志の中に含まれている、欠かすことのできない重要な事柄は、すべて逐次メモするのである。ひとつかふたつのメモでそれらの事柄が尽きることもある。一〇カ条近くもメモが必要なことも稀にある。しかしほとんどは数カ条以内で尽きるだろう。
- そうすると、この数カ条以内のメモを適当に結びつけ、短文にすると、このセットとしてほぼぴったりくる表札ができる。
- 最後にこの短文を、セットの三枚の元ラベルとも対照しつつ、的確な短文へと添削する。的確ということは、セット全体の志を的確に表現しており、しかもこのKJ法作品の利用者の誰にも、疑問の余地を残さずひとつの意味にしか解せない表現になっているということである。
- このような表札づくりには、容易にすぐ表札のできるようなセットから、すこぶる難解で苦心惨憺、やっとできあがるような場合まである。次の四事例に見るとおりである。(第20図参照)

- 手続きを細密に描くと、たいへん長いように見える。しかし実際にやってみると、スラスラとやれる。それに実際には、ミニKJ法のフルコースを全部やらなくても、途中で充分満足できる表札になってしまうことも多い。図で御覧のように、バイパスコースがいくらかあるのである。表札づくりの腕が冴えてくると、ますますバイパスを採りやすくなる。

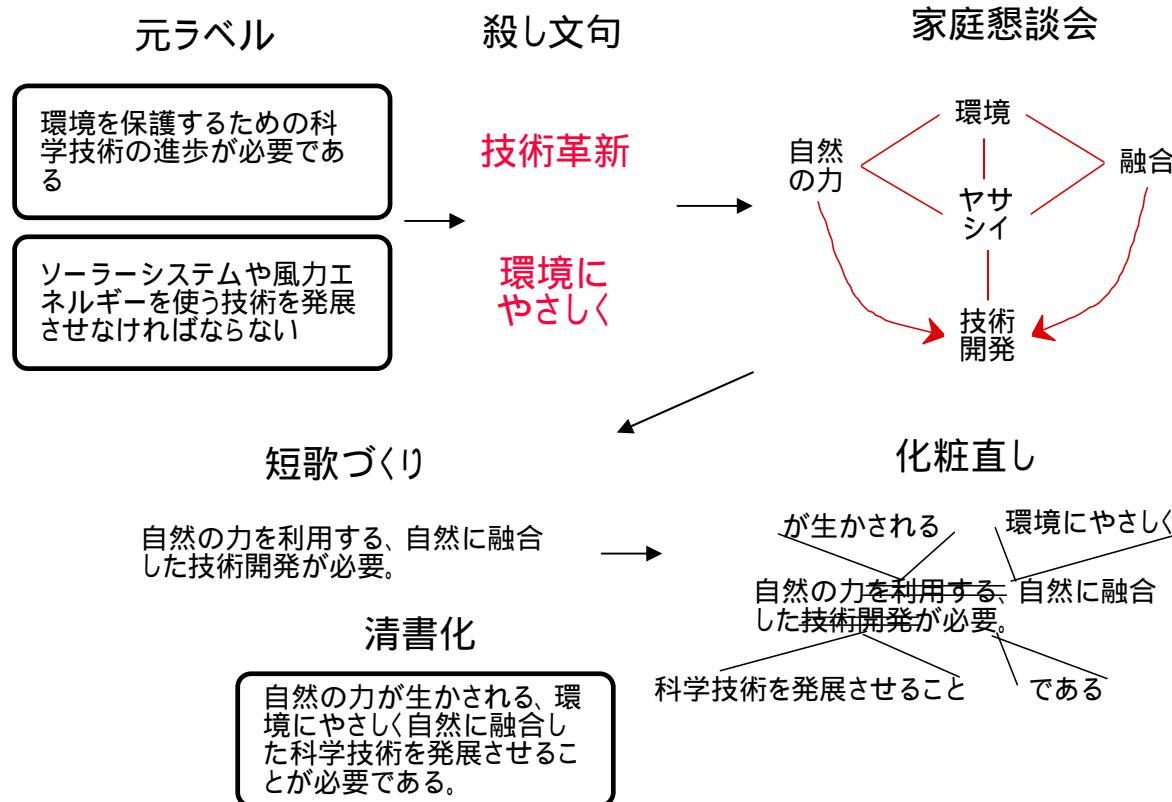


第25図 ミニKJ法の手順

- 以上の手続きを実行すると、メモするまでは「感じる」という心の働きが強く前面にでていることが判る。これに反し、メモした内容とラベルのセットとを比べて適切かどうかを吟味検証する場面では、遙かに理づめの心が前面に出ている。
- すなわち前者では感性が、後者では理性が卓越しているのである。同様にして、感じたことを次つぎにメモ紙片に書きだすとき、最初ほど感性がフルに使われ、後のものほど理性の影が濃い。
- ミニKJ法全体の過程の中では、初めの方ほど感性が使われ、後の方ほど理性が使われている。
- ただし、最後に比喩や諺(既存の諺ばかりか、その場で初めて創りだす諺さえある)を用いて圧縮する場合のみは、再び感性が色濃く登場する。

表札づくり…川喜田二郎博士創案・核融合法

「核融合法」の例



表札づくりが終わった。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向けた、総合的なマネジメントが必要だ。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

赤表札がめでたく完成したら、赤表札の下位のラベルに 赤表札に含まれることを示す赤の目印をつける。

21 市場を拡大するために、販売会社は、ネットワーク等を利用して販売方法を改善するべきである。

19 販売範囲を拡大するために、伝統文化の海外伝播も重要である。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

10 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である。

07 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

16 われわれの日常生活に伝統文化を取り入れるべきである。

17 地域活性化のためにも、地域の伝統文化を活かすべき。

18 加賀野菜
調理法が分からず
買う気がしない。

01 失われた文化を、文献等を解明することにより、再起する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

11 伝統文化を尊重する人が少なくなっており、愛好運動の展開が必要。

06 伝統文化に協力する方々に、大きな賞をあげる。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

05 開発者が伝統文化の暗黙知を形成することが必要。

03 伝統文化を、学問における体系化を行う。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

02 伝統文化では、後継者育成が重要だ。

04 子供に伝統文化を教育すべきである。

含み含まれる関係がわかりやすいので、 手作業での図解化がしやすい。

市場のニーズを読み取り、人々の心を振るわせるような伝統文化マネジメントが必要である

04 たとえ素人には馴染みにくくとも、伝統文化を愛する人達の心に深く響き続ける商品を開発することも重要だ！

015 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する

014 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい

03 市場ニーズに合った商品開発のためには、伝統文化に始めて触れた人の感動を冷静に観察するなど、総合的なマネジメントが必要だ

02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向けた、総合的なマネジメントが必要だ

010 研究開発だけでなく、全社の知識を総合する技術マネジメント(MOT)が重要である

007 市場のニーズにあった商品を開発するには、技術の高さを誇るだけでは駄目である

009 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき

そうすると、隙間ができるわけですね、だいぶ。 一段目がこうしてまとまった。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向け、総合的なマネジメントが必要だ。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

隙間があるので、ラベルを移動してつめる。

4. 二段目：ラベルを読む 集める(まる)

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向け、総合的なマネジメントが必要だ。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

クリップ(輪ゴム)で留めたラベルセットは、以後は一枚として扱う。

2回目やったらいいわけですね。 そしたらまた束が重なってくる。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向け、総合的なマネジメントが必要だ。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

一段目とは全く違った全体感。

下位ラベルを見る誘惑に負けないように。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向け、総合的なマネジメントが必要だ。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向け、総合的なマネジメントが必要だ。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向け、総合的なマネジメントが必要だ。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向けた、総合的なマネジメントが必要だ。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向け、総合的なマネジメントが必要だ。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向け、総合的なマネジメントが必要だ。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向け、総合的なマネジメントが必要だ。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向け、総合的なマネジメントが必要だ。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向け、総合的なマネジメントが必要だ。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向け、総合的なマネジメントが必要だ。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向け、総合的なマネジメントが必要だ。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

うん！これでよし！！！！

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向け、総合的なマネジメントが必要だ。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

5 . 表札づくり : 二段目の表札をつける準備

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向けた。総合的なマネジメントが必要だ。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

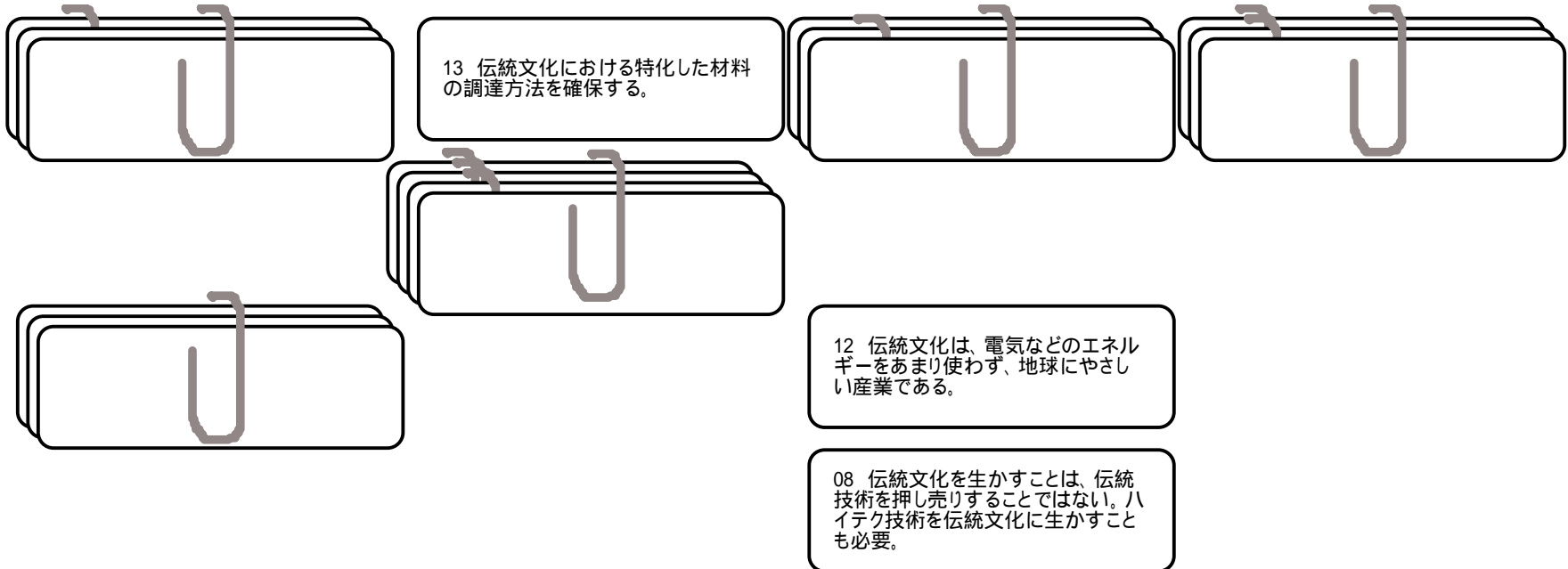
08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

今度はクリップでなく確か輪ゴム使ったですわ。
3回目も輪ゴム。



束が厚ければ、輪ゴムを使用する。

B01 既存 又は、新しい市場にマスメディアを通じて、新しい技術を融合した方向性の伝統産業を流通させる。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

B03 市場ニーズに合った商品開発のためには、伝統文化に始めて触れた人の感動を冷静に観察するなど、総合的なマネジメントが必要だ。

B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる

B04 たとえ素人には馴染みにくとも、伝統文化を愛する人達の心に深く響き続ける商品を開発することも重要だ！

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

青表札がめでたく完成したら、 青表札に含まれることを示す青 の目印をつける。

A06 伝統産業の市場拡大のため、世界規模の文和k交流を進め、ネットワーク等を利用して販売方法を改善する。

20 開発者は、伝統文化と美容・健康を結びつけた商品開発を心がけ、マスメディアに登場させよう！

14 あまりに普及しすぎると、あたりまえになってしまい、ありがたみ、価値が薄れるので、少し手が届きにくいほうがよい。

15 伝統文化の趣味の会をターゲットに、特別企画商品を開発販売する。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

A01 われわれの日常生活にも、地域の活性化のためにも、伝統文化を取り入れ活かすべきである。

A07 伝統文化を再認識し、失われつつある伝統の精神をよみがえらせるための啓蒙活動をする。

A03 伝統文化を途絶えさせないように、後継者を育成し、子供には教育を通して後世に伝えるべきである。

09 開発者は、伝統文化に詳しくない人と親しくして、伝統文化に初めて接したときの驚き、喜びを観察して開発に活かすべき。

A02 市場ニーズに合った商品開発のためには、技術意外にも目を向けた、総合的なマネジメントが必要だ。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

A04 先祖たちが伝えてきた暗黙的な知識を体系化し、後世に残せるように共有する。

A05 例えば、古い時代の調理法など、伝統文化を、文献を元に掘り起こし、情報を共有し、失われつつある日本の伝統文化を再興する。

二段目がこうしてまとまった。

B01 既存 又は、新しい市場にマスメディアを通じて、新しい技術を融合した方向性の伝統産業を流通させる。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

B03 市場ニーズに沿った商品開発のためには、伝統文化に始めて触れた人の感動を冷静に観察するなど、総合的なマネジメントが必要だ。

B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる。

B04 たとえ素人には馴染みにくとも、伝統文化を受取る人達の心に深く響き続ける商品を開発することも重要だ！

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

隙間があるので、ラベルを移動してつめる。

6. 三段目：ラベルを読む 集める(まる)

B01 既存 又は、新しい市場にマスメディアを通じて、新しい技術を融合した方向性の伝統産業を流通させる。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

B03 市場ニーズに合った商品開発のためには、伝統文化に始めて触れた人の感動を冷静に観察するなど、総合的なマネジメントが必要だ。

B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

B04 たとえ素人には馴染みにくとも、伝統文化を愛する人達の心に深く響き続ける商品を開発することも重要だ！

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

二段目とは全く違った全体感。

下位ラベルを見る誘惑に負けないように。

B01 既存 又は、新しい市場にマスメディアを通じて、新しい技術を融合した方向性の伝統産業を流通させる。

B04 たとえ素人には馴染みにくとも、伝統文化を愛する人達の心に深く響き続ける商品を開発することも重要だ！

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる。

B03 市場ニーズに合った商品開発のためには、伝統文化に始めて触れた人の感動を冷静に観察するなど、総合的なマネジメントが必要だ。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

B01 既存 又は、新しい市場にマス
メディアを通じて、新しい技術を融合
した方向性の伝統産業を流通させ
る。

B04 たとえ素人には馴染みにくとも、
伝統文化を愛する人達の心に深く
響き続ける商品を開発することも重
要だ！

13 伝統文化における特化した材料
の調達方法を確保する。

12 伝統文化は、電気などのエネル
ギーをあまり使わず、地球にやさし
い産業である。

B03 市場ニーズに合った商品開発
のためには、伝統文化に始めて触れ
た人の感動を冷静に観察するな
ど、総合的なマネジメントが必要だ。

B02 伝統文化の精神をよみがえら
せ、日常生活と地域の活性化、後継
者育成に取り入れる。

B05 先祖代々の伝統文化の知恵
を、文献を元に掘り起こし、学問的な
レベルに体系化して共有し、日本の
伝統文化を再興する。

08 伝統文化を生かすことは、伝統
技術を押し売りすることではない。ハ
イテク技術を伝統文化に生かすこと
も必要。

B01 既存 又は、新しい市場にマス
メディアを通じて、新しい技術を融合
した方向性の伝統産業を流通させ
る。

B04 たとえ素人には馴染みにくとも、
伝統文化を愛する人達の心に深く
響き続ける商品を開発することも重
要だ！

13 伝統文化における特化した材料
の調達方法を確保する。

12 伝統文化は、電気などのエネル
ギーをあまり使わず、地球にやさし
い産業である。

B03 市場ニーズに合った商品開発
のためには、伝統文化に始めて触れ
た人の感動を冷静に観察するな
ど、総合的なマネジメントが必要だ。

B02 伝統文化の精神をよみがえら
せ、日常生活と地域の活性化、後継
者育成に取り入れる。

B05 先祖代々の伝統文化の知恵
を、文献を元に掘り起こし、学問的な
レベルに体系化して共有し、日本の
伝統文化を再興する。

08 伝統文化を生かすことは、伝統
技術を押し売りすることではない。ハ
イテク技術を伝統文化に生かすこと
も必要。

B01 既存 又は、新しい市場にマスメディアを通じて、新しい技術を融合した方向性の伝統産業を流通させる。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

B03 市場ニーズに合った商品開発のためには、伝統文化に始めて触れた人の感動を冷静に観察するなど、総合的なマネジメントが必要だ。

B04 たとえ素人には馴染みにくくとも、伝統文化を愛する人達の心に深く響き続ける商品を開発することも重要だ！

B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

B01 既存 又は、新しい市場にマスメディアを通じて、新しい技術を融合した方向性の伝統産業を流通させる。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

B03 市場ニーズに合った商品開発のためには、伝統文化に始めて触れた人の感動を冷静に観察するなど、総合的なイベントが必要だ。

B04 たとえ素人には馴染みにくくとも、伝統文化を愛する人達の心に深く響き続ける商品を開発することも重要だ！

B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

B01 既存 又は、新しい市場にマスメディアを通じて、新しい技術を融合した方向性の伝統産業を流通させる。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

B03 市場ニーズに合った商品開発のためには、伝統文化に始めて触れた人の感動を冷静に観察するなど、総合的なイベントが必要だ。

B04 たとえ素人には馴染みにくくとも、伝統文化を愛する人達の心に深く響き続ける商品を開発することも重要だ！

B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる。

うん！これでよし！！！！

B01 既存 又は、新しい市場にマスメディアを通じて、新しい技術を融合した方向性の伝統産業を流通させる。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

B03 市場ニーズに合った商品開発のためには、伝統文化に始めて触れた人の感動を冷静に観察するなど、総合的なイベントが必要だ。

B04 たとえ素人には馴染みにくくとも、伝統文化を愛する人達の心に深く響き続ける商品を開発することも重要だ！

B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる。

7. 表札づくり：三段目の表札をつける準備

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

B04 たとえ素人には馴染みにくくとも、伝統文化を愛する人達の心に深く響き続ける商品を開発することも重要だ！

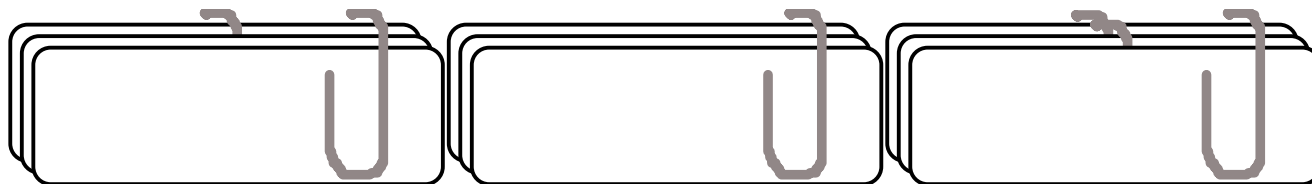
B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる。



B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる。



B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる。

三段目がこうしてまとまった。

C3 そもそもイノベーションの結晶である伝統技術にハイテク技術を活かすことで、新しい伝統イノベーション産業を流通させる。

C1 本来環境にやさしい伝統文化は、緩急や時代の変化によって、容易に得られる材料が減り、より環境を悪くする文化が人々の心に根づいている。

C2 市場のニーズを読み取り、人々の心を振るわせるような伝統文化マネジメントが必要である。

B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる。

緑表札がめでたく完成したら、 緑表札に含まれることを示す緑 の目印をつける。

B01 既存 又は、新しい市場にマスメディアを通じて、新しい技術を融合した方向性の伝統産業を流通させる。

08 伝統文化を生かすことは、伝統技術を押し売りすることではない。ハイテク技術を伝統文化に生かすことも必要。

13 伝統文化における特化した材料の調達方法を確保する。

12 伝統文化は、電気などのエネルギーをあまり使わず、地球にやさしい産業である。

B03 市場ニーズに合った商品開発のためには、伝統文化に始めて触れた人の感動を冷静に観察するなど、総合的なマネジメントが必要だ。

B04 たとえ素人には馴染みにくくとも、伝統文化を愛する人達の心に深く響き続ける商品を開発することも重要だ！

B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる。

どこまでいったらしまいになるのか？
数束になるまでやればいいんです。いくら多くても10束以内。

渾沌をして語ってもらう。
そしたらちゃんとまとまるようになる。
これがKJ法の始まり。

結局人間というのは、数束までになったらね、全体がこう見えてくるんです。

- 川喜田 そのときに私はものすごくうれしかった思い出があるんです。何がうれしかったか。
- これで何が何かわからんという状態から脱せられると。それで何が何かわからん状態の時に、すぐ私はね、莊子のことを思い出したの。中国の戦国時代の。莊子が簿掩と戦った話があった。やっぱりそこは、京大の史学科(地理学は文学部史学科)にいたことは無駄ではなかった。これは渾沌だ。莊子の悩みの出発点と同じだと。
- しかし、同時にものすごくうれしかったのはね、その渾沌は今や、越える方法がありそうだということですね。最初は何十かに束ねたでしょ。それが数束くらいになると、全体の意味がつかめる。
- 結局人間というのは、数束までになったらね、全体がこう見えてくるんです。

渾沌を殺さないで、どうしたら創造的総合ができるか。
しかも、ぐちゃぐちゃの渾沌そのままではなく、「語らしめる」。

- やまだ 莊子の渾沌の話というのは、
- 渾沌という名前の人がいて、その人は目も耳も持たないのでかわいそうだから認識の穴をあけてあげようという話なのですね。
- 認識の穴をあけると見えるようになるけれど、生きた身体が分割されてしまうから、かんじんの渾沌は死んでしまうわけですね。
- だから、川喜田先生の方法は、「**渾沌をして語らしめよ**」。渾沌を殺さないで、どうしたら創造的総合ができるか。しかも、ぐちゃぐちゃの渾沌そのままではなく、「語らしめる」。

材料が渾沌を語ってくれる、
それに素直に従うべきだということです。

- **松沢** 理解する側の人間の制約によくのっとった方法だよね。7プラスマイナス2という「マジカル・ナンバー7」認知の制約のことだけど。
- **川喜田** 渾沌をして語ってもらう。そしたらちゃんとまとまるようになる。これがKJ法の最初の始まりですよ。材料が語ってくれるんですね。こっちが生意気にもね、材料を征服するとか支配するとかね傲慢なことを考えるのは大間違いですよ。材料が渾沌を語ってくれる、それに素直に従うべきだということです。
- Facts speak for themselves.

どっかにあるべきものが抜けてるなあと、
感じることもあるんですよ。

- 松沢 キーワードは、「ヒューリスティック」、つまり「発見の助け」みたいなことですね。
- 10個以内のもの、5つ6つになると、すーっとこう世界が見えてきたように、渾沌が渾沌でなくなるような形ですんなり理解される。そのとき、こういうことはないですか？ここが、ごそっと抜けている、ここに本来、カードの束はあるべきだという空白のところが見えてくるとか。
- 川喜田 あるんです。実際ね、数束の配置でそういうのやるとね、どっかにあるべきものが抜けてるなあと、感じることもあるんですよ。

そのとき僕は、「渾沌は乗り越えられる、自分をデータに押しつけることではない、データに従うのだ」とひらめいた

- **松沢** 当然、時間的な制約もあって、こうやって配置してみると、こういうところが抜けてたよなと。やっぱり二次、三次の調査をこの点についてやらなきゃいけないということが当然あるでしょうね。
- **川喜田** 当然出てくるんです。ファンタスティックにやっても出るかもしらんが、このやり方は根拠のあるファンタスティックです。そのとき僕は、「渾沌は乗り越えられる、自分をデータに押しつけることではない、データに従うのだ」とひらめいたんですな。トップダウン型のまとめ方しちやいかんのよ。ボトムアップ的まとめ方をしなければならぬ。

8 . シンボルマークづくり

2 伝統イノベーション産業

C3 そもそもイノベーションの結晶である伝統技術にハイテク技術を活かすことで、新しい伝統イノベーション産業を流通させる。

1 現状の文化と精神

C1 本来環境にやさしい伝統文化は、緩急や時代の変化によって、容易に得られる材料が減り、より環境を悪くする文化が人々の心に根づいている。

5 伝統文化マネジメント

C2 市場のニーズを読み取り、人々の心を振るわせるような伝統文化マネジメントが必要である。

3 形式知からの伝統文化の再興

B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する。

4 蘇らせたい文化と精神

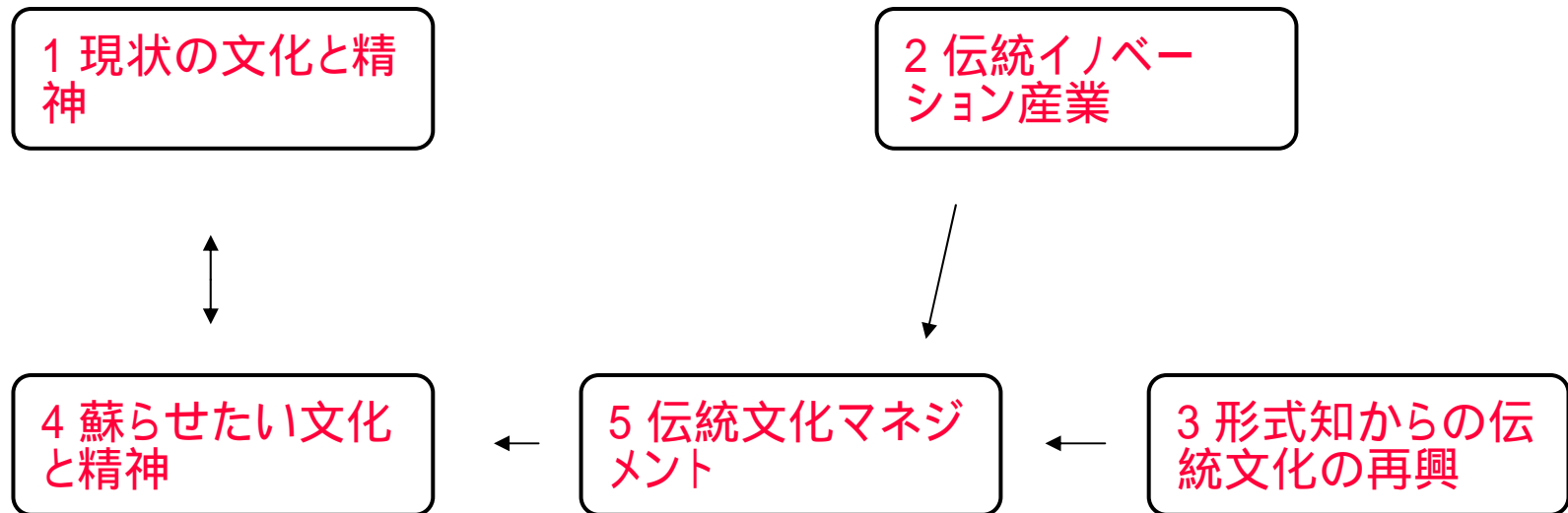
B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる。

シンボルマークとは

- シンボルマークは、主な島についてのみ入れるのがふつうである。
- ある島が全体として訴える内容を理解する場合、それを論理的に的確に理解するには、すでに表札が書きこまれているので、それを読んで理解すれば足りるのである。表札はこのように的確な理解にはよい。しかしその代わり、それは往々にして、人間の理知を通路とするため、回りくどい。そこで、この島の訴える内容を、視覚的に、そして感性や直観的理解に訴えるようなシンボル化されたものをその島の内か傍に書きこみ、瞬時に訴える方法を併用した方が、いっそう内容理解に役立つのである。
- シンボルマークには、動詞・形容詞・名詞といったことばを用いることが多い。時には、句 (phrase)、節 (clause) あるいは短文を用いることがある。しかしいずれにしても、極めて短くなければならない。長くなれば、瞬時に、凝集的に意味を感じさせるシンボリック効果が減殺される。
- しかしシンボルマークは、ことばでなく絵や記号のこともある。さらに、島どりの形自体を絵にして、シンボリックに意味を感じさせることもある。島自体を絵にする場合には、時として図解全体の内容まで、一幅の絵で表現する場合まである。
- シンボルマークの意味するものやその効用はすこぶる重要である。それについては、後に改めて説きたい。シンボルマークは重要であるだけに、その島が全体として情念的に訴えかける意味内容を、ピッタリ、ズバリと表現したものでないと困る。したがって、時間や作業量の上では楽であるが、総身の知恵を絞った工夫が必要である。
- シンボルマークが適切に入ると、図解全体の意味が、その作製者にも、彼の説明の視聴者にも、一段とよくこなれて早く判る。だから、場合によっては、島どりの完了直後に、シンボルマークを描き、その後で関係線を入れた方がよい場合もある。むしろ多くの場合、〔島どり 関係線 シンボルマーク〕よりも、〔島どり シンボルマーク 関係線〕の方が、自然な場合が多い。

9 . 図解化

シンボルマークで空間配置。



覚えのために、別用紙に貼り付けておく。

ラベルの束をシンボルマークと同じ位置に配置。

C1 本来環境にやさしい伝統文化は、緩急や時代の変化によって、容易に得られる材料が減り、より環境を悪くする文化が人々の心に根づいている。

C3 そもそもイノベーションの結晶である伝統技術にハイテク技術を活かすことで、新しい伝統イノベーション産業を流通させる。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と地域の活性化、後継者育成に取り入れる

C2 市場のニーズを読み取り、人々の心を振るわせるような伝統文化マネジメントが必要である

B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に掘り起こし、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興する

レベルの束の厚みから島の広がりを実験して配置。

C3 そもそもイノベーションの基盤である伝統技術にハイテク技術を活かすことで、新しい伝統イノベーション産業を流通させる。

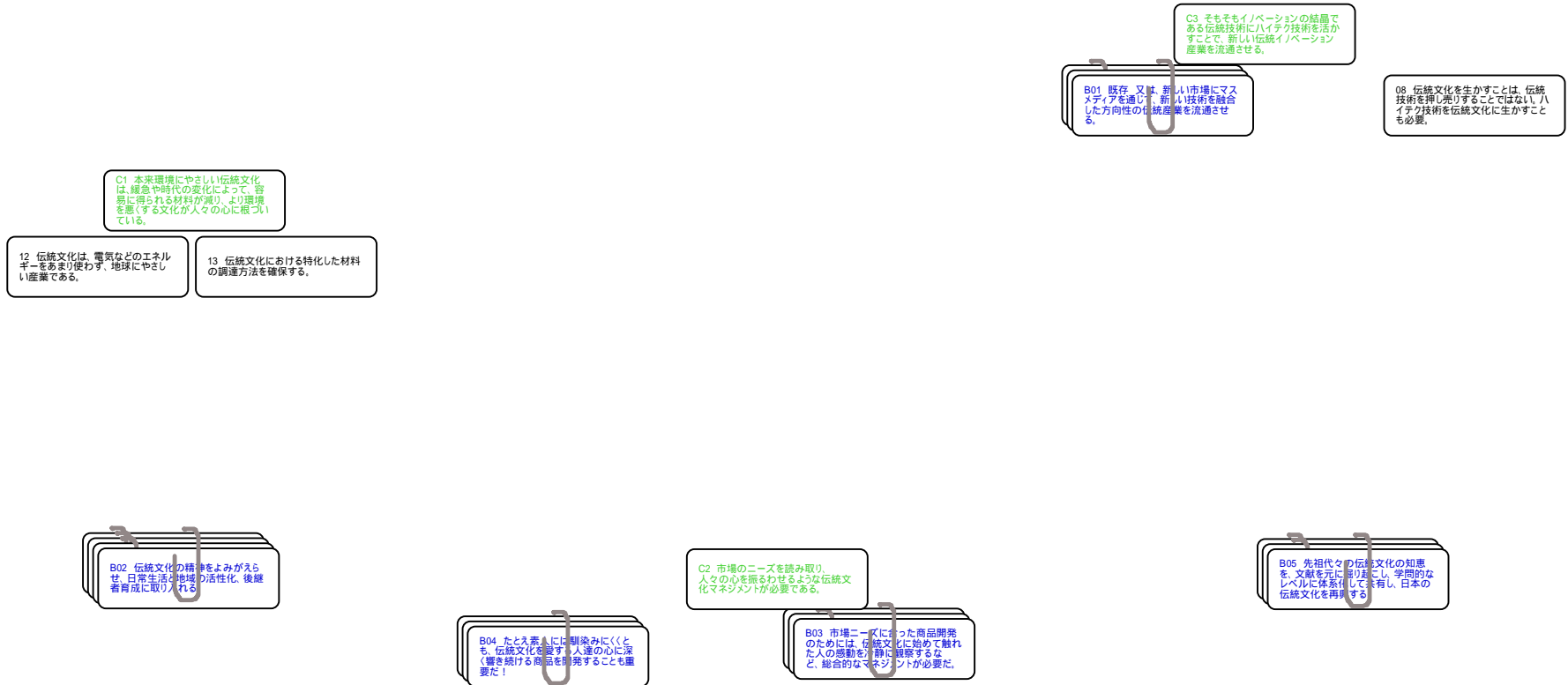
C1 本来環境にやさしい伝統文化は、緩急や時代の変化によって、急激に得られる材料が減り、その環境を悪くする文化が人々の心に根づいている。

B02 伝統文化の精神をよみがえらせ、日常生活と密着した活性化、後継者育成に取り入れる

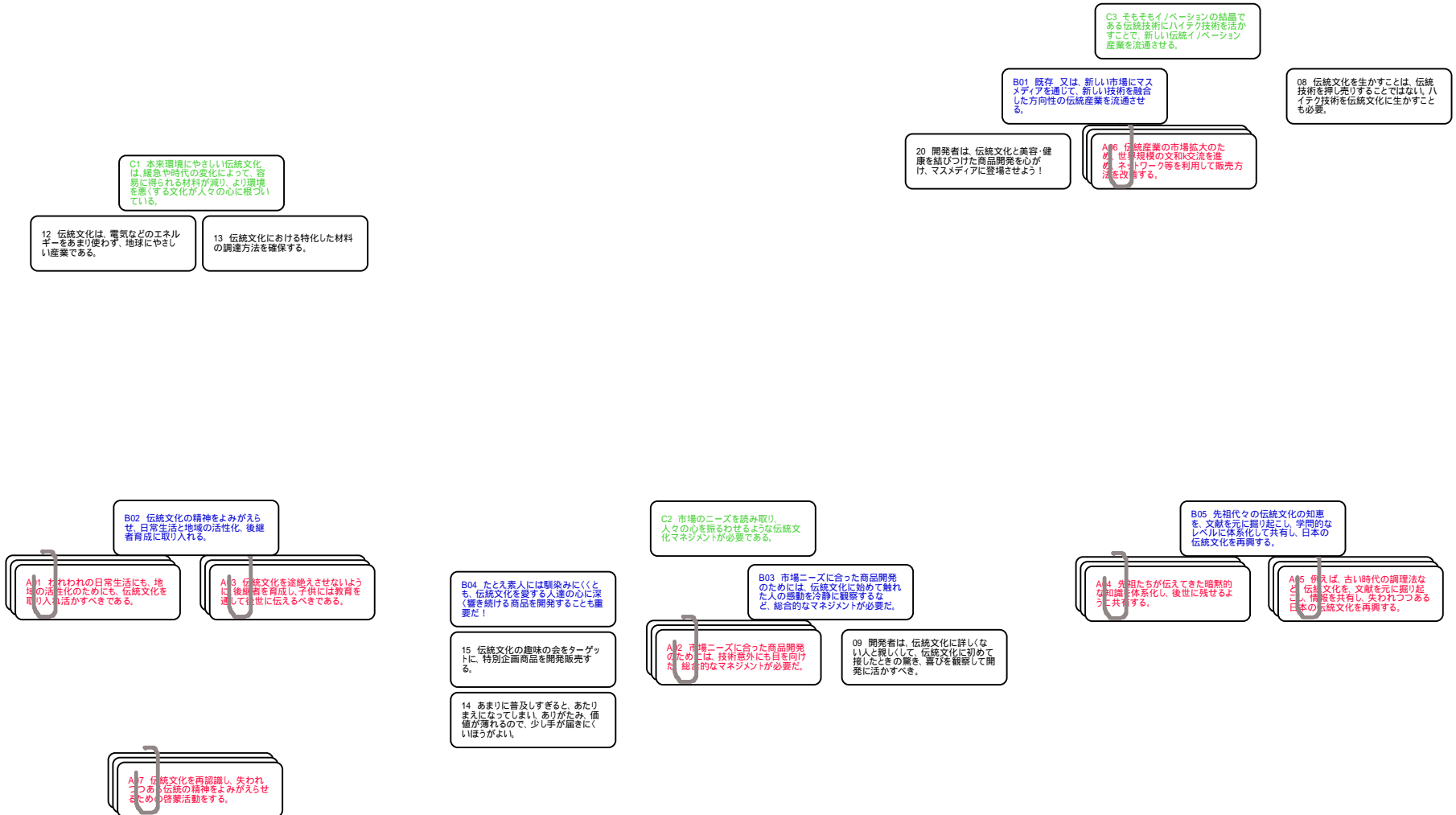
C2 市場のニーズを読み取り、人々の心を掴む必要がある。伝統文化マネジメントが必要である

B05 先祖代々の伝統文化の知恵を、文献を元に整理し、学問的なレベルに体系化して共有し、日本の伝統文化を再興させる

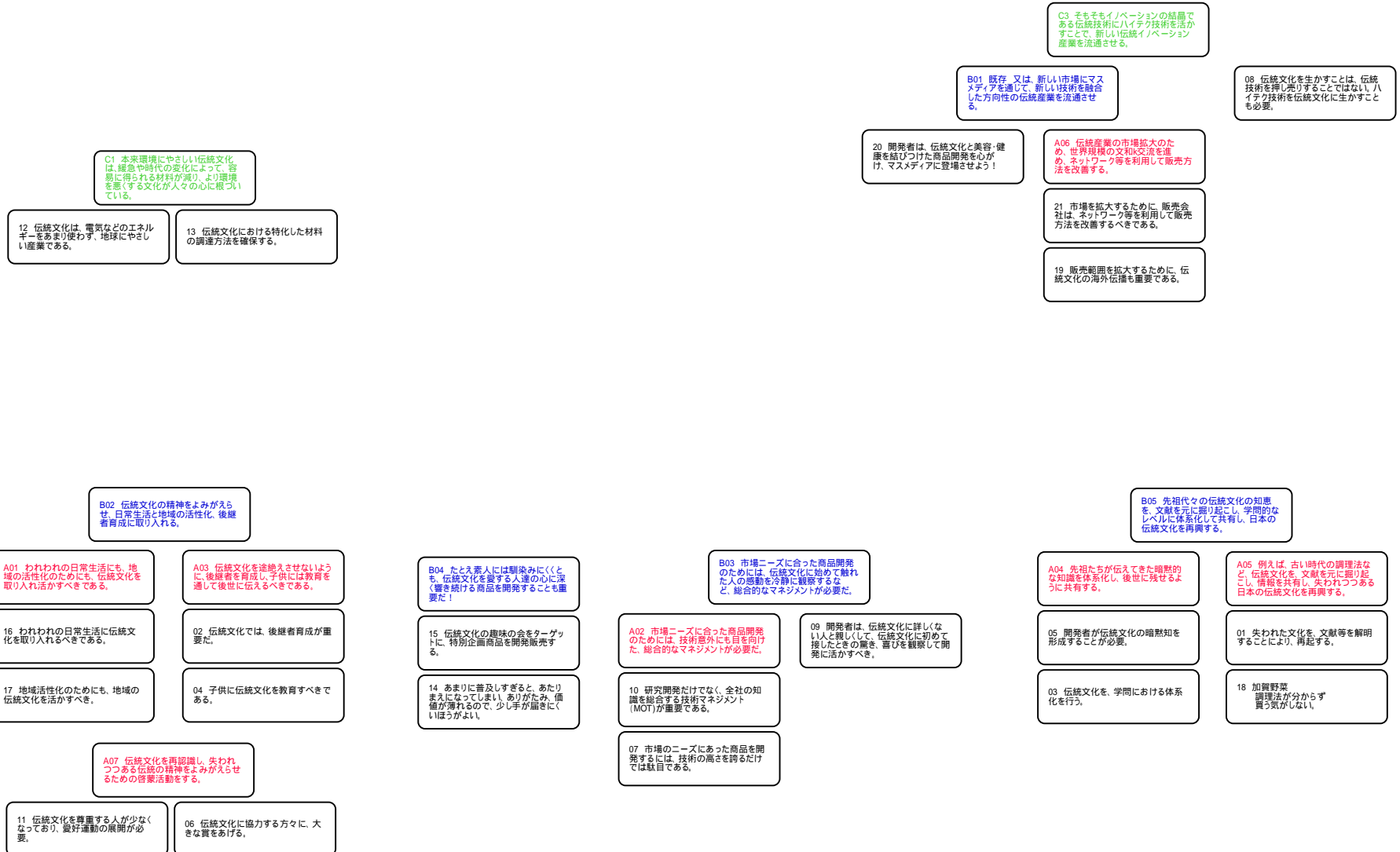
最上段(緑)の表札の束を、クリップをはずして展開。



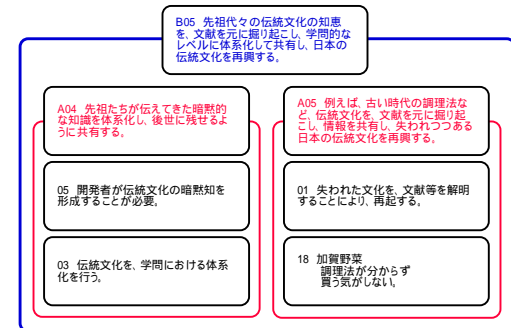
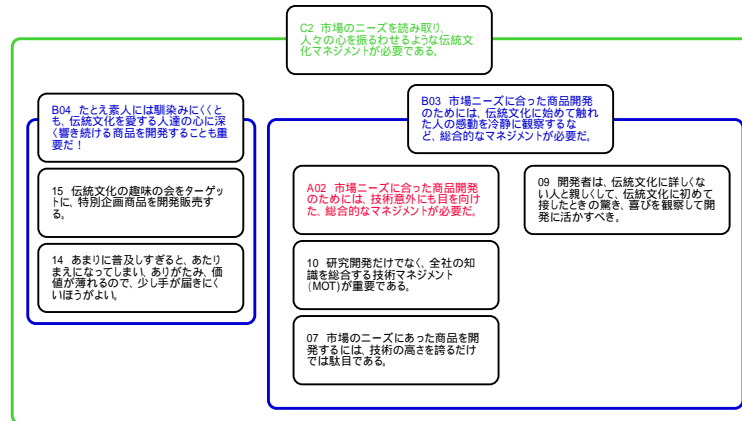
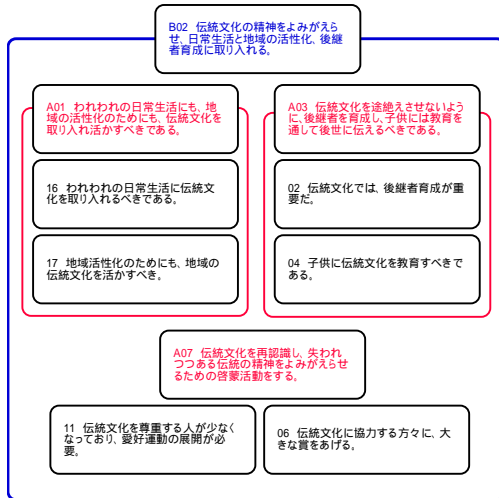
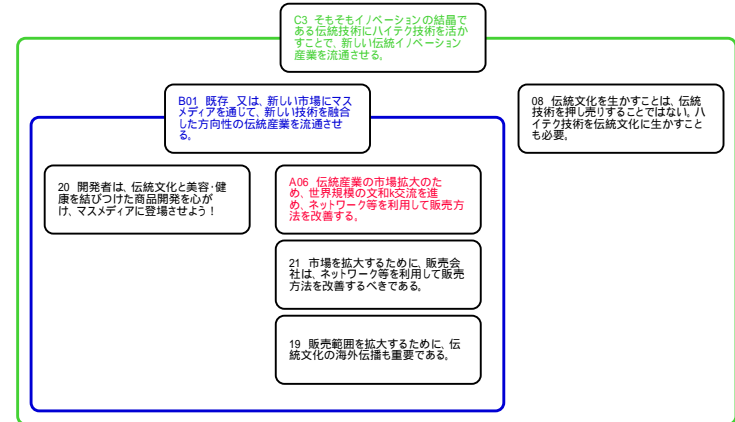
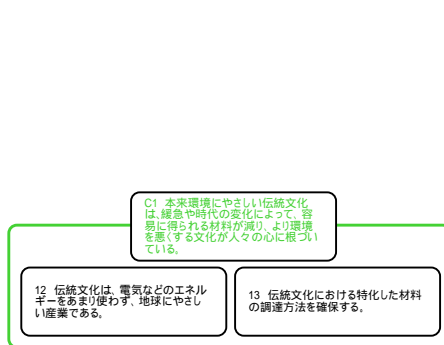
次段(青)の表札の束を、クリップをはずして展開。



さらに次段(赤)の表札の束を、クリップをはずして展開。



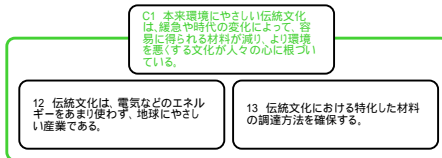
輪どりをする。



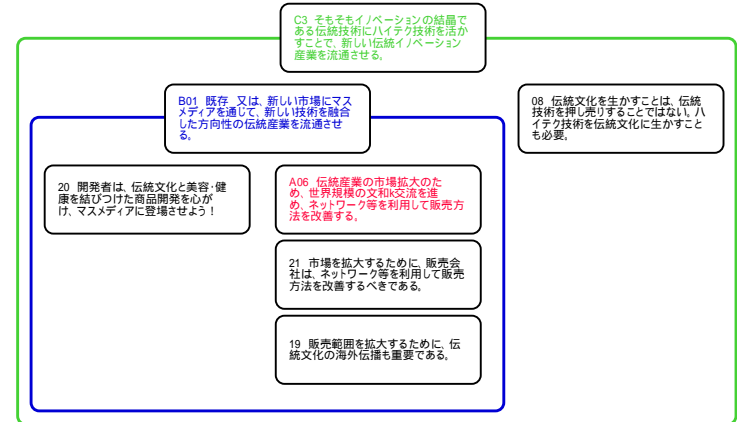
表札は、手書きが原則。ラベルのままだと見難い。
 段階が上がるにしたがって、表札は文字を大きくし、輪どりの線も太くしていくと見やすい図解となる。

シンボルマーク記入。

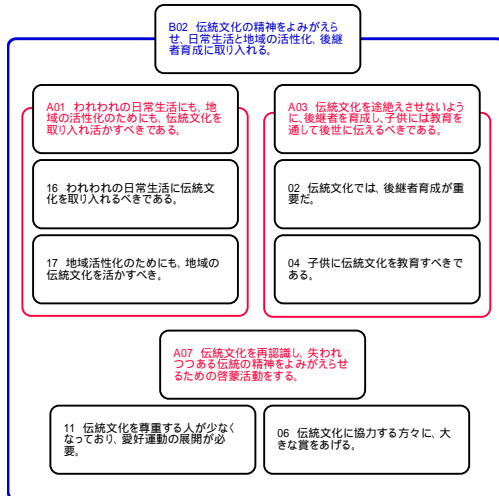
現状の文化と精神



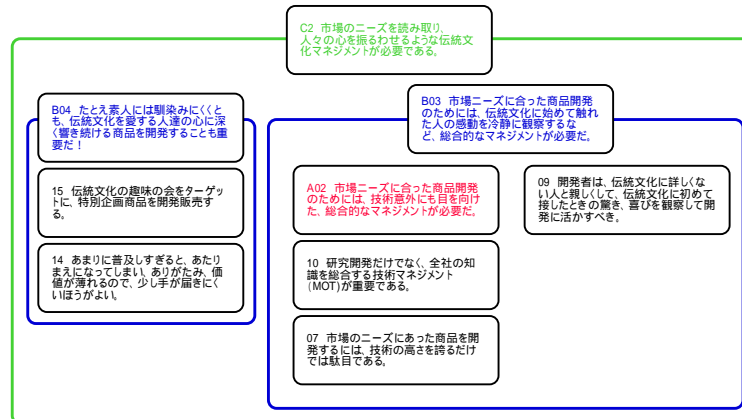
伝統イノベーション産業



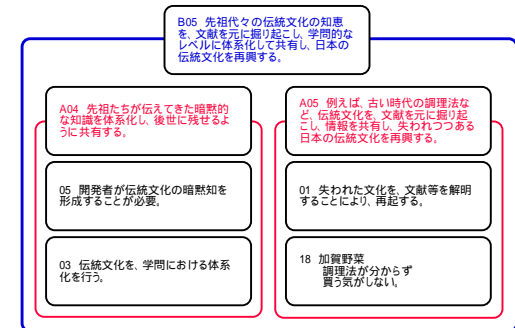
蘇らせたい文化と精神



伝統文化マネジメント



形式知からの伝統文化の再興

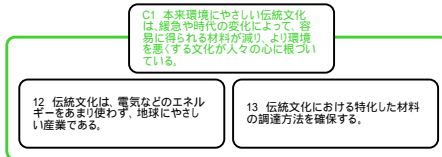


4注記とタイトルを記入。

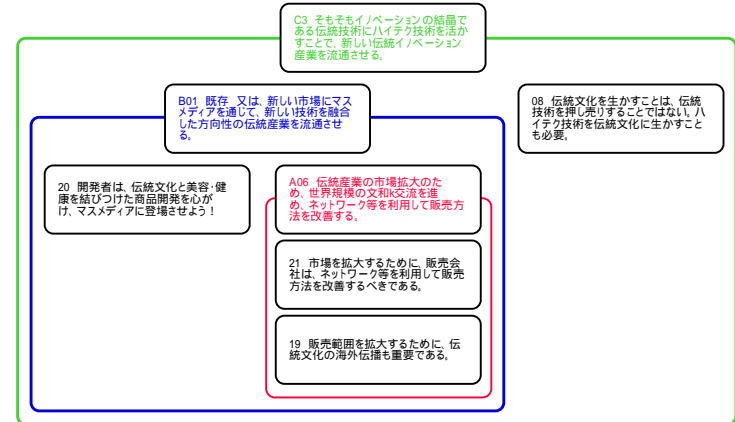
伝統文化を生かした商品開発をするには

1. 20040828 Sat.
2. JAIST知識情報センターM-2
3. 千丸 山田(雅), 山田(清), ネオバネ, 山本 龍本, 安野 坂原, 川上, 井上, 嶋田, 高田, 三浦, 和田, 田口
4. 井上善嗣
5. インストラクター: 三村修
アシスタント: 田口剛史
6. 電子化: 三村修

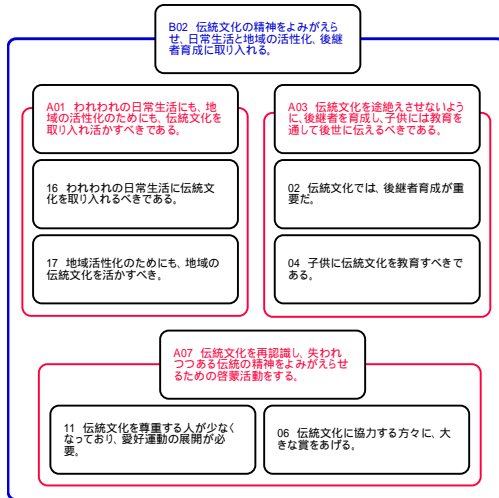
現状の文化と精神



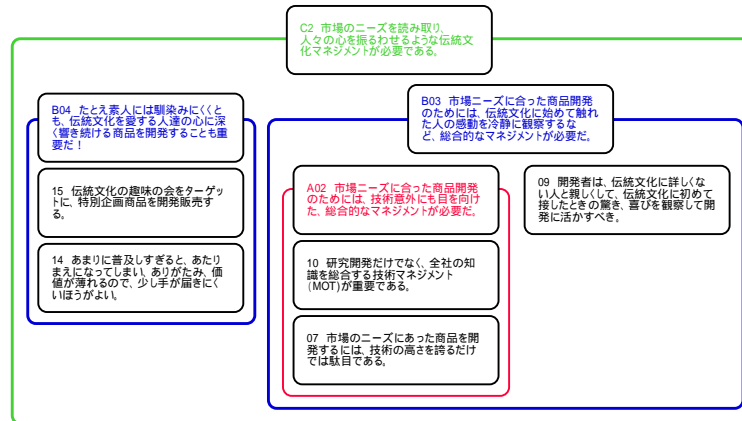
伝統イノベーション産業



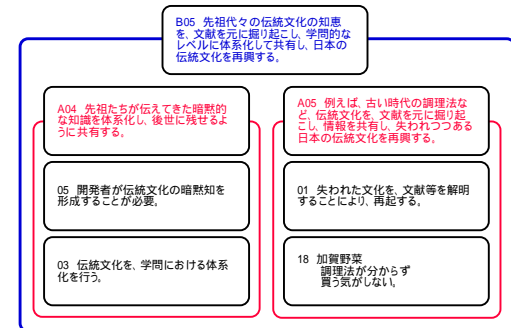
蘇らせたい文化と精神



伝統文化マネジメント



形式知からの伝統文化の再興

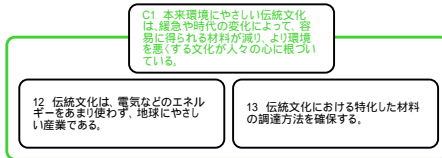


関係線を記入。全体の意味がよくわかってからのほうがよい。

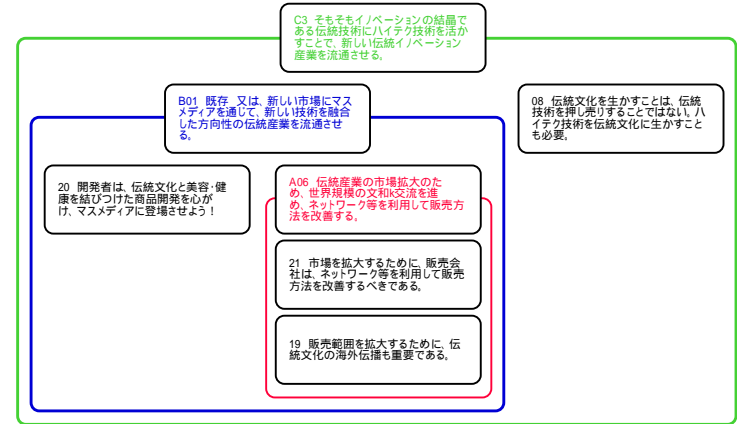
伝統文化を生かした商品開発をするには

1. 20040828 Sat.
2. JAIST知識ワークショップM-2
3. 千丸 山田(雅), 山田(清), ネオバネ, 山本 龍本, 安野 坂麻, 川上 井上, 嶋田 高田, 三浦 和田, 田口
4. 井上善嗣
5. インストラクター-三村修
アシスタント: 田口剛史
6. 電子化: 三村修

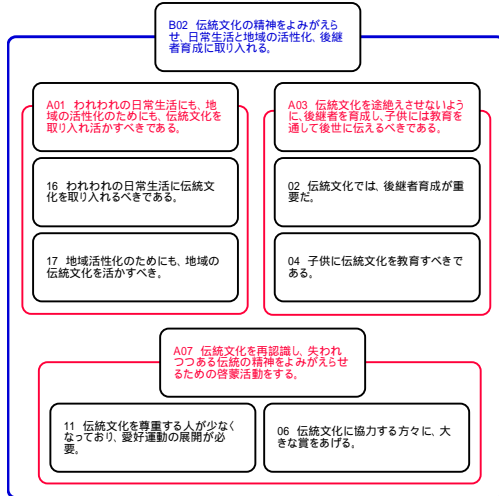
現状の文化と精神



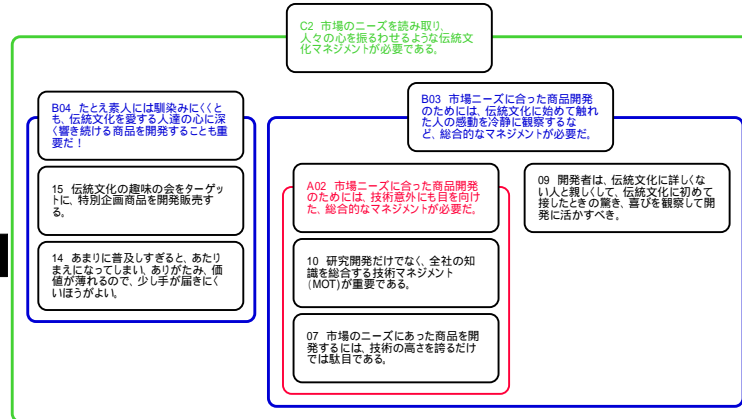
伝統イノベーション産業



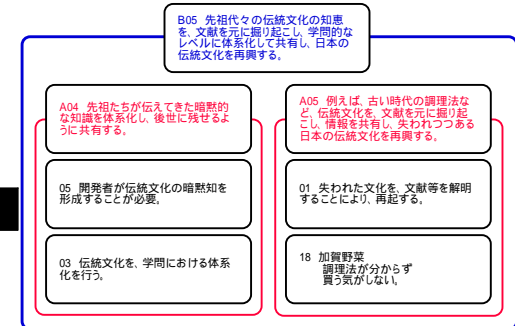
蘇らせたい文化と精神



伝統文化マネジメント



形式知からの伝統文化の再興



4 注記について

- 1 . 20040828 Sat.
- 2 . JAIST知識コラボレーションルーム 2
- 3 . キム、山田(雅)、山田(潔)、ネオパネ、
山本、藤本、安野、萩原、川上、井上、
嶋田、高田、三浦、和田、田口
- 4 . 井上善嗣
- 5 . インストラクター: 三村修
アシスタント: 田口剛史
- 6 . 電子化: 三村修

4注記がついてないデータは信用したらいかんよ。 自分のつくったデータでも疑え。

- 川喜田 そのときに一行見出しとか一行サマリーとかいうてたんです。さらにそのカードの下に、時と所と、出所と作成者の名前を書くようにしたんです。
- それから出所には、この情報はどこから出たのか。自分の目を見たのか、だれそれさんが言うてくれたのか、なんとかいう本のなんページにかいてあるとか、出所をはっきりかけ。最後にこのデータは誰がつくったんや、自分の名前、人に頼んだらその人の名前をかいておく。時、所、出所、作成者。これを4注記という。
- 4注記がついてないデータは信用したらいかんよ。自分のつくったデータでも疑え。なぜなら、書いた当時はそれ全部覚えとる。書く必要ないと思って、めんどくさいから書かないの。それが一年、二年とたつうちに怪しくなってくるんです。そのうち怪しくなるだけならいいが、10年くらいたったら違うふうに思いこむ。

他人のつくったデータでも4注記があったら、 そのの方が間違いない。

- 川喜田 そうなったら、もう、弊害だ。
- 松沢 だから、定性的なデータの信頼性が疑われちゃうわけですよね。
- 川喜田 だから、あとはね、もっと詳しく身元をはっきりしたいのなら、ナンバー5以後ね、好きなだけ数つくって注記書いたらいいんです。少なくとも、時、所、出所、作成者は欠かすなかれということです。これを忠実に守る。そうすると、データはいつまでたっても自分にとってね、正直に語ってくれます。それから、友達とか他の連中と一緒にやった仕事だったら、データを共有できるんです。信用おけますよ。時がたったらね、自分でつくったデータでも4注記がないデータはあやしいです。他人のつくったデータでも4注記があったら、そのの方が間違いない。

狭義のKJ法 1ラウンド ビジュアル・シミュレーション

「KJ法における作法の研究」付録B

『死して何を残すのか』

2003年8月・JAISTインターンシップ^o 学生対象
KJ法研修におけるグループ^o KJ法作品

死して何を残すのか？

練習教材 B

01 自分が残したものを生きて
いる人に活用して欲しい。02 「残したい！」と思うのはな
ぜ？03 死者の残すものは、生者に
生きる力を与えることがある。04 人類に大きな影響を与える
モノを残した人は偉大である。05 何かを残したいという欲求
は本能である。06 昔の人が何も残していなけ
れば、今の自分は存在しない。07 「残すこと」と「残ること」は
同じではない。08 魅力的な人物は語り継が
れる。09 自分の一番大切な人に何
かを残したいと思うのは人情
だ。10 一度しかない命は得難く尊
いものである。11 何が残るのは、その時の
状況や対象物(残る物)の性質
による。12 残ったとしても時代の流れ
により形骸化してしまう可能
性がある。13 人の命も自分の命と同じ重
さを持っていることを知らさな
ければならない。14 無への恐れから、何かを残
したいという欲求が生まれる。15 一生は短いので、出切るだ
け多くの人と出たい。16 人間の営みは、放っておけ
ばそれなりどころへ向かって
いく。なるようになるのでは？17 意志をもって何かを残すと
きは、できる限り環境を整えて
やらなければならない。18 残すものが将来・未来の負
担にならないようにする観点を
確立したい。19 住みやすい社会を残した
い。20 諸行無常のこの世の中で
残せるものは何も無い。

元ラベル

21 何も残さないことをキレイだ
と思う感覚は日本的である(ワ
ビサビ)。22 死体は灰にして海に流して
欲しい。A1 偉業を成し遂げた英雄は
伝承され、後世の人々を魅了
する。A2 消えることへの恐れが残し
たいという本能を呼び起こす。

1 段目表札

A3 命とは、得難く尊く同じ重さ
を持つと体で知れ。A4 次の世代へ理想の社会を
残すためには、残すか否かの
基準が必要である。A5 死んだ人の魂が持つ情念
は、生きている人にパワーを与
えてくれる。A6 はかない世に何も残さず去
ることも日本の美意識である。

2 段目表札

B1 人々を魅了し、パワーを与
える偉業には、死者の強い情
念がこもっている。B2 文化的、社会的産物とはり
まく世界のありようによって、自
然にその姿を変える。B3 残すか否かの基準を設
け、環境を整えることが次世代
の理想社会のためになる。B4 死を笑顔で迎えるため
に、大切な人に何かを残す行
為は人間的である。

3 段目表札

C1 多くの人と出会うことで命こ
そ得難く尊く同じ重さを！持つ
ものと知れ！C2 理想となる基準を持って環
境を整備せねば、あらゆる事
物は時間の洗礼に耐えられ
ず、正道が見失われる。C3 立つ鳥跡を「残さず」の精
神は、日本の美意識である。

シンボルマーク

S1 残された私

S2 世界は流れ行く

S3 死して残さない
美しさ

4 注記

S4 尊い命の出会い

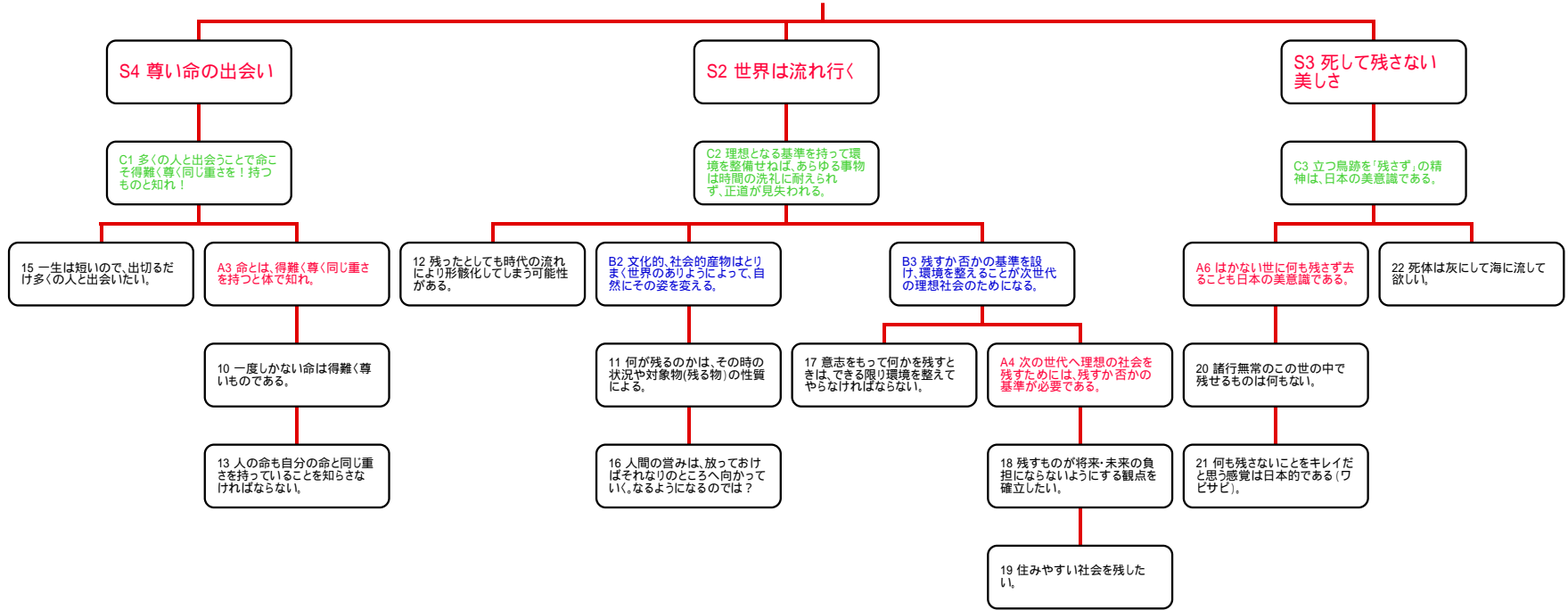
S5 死して残す笑顔

S6 偉業 の 情念

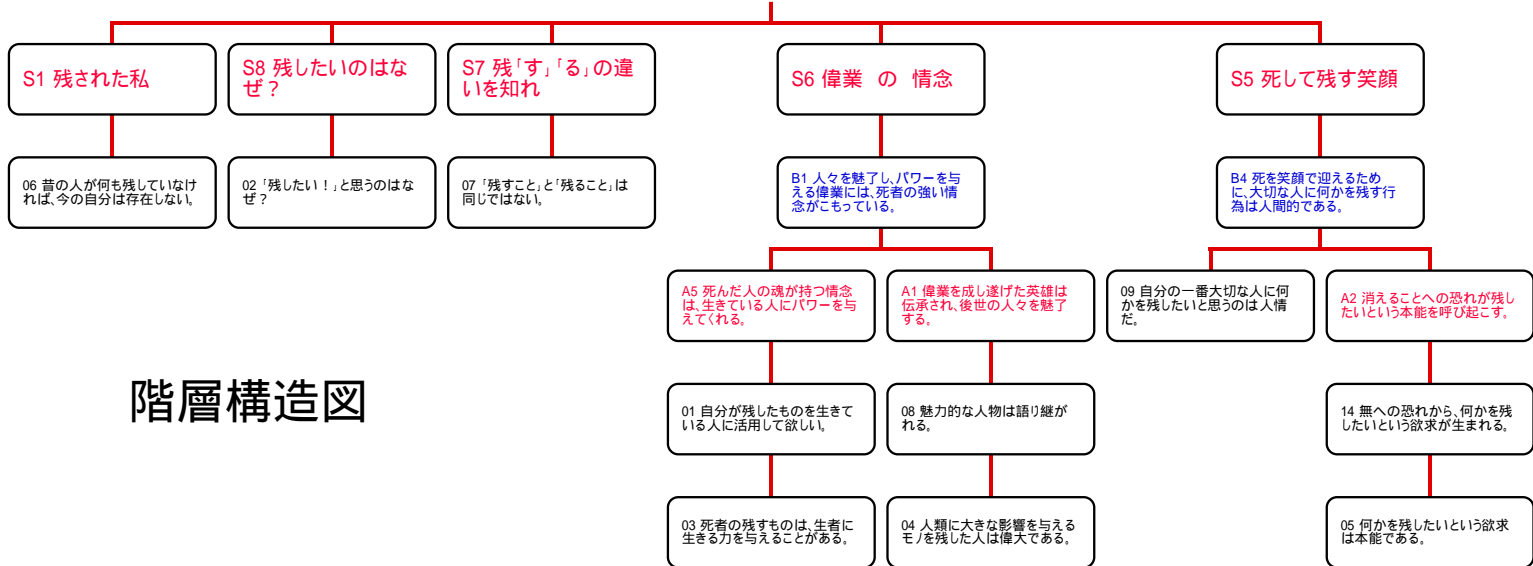
S7 残「す」「る」の違
いを知れS8 残したいのはな
ぜ？

- 20030808 Fri.
- JAIST 知識棟5F
コラボレーションルーム2
- 笠瀬秀一郎、柿谷宗明
津田顕一郎、藤原祐介
鱸裕子、寺朱美、羽山徹彩
- ラベル集め及び表札作り：同上
シンボルマーク：柿谷宗明
図解化：柿谷宗明
- JAISTインターンシップ研修
- イラストレーター：三村修
電子化：三村修

死して何を残すのか？



死して何を残すのか？



階層構造図

1. 20030808 Fri
2. JAIST 知能棟5F
コラボレーションルーム 2
3. 空瀬秀一郎、榎谷宗明
津田頭一郎、藤原祐介
鱈裕子、寺朱美
4. ラベル集め及び表札作り: 同上
シンボルマーク: 榎谷宗明
図解化: 榎谷宗明
5. JAISTインターナショナル研修
6. イニシアチブ: 三村修
電子化: 三村修

1. 並べる

取材時の論理的脈絡などはできるだけ無視し、カルタとり式にデタラメな順に拡げる。

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

2. 一段目：ラベルを読む 集める(まる)

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

あっ、非常によく似たことを訴えている友達が見つかったよ！

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならない。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

重ねる位置にあるラベルと、居場所を交換する。

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならない。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

重ねる位置にあるラベルと、居場所を交換する。

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

集まったラベルは、枠内で、字が見える程度に重ねる。

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

より近い集まりがあるかもしれないから……

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

集まったラベルセットを外に出さずに、枠内で扱う。

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

陥りやすいラベル集めに要注意・・・

分類型 ストーリー型 読みすぎ型 対立思考型 表面的類似型

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思ふ感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思ふのはなぜ？

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思ふのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

08 魅力的な人物は語り継がれる。

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

08 魅力的な人物は語り継がれる。

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

08 魅力的な人物は語り継がれる。

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

21 何も残さないことをキレイだと思ふ感覚は日本的である(ワビサビ)。

02 「残したい！」と思ふのはなぜ？

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思ふのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

08 魅力的な人物は語り継がれる。

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

08 魅力的な人物は語り継がれる。

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

19 住みやすい社会を残したい。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

19 住みやすい社会を残したい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

08 魅力的な人物は語り継がれる。

うん！これでよし！！！！

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

19 住みやすい社会を残したい。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

ラベル集め(集まり)の限界は、腑に落ちるときが来る。 無理に集めようとしないことが肝要。

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

19 住みやすい社会を残したい。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

3. 表札づくり：一段目の表札をつける準備

19 住みやすい社会を残したい。

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならない。

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

表札用の白ラベルを重ねて、 次の作業に向かう心の姿勢転換をする。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

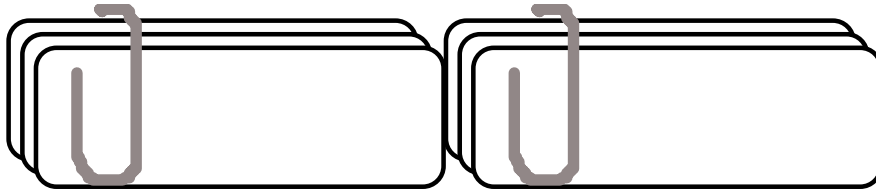
22 死体は灰にして海に流して欲しい。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

表札をつくるぞという、こころの姿勢転換が極めて重要・・・KJ法のコツ

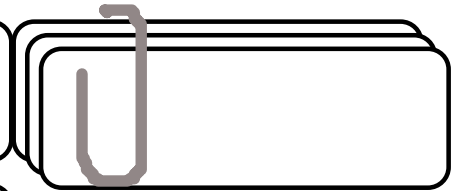
クリップで留める。 前のラベル集めにこだわらない。



11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

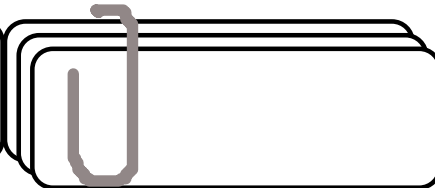


09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

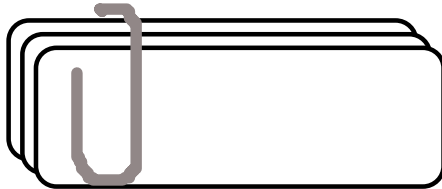
17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

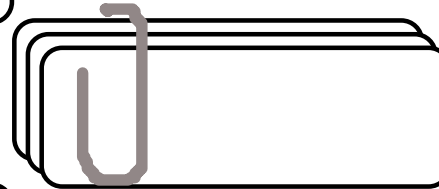


02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。



16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？



表札づくりが終わった。

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A5 死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

A1 偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

赤表札がめでたく完成したら、赤表札の下位のラベルに 赤表札に含まれることを示す赤の目印をつける。

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

19 住みやすい社会を残したい。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

20 諸行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らさなければならぬ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

そうすると、隙間ができるわけですね、だいぶ。 一段目がこうしてまとまった。

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と会いたい。

A5 死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

A1 偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

隙間があるので、ラベルを移動してつめる。

4. 二段目：ラベルを読む 集める(まる)

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A5 死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ること日本的美意識である。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A1 偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する。

クリップ(輪ゴム)で留めたラベルセットは、以後は一枚として扱う。

2回目やったらいいわけですね。 そしたらまた束が重なってくる。

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A5 死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ること日本的美意識である。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A1 偉業を成し遂げた英雄は継承され、後世の人々を魅了する。

一段目とは全く違った全体感。

下位ラベルを見る誘惑に負けないように。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A5 死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

A1 偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A5 死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

A1 偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

A5 死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

A1 偉業を成し遂げた英雄は継承され、後世の人々を魅了する。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

A5 死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

A1 偉業を成し遂げた英雄は継承され、後世の人々を魅了する。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

A5 死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

A1 偉業を成し遂げた英雄は継承され、後世の人々を魅了する。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

A5 死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

A1 偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

A5 死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

A1 偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する。

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

うん！これでよし！！！！

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

11 何が残るのかは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

A5 死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

A1 偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する。

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

5 . 表札づくり : 二段目の表札をつける準備

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A1 偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する。

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

今度はクリップでなく確か輪ゴム使ったですわ。 3回目も輪ゴム。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

束が厚ければ、輪ゴムを使用する。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

B2 文化的、社会的産物はとりまく世界のあり方によって、自然にその姿を変える。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

B1 人々を残し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

B3 残すか否かの基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

青表札がめでたく完成したら、 青表札に含まれることを示す青 の目印をつける。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく。なるようになるのでは？

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

A5 死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である

A1 偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する。

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

二段目がこうしてまとまった。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

B2 文化的、社会的産物はとりまく世界のあり方によって、自然にその姿を変える

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている

B3 残すか否かの基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

隙間があるので、ラベルを移動してつめる。

6. 三段目：ラベルを読む 集める(まる)

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

B2 文化的、社会的産物はとりまく世界のあり方によって、自然にその姿を変える。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

B3 残すか否かの基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

二段目とは全く違った全体感。

下位ラベルを見る誘惑に負けないように。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

B2 文化的、社会的産物はとりまく世界のあり方によって、自然にその姿を変える。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

B3 残すか否かの基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためのことになる。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

B2 文化的、社会的産物はとりまく世界のあり方によって、自然にその姿を変える。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

B3 残すか否かの基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

B2 文化的、社会的産物はとりまく世界のあり方によって、自然にその姿を変える。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

B3 残すか否かの基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

B2 文化的、社会的産物はとりまく世界のあり方によって、自然にその姿を変える。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

B3 残すか否かの基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

B2 文化的、社会的産物はとりまく世界のあり方によって、自然にその姿を変える。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

B3 残すか否かの基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

B2 文化的、社会的産物はとりまく世界のあり方によって、自然にその姿を変える。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

B3 残すか否かの基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

B2 文化的、社会的産物はとりまく世界のあり方によって、自然にその姿を変える。

B3 残すか否かの基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

うん！これでよし！！！！

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

B2 文化的、社会的産物はとりまく世界のあり方によって、自然にその姿を変える。

B3 残すか否かの基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

7. 表札づくり：三段目の札表をつける準備

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

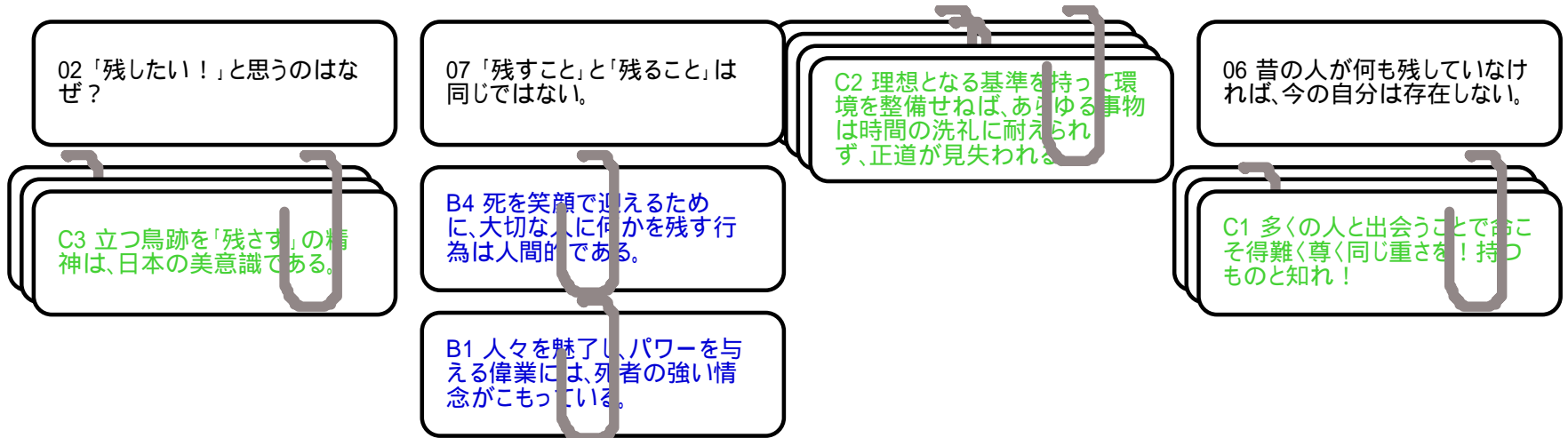
02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。



02 「残したい！」と思うのはなぜ？

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

B2 文化的、社会的産物はとりまく世界のあり方によって、自然にその姿を変える。

B3 残すか否かの基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

三段目がこうしてまとまった。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

C2 理想となる基準を持って環境を整備せねば、あらゆる事物は時間の洗礼に耐えられず、正道が見失われる。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

C3 立つ鳥跡を「残さず」の精神は、日本の美意識である。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

C1 多くの人と出会うことで命こそ得難く尊く同じ重さを！持つものと知れ！

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

緑表札がめでたく完成したら、 緑表札に含まれることを示す緑 の目印をつける。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

C2 理想となる基準を持って環境を整備せねば、あらゆる事物は時間の洗礼に耐えられず、正道が見失われる。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

C3 立つ鳥跡を「残さず」の精神は、日本の美意識である。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

C1 多くの人と出会うことで命こそ得難く尊く同じ重さを！持つものと知れ！

どこまでいったらしまいになるのか？
数束になるまでやればいんです。いくら多くても10束以内。

渾沌をして語ってもらう。
そしたらちゃんとまとまるようになる。
これがKJ法の始まり。

8 . シンボルマークづくり

S8 残したいのはなぜ？

S7 残「す」「る」の違いを知れ

S2 世界は流れ行く

S1 残された私

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

C2 理想となる基準を持って環境を整備せねば、あらゆる事物は時間の洗礼に耐えられず、正道が見失われる。

06 昔の人が何も残していないければ、今の自分は存在しない。

S3 死して残さない
美しさ

S5 死して残す笑顔

S6 偉業 の 情念

S4 尊い命の出会い

C3 立つ鳥跡を「残さず」の精神は、日本の美意識である。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

C1 多くの人と出会うことで命こそ得難く尊く同じ重さを！持つものと知れ！

9. 図解化

シンボルマークで空間配置。

S8 残したいのはなぜ？

S3 死して残さない
美しさ

S4 尊い命の出会い

S5 死して残す笑顔

S2 世界は流れ行く

S1 残された私

S6 偉業 の 情念

S7 残「す」「る」の
違いを知れ

覚えのために、別用紙に貼り付けておく。

ラベルの束をシンボルマークと同じ位置に配置。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

C3 立つ鳥跡を「残さず」の精神は、日本の美意識である。

C1 多くの人と会うことで命こそ得難く尊く同じ重さを！持つものと知れ！

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

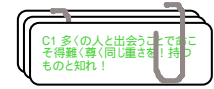
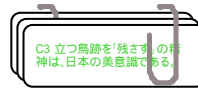
C2 理想となる基準を持って環境を整備せねば、あらゆる事物は時間の洗礼に耐えられず、正道が見失われる。

06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。

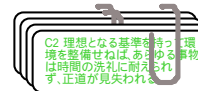
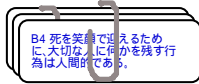
B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

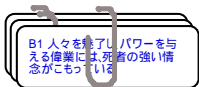
ラベルの束の厚みから島の広がり予想して配置。



02 「残したい！」と思うのはなぜ？

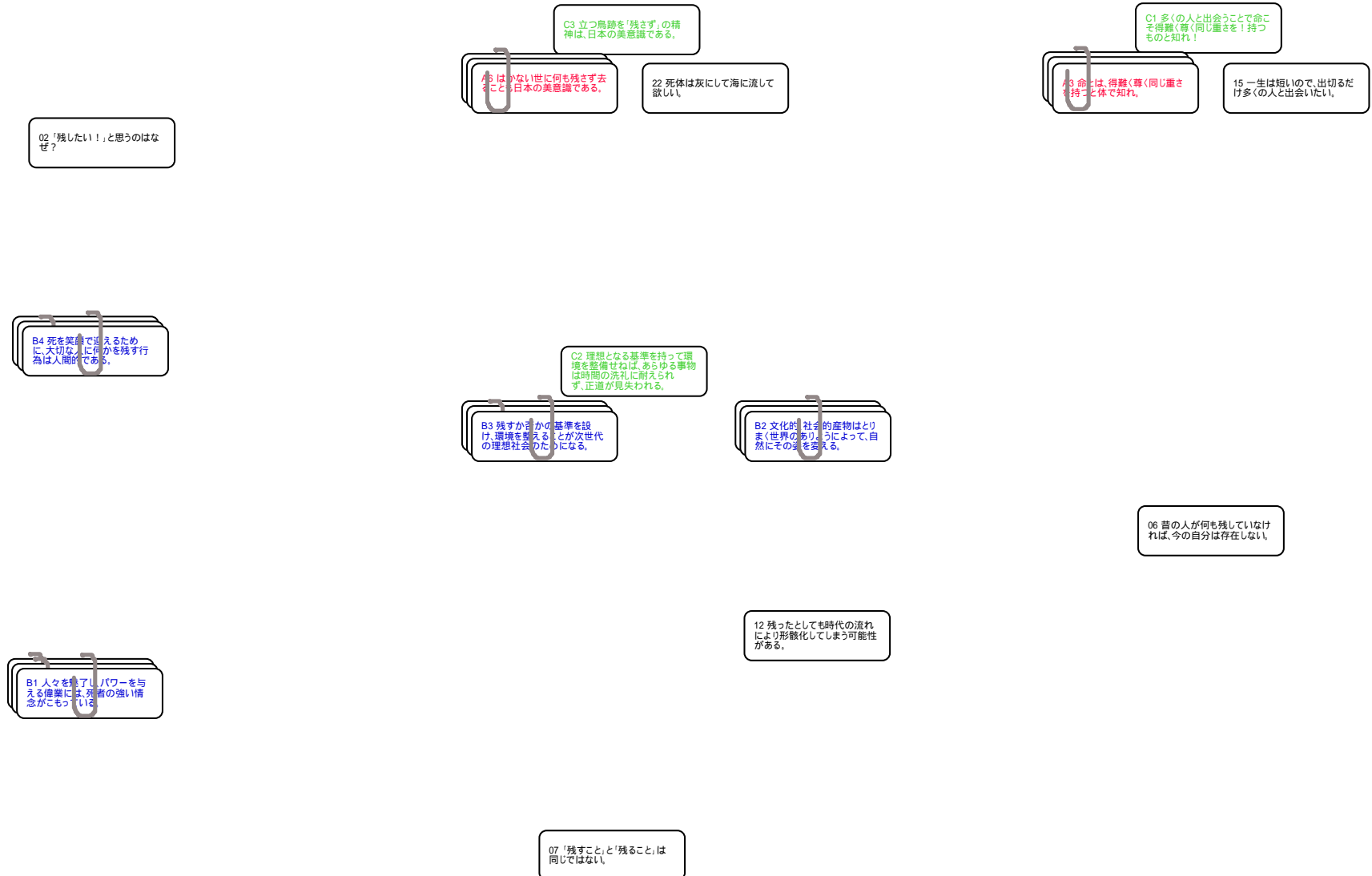


06 昔の人が何も残していなければ、今の自分は存在しない。



07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

最上段(緑)の表札の束を、クリップをはずして展開。



次段(青)の表札の束を、クリップをはずして展開。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？

05 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

C3 立つ屍跡を「残さず」の精神は、日本の美意識である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

03 命は、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

C1 多くの人と出会うことで命こそ得難く尊く同じ重さを！持つものと知れ！

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

02 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

C2 理想となる基準を持って環境を整備せねば、あらゆる事物は時間の洗礼に耐えられず、正道が見失われる。

B3 残すか否かの基準を設け、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

B2 文化的、社会的産物はとりまく世界のありようによって、自然にその姿を変える。

06 昔の人が何も残していないければ、今の自分は存在しない。

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

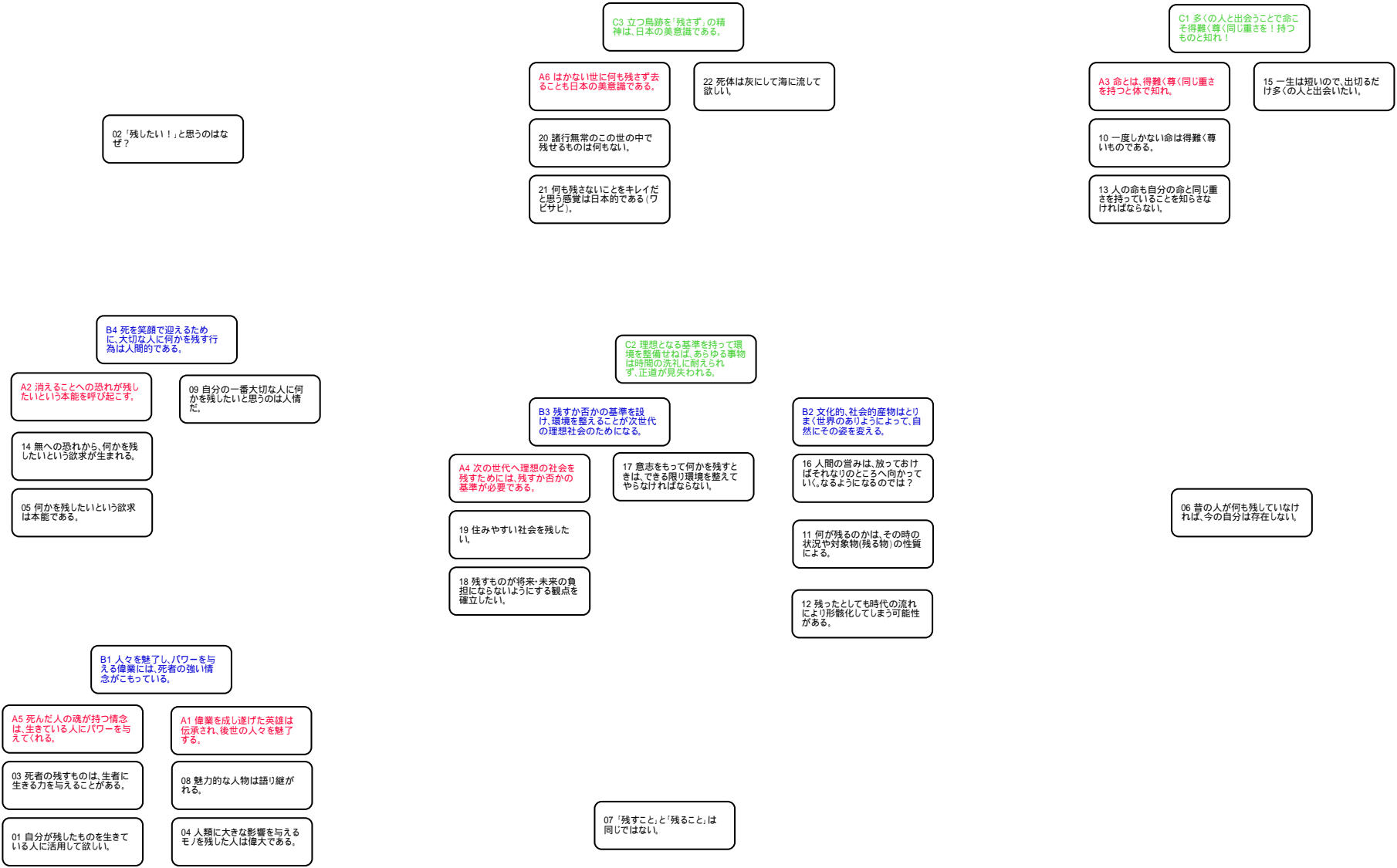
08 死んだ人の魂を持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

04 偉業を成し遂げた英雄は、継承され、後世の人々を魅了する。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

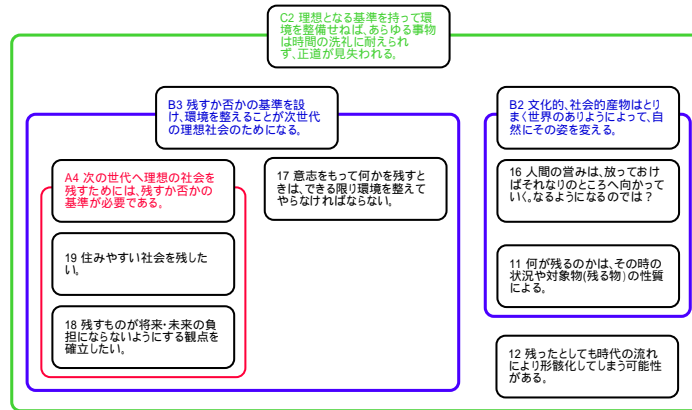
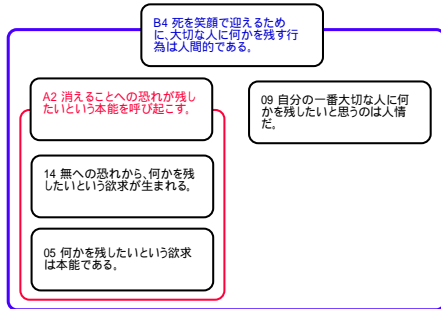
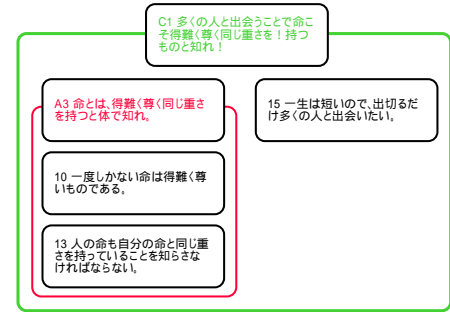
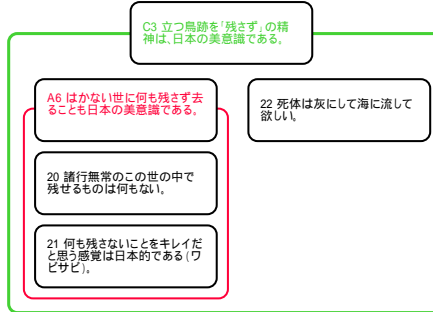
07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

さらに次段(赤)の表札の束を、クリップをはずして展開。

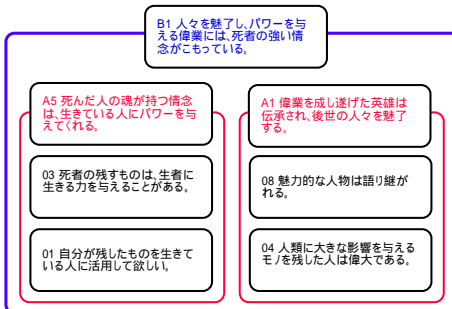


輪どり。

02 「残したい！」と思うのはなぜ？



06 昔の人が何も残していないければ、今の自分は存在しない。



07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

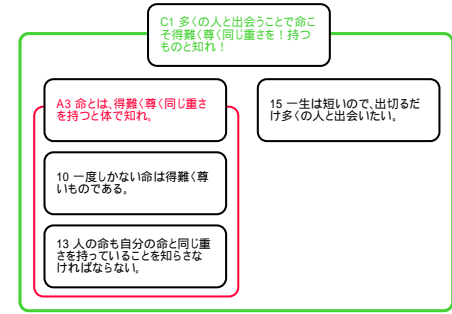
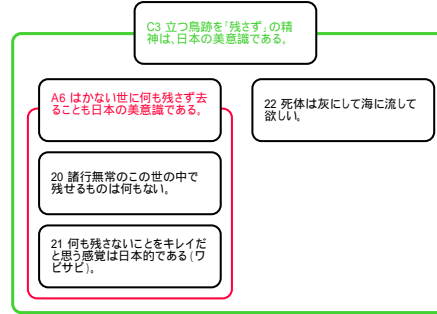
表札は、手書きが原則。ラベルのままだと見難い。

シンボルマーク記入。
尊い命の出会い

死して残さない美しさ

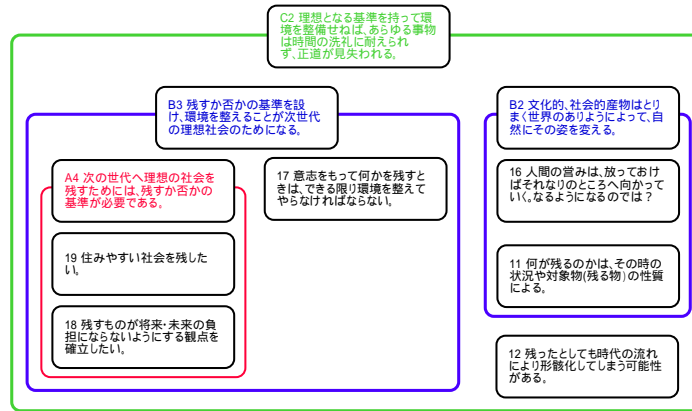
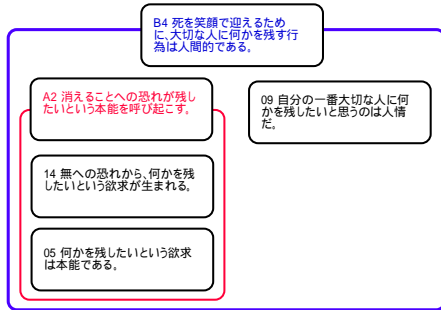
残したいのはなぜ？

02 「残したい！」と思うのはなぜ？



死して残す笑顔

世界は流れ行く

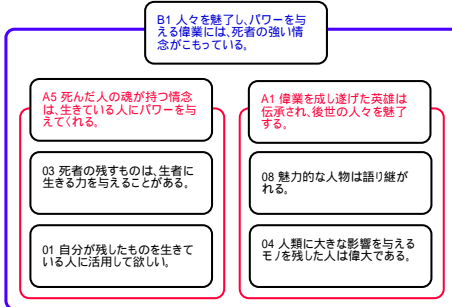


残された私

06 昔の人が何も残していないければ、今の自分は存在しない。

偉業の情念

残「す」「る」の違いを知れ



07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

4注記とタイトルを記入。

死して何を残すのか？

残したいのはなぜ？

Q2 「残したい！」と思うのはなぜ？

死して残す笑顔

B4 死を笑顔で迎えるために、大切な人に何かを残す行為は人間的である。

A2 消えることへの恐れが残したいという本能を呼び起こす。

09 自分の一番大切な人に何かを残したいと思うのは人情だ。

14 無への恐れから、何かを残したいという欲求が生まれる。

05 何かを残したいという欲求は本能である。

偉業の情念

B1 人々を魅了し、パワーを与える偉業には、死者の強い情念がこもっている。

A5 死んだ人の魂が持つ情念は、生きている人にパワーを与えてくれる。

A1 偉業を成し遂げた英雄は伝承され、後世の人々を魅了する。

03 死者の残すものは、生者に生きる力を与えることがある。

08 魅力的な人物は語り継がれる。

01 自分が残したものを生きている人に活用して欲しい。

04 人類に大きな影響を与えるモノを残した人は偉大である。

死して残さない美しさ

C3 立つ鳥跡を「残さず」の精神は、日本の美意識である。

A6 はかない世に何も残さず去ることも日本の美意識である。

22 死体は灰にして海に流して欲しい。

20 謹行無常のこの世の中で残せるものは何もない。

21 何も残さないことをキレイだと思える感覚は日本的である(ワビサビ)。

世界は流れ行く

C2 理想となる基準を持って環境を整備せねば、あらゆる事物は時間の洗礼に耐えられず、正道が見失われる。

B3 残すか否かの基準を認め、環境を整えることが次世代の理想社会のためになる。

A4 次の世代へ理想の社会を残すためには、残すか否かの基準が必要である。

17 意志をもって何かを残すときは、できる限り環境を整えてやらなければならない。

19 住みやすい社会を残したい。

18 残すものが将来・未来の負担にならないようにする観点を確立したい。

B2 文化的、社会的産物はとりまく世界のありようによって、自然にその姿を変える。

16 人間の営みは、放っておけばそれなりのところへ向かっていく、なるようになるのでは？

11 何が残るのは、その時の状況や対象物(残る物)の性質による。

12 残ったとしても時代の流れにより形骸化してしまう可能性がある。

残「す」「る」の違いを知れ

07 「残すこと」と「残ること」は同じではない。

尊い命の出会い

C1 多くの人と出会うことで命こそ得難く尊く同じ重さを持つものと知れ！

A3 命とは、得難く尊く同じ重さを持つと体で知れ。

15 一生は短いので、出切るだけ多くの人と出会いたい。

10 一度しかない命は得難く尊いものである。

13 人の命も自分の命と同じ重さを持っていることを知らなければならぬ。

残された私

06 昔の人が何も残していないければ、今の自分は存在しない。

- 20030808 Fri.
- JAIST 知識棟5F コラボレーションルーム2
- 笠瀬秀一郎、柿谷宗明、津田頭一郎、藤原祐介、鱸裕子、寺朱実、羽山徹彩
- ラベル集め及び表札作り：同上
シンボルマーク：柿谷宗明
図解化：柿谷宗明
- JAISTインターンシップ研修
- インストラクター：三村修
電子化：三村修

死して何を残すのか？

残したいのはなぜ？

死に残る美しさ

尊い命の出会い

死に残す笑顔

世界は流れゆく

残された私

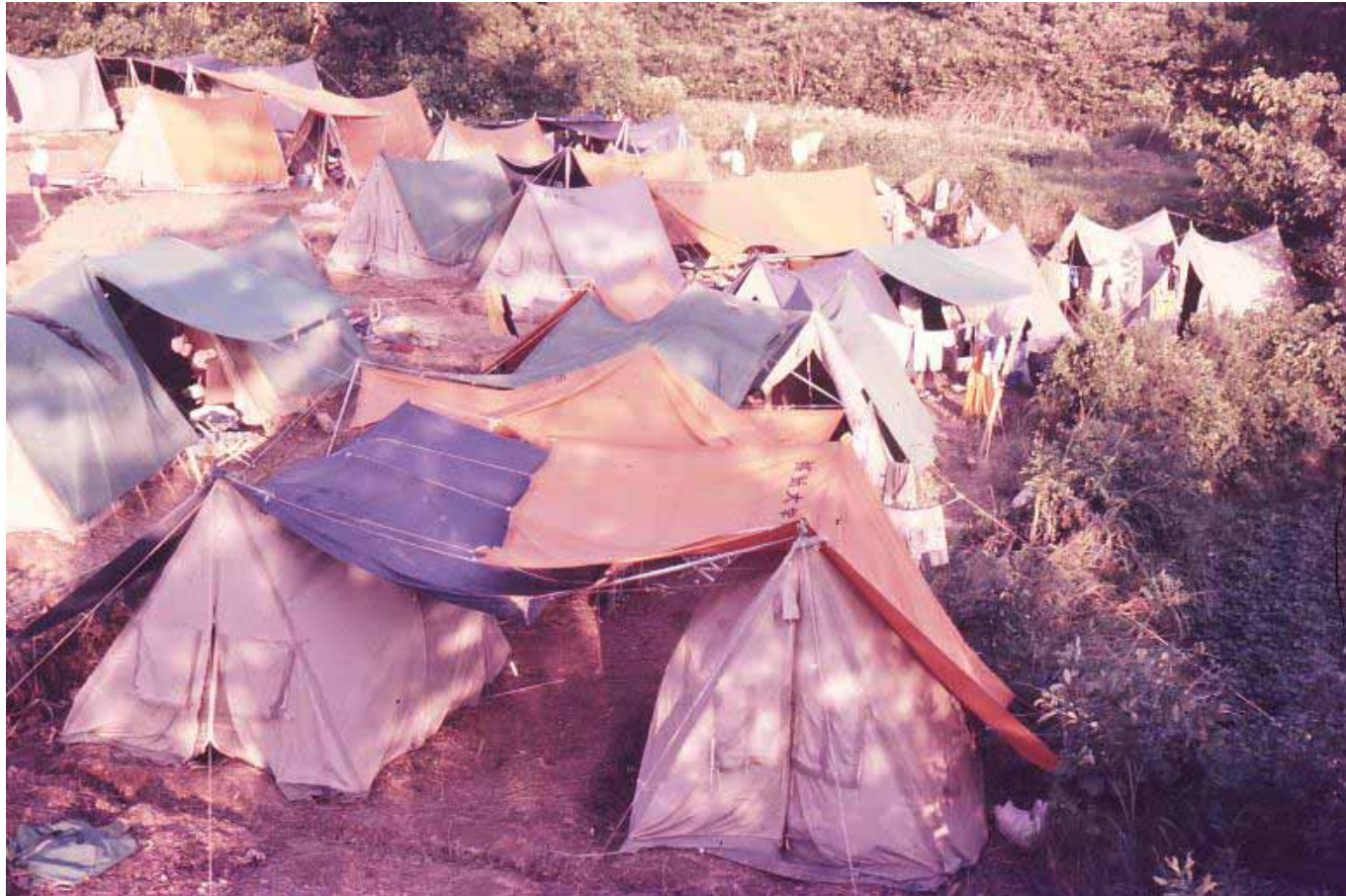
偉業の情念

「残す」と「残る」のの違いを知れ

- (1) 2003-8-8
- (2) JAIST 本館 5F 5F
- (3) 笠原 幸一 柿谷 定明
寺田 頭一 藤 裕
寺 宗 美 山本 外 武 男
羽山
- (4) 柿谷 定明

城辺移動大学(1971年夏)

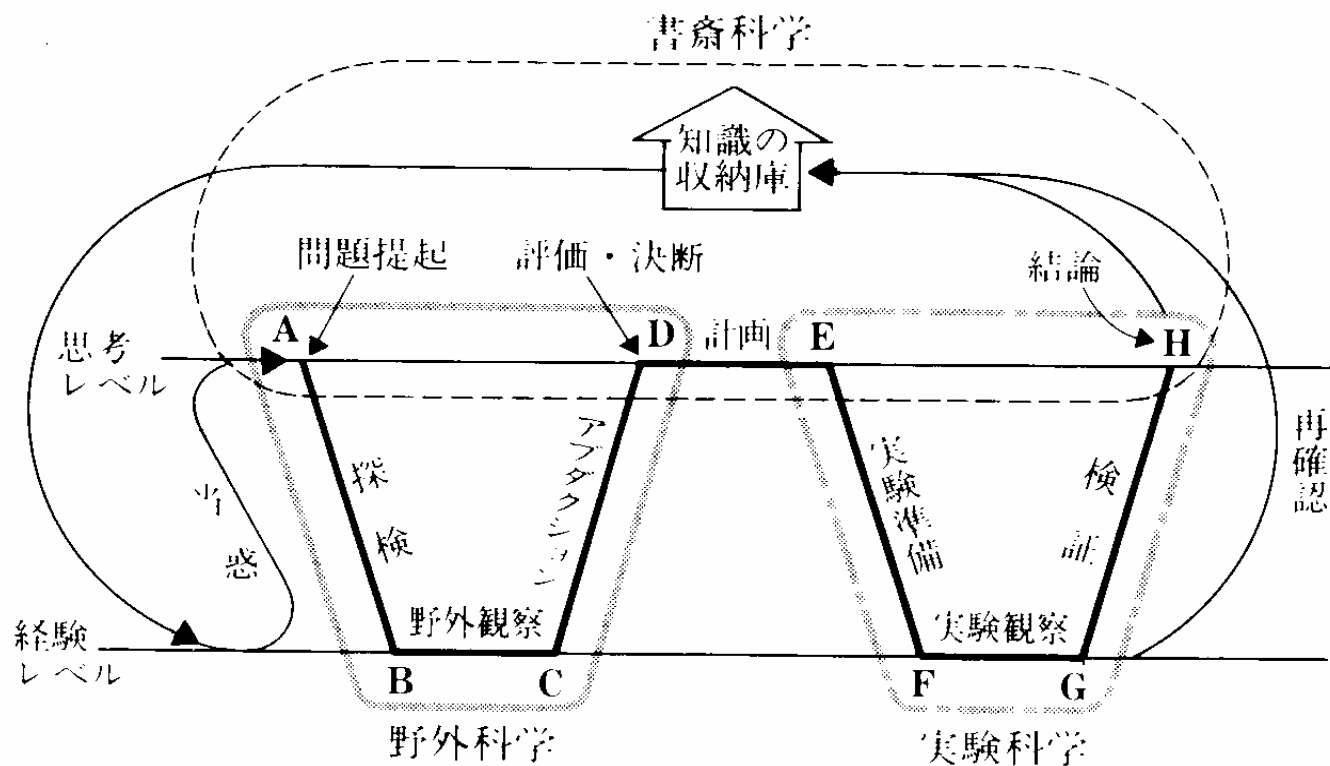
大学に失望
方法論を求めて
KJ法初体験 23歳



移動大学とKJ法

- 一九六九年八月、大学紛争がキッカケで、私は移動大学というものを始めた。そしてこの移動大学ではFWとKJ法がその背骨をなしている。
- 10回以上もの移動大学セッションの経験、そして何十回も開いたKJ法研修道場の経験が、またKJ法と野外科学の方法論に進歩改善をつけ加えた。

W型問題解決モデルに沿って



第3図 W型問題解決モデル

匠 = 6ラウンド'累積KJ法

- データ処理法でありながら、人の内面を深化させるものは、他に見当たらない。
- 6ラウンド'累積KJ法の認識プロセスと、匠の世界の認識プロセスは同じだと思われる。
『「わざ」から知る』生田久美子著 認知科学選書 14 (東京大学出版会、1987)を読んで。
- ラウンド・ゼロ: 研究をするために必要なことは、知識獲得である。知識の収納庫が空に近い学生は、関連研究やそれに類する知識を文献から得たり取材したりして関係的に(知る わかる)身につけることが先決である。これなくしてラウンド・ワンの問題提起はできない。KJ法は、分野の垣根を超えた関連的(川喜田は座標軸的といっている)知識獲得にはうってつけである。学生さんには広範な知識獲得のためにKJ法を活用することをすすめる。

テントの中



問題提起ラウンド…これをもとに現地取材行



取材行(一泊二日)

(高知県と愛媛県の境の山中)



いまだに
KJ法に
こだわって
いる
最大の理由

愛媛県一本松町高知県宿毛市 組合立 篠山中学校



校長先生

状況把握ラウンド

KJ法個人作業中(100枚)

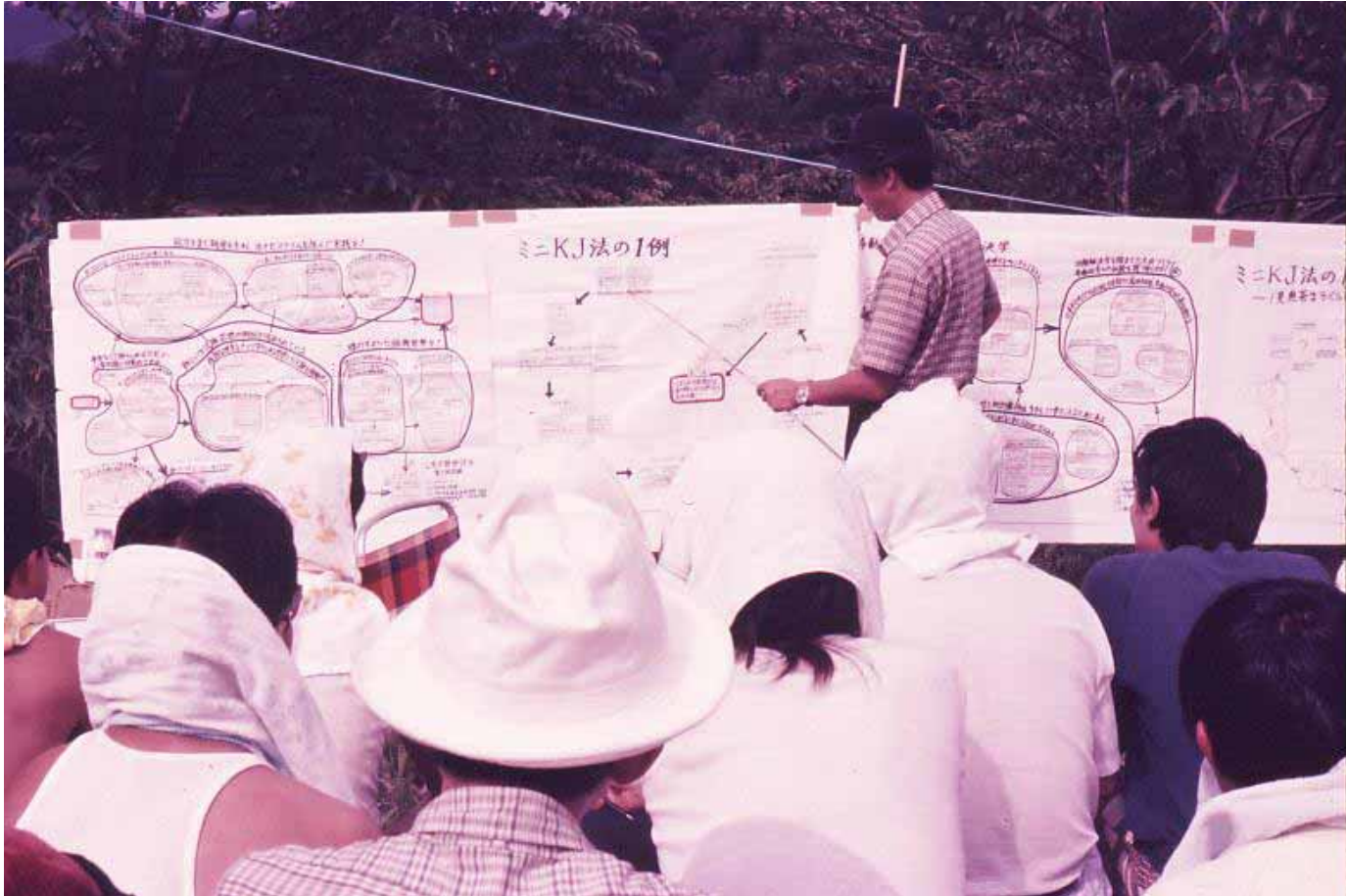


タンザニアのチンパンジーの研究者:故 和崎洋一先生
取材は<テンベア>からと教わった



<テンベア>
とは、
スワヒリ語で
<ぶらぶら歩き>
という意味

KJ先生の野外講義(表札づくりは難しい)



赤き血のイレブン・サロンによく見えたKJ氏

…裸が私



夜景



KJ氏 最後の晩の講義



今でも
きのうの
ことのように

謝 辞

1971年夏の四国移動大学で初めてKJ法を体験した。
生活に慣れてきたころ、川喜田先生のテントを訪問した。
テントの中を覗いたときの先生はKJ法作業の真っ最中であった。ラベル操作がインストラクターから教わったのとは違っていた。めまいにも似たショックを感じた。いまだにこのショック感は鮮明である。
これが本シミュレーションをつくる最初のきっかけであったと今にして思える。
移大後、川喜田研究所の研修を数多く受講し、また手伝いなども含めて創始者の生のKJ法を体感する機会が多くあった。覚えの悪い私であったが、どんな質問にも真剣に答えてくださった。手伝いをしていたある晩、世界情勢の話を一時間以上にわたってお話くださった。たった一人の聴衆であったにもかかわらず、本番さながらの講演会となった。あの感動はうすれることがない。先生の本懐がわかるからこそ、誤ったKJ法のひろがりには心が痛むのである。
また、KJ法作業はひとが本来的にもっているロゴスとトポスの一体性を野生のごとく呼び覚ますものである。このことは、KJ法はひとを育てるという稀有な技法でもあるということである。
本シミュレーションが正則なKJ法の普及に役立つことを念じつつ、KJ法創始者である川喜田二郎博士に捧げたい。

筆者 & KJ法略歴

- **個人略歴**

1948年 大阪生まれ

1971年 国立茨城大学教育学部卒業

1971年～2001 横浜市立中学校教員

2005年3月 北陸先端科学技術大学院大学卒業

- **KJ法略歴**

1976年 川喜田研究所KJ法友の会会報初代編集長

川喜田研究所主催研修会新旧全コース参加(唯一)

1997年 KJ法学会副委員長

1998年 KJ法学会委員長

1999年 経験交流会委員長

1999年: 創造学会(ハイテク交流センターにて開催)
パネリスト(創造性教育の現場からの視点から)

2005年: 創造学会「KJ法学習の躰き」発表

- **<移動大学>**

1971年: 城辺移動大学 = 参加

1977年: 富士移動大学 = 企画運営委員・インストラクター

1998年: 鳥海山移動大学 = 企画運営委員・インストラクター

1999年: 月山移動大学 = 研修リーダー・インストラクター

KJ法 & 周辺技法インストラクション(近年)

- 1998 川喜田研究所主催:鳥海山移動大学(企画、インストラクター)
- 1999 同上:月山移動大学(企画、研修主任、インストラクター)
- 200304~200407 (月一回・計28日) 早稲田KJ研究会
- 20030804~08 JAIST インターソシup学生対象 8名
- 2003080815-17 「成功の宣言文240」研究会 JAIST近藤教授Mrマガ
- 20040314 「わかりあう技法講習会」小学3年生~大人(テニスコーチ) 75名
- 20040506~07 「定性情報研究会」
- 20040611~12 「定性情報研究会」
- 20040827 グループ創造技法研究会
- 20040828 グループ創造研修会の有志 15名
- 20041125 平成16年度東海・北陸地区
国立大学法人等教室系技術職員合同研修
- 20041128 JAISTオープンセミナー 33名
- 20041205 同フォローアップ研修 10名

- 2005年4月より、「三村創造技法研究所(仮称)」開設:KJ法普及